

令和7年度

(2025年度)

事業報告書

社会福祉法人 北星会

【年度総括】

令和 7 年度は、3 年毎に実施される介護保険制度改正の中間年度であり、国においては令和 9 年度の制度改正に向けた議論が本格化する一方、介護人材の不足や物価高騰に伴う収支の悪化は依然として解消されていません。

こうした状況を踏まえ、政府は「医療・介護等支援パッケージ」として、賃上げや物価高騰対策等を盛り込んだ補正予算を令和 7 年 12 月に成立させました。また、本来なら令和 9 年度に実施予定であった介護報酬改定についても、令和 8 年度に臨時で実施されることが決定し、賃金改善や物価高騰への対応について一定の歯止めがかかる見通しとなりました。

北星会においてもこれらの国及び都道府県の支援策をフルに活用することで、課題となっている職員の賃金改善等を行ったところです。

また、人材確保については、ここ数年北星会においても最重要課題となっており、法人や各施設・事業所からの求人、各種就職説明会への出展、求人情報サイトの活用など、今までの採用活動に加えて、本年度は法人独自の制度として、職員からの紹介により採用に繋げる「職員紹介採用制度」を新設して取り組んできましたが、依然として十分な人員を確保できない状況が続いております。

各施設・事業所のサービスにおいては、昨年度に引き続き各種補助金を活用した ICT 化を進めるとともに、業務内容の明確化と役割分担を徹底することで、業務改善の取組を一層強化し、国が推進する生産性向上に繋がるよう努めました。

新たな事業の参入については、昨年度より準備を重ねていた子ども第三の居場所事業として、「みやづ子どもサポートセンターぽけっと」の運営を宮津市の委託事業として開始し、さまざまな課題や困難を抱える子どもたちの居場所として活用されています。

令和 7 年度の決算につきましては、事業活動収支での収入が、前年対比で 103.2%（介護保険事業収入は前年対比で 103.0%）となり前年実績を確保することができました。支出につきましても前年対比で 102.7%と、収入の伸び率の範囲内に抑えることができたため、事業活動収支差額は、約 172,000 千円、前年対比で 109.4%（約 14,000 千円増）となり、一定の成果を上げることができましたが、施設・事業所によっては収支金額に差がみられ、今後の経営に課題を残す結果になっております。

このような状況の中、従来の延長線上の経営ではなく、将来を見据えた計画的な経営が必要であることから、法人全体の現状を整理し、課題を明確にしたうえで、今後の方向性と具体的な対策を示し、安定的かつ持続可能な経営基盤を確立することを目的とした「北星会中期経営計画」を策定し、3 月の理事会で承認を得たところであります。

今後は、「北星会中期経営計画」に基づき、北星会の将来像を描きながら安定した経営基盤を築くことで、地域福祉の更なる発展に貢献して行きたいと考えております。

【重点目標への取り組み】

令和7年度基本目標、重点項目への取り組みと進捗

基本方針	重点項目	進捗
① 誰もが暮らしやすい地域づくりに貢献します。	ア. 地域の実情に応じた柔軟な取組	地域の清掃活動・文化祭をはじめとする地域イベントへの積極的な参加を行いました。
	イ. 自立支援・重度化防止の推進	介護予防プランの作成では、自立支援・重度化防止に重点を置き、介護予防・総合在宅支援総合事業にてフレイル予防も見据えたサービスの提供を実践しました。
	ウ. 医療と介護の連携	施設単位で締結している協力医療機関に関する協定書の内容を双方で確認することで、更なる連携の強化を行いました。
	エ. 認知症対応力の向上と高齢者虐待防止の取組	施設での委員会活動や施設内外の研修により、認知症対応力を高めるとともに、高齢者虐待防止法を基本とした指針・マニュアルを基本とした取組を実践しました。
	オ. 他法人との連携による情報の共有	社会福祉法人同士が協働し連携を深めることを目的とした社会福祉法人との連携事業（宮津市社協が事務局として活動）に参加することで、法人間の連携を行いました。
	カ. 北星会SDGs宣言の検証	提供サービス、職場環境、雇用、労務等を通じて目標達成に向けて取り組む中、項目ごとの検証までには至りませんでした。
② 地域の福祉ニーズに目を向け、新たな福祉サービスの創造に努めます。	ア. 利用者本位を主としたケアマネジメントの実践	例年どおり、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、本人・家族の意向を尊重したケアマネジメントを実践しました。

	イ. I C Tを活用した質の高いサービスの提供	昨年度に引き続き、府の生産性向上・人手不足対策事業費補助金を活用したI C T機器を新たに導入（お掃除ロボット、チャットアプリ、リフト等）し、更なるサービスの向上を実践しました。
	ウ. 感染症や災害に対する対応力の向上	施設内研修やB C P（事業継続計画）訓練を行うことで、職員1人1人の対応力を高め、感染症や災害でも事業継続が可能となるよう努めました。
	エ. 高齢・障害・児童の垣根を超えたサービスの実施	子ども第三の居場所事業（みやづ子どもサポートセンターぽけっと）を宮津市の委託事業として9月より開始しました。
	オ. スケールメリット等による効率的な運営体制の構築	事業、業務、システム等、様々な視点で取組む議論になっているものの、具体的な体制の構築には至りませんでした。 物品等の一括購入についても一部実施していますが、今後更なる検討が必要と考えます。
③ 北星会の職員が感謝の念と謙虚な気持ちを忘れず、誇りと喜びをもって仕事に取り組むことにより、自己実現を果たせる職場環境をめざします。	ア. あらゆる制度を活用した働きやすい職場環境の整備	育児時短就業給付金を活用して育児休業明けの勤務を推進するなど、職場環境の整備に努めました。
	イ. 適正な職員評価と処遇改善の充実	前年度より法人独自の人事考課制度を導入し、内容の見直しと修正を行いながら、適切な職員評価に努めました。 処遇改善については補助金等を活用した賃金改善を実施しました。
	ウ. 福利厚生の充実	職員用の借上げ住宅による住宅費の支援をはじめ、資格取得に対する費用支援など、法人独自の福利厚生の実施に努めました。

法人本部 事業報告

【令和 7 年度 法人本部事業総括】

社会福祉法人における法人本部は、法人全体の経営を統括し、各施設・事業所が安定的かつ適切に運営できるよう支えることが任務と捉え、令和 7 年度も総務課、財務課、事業課が様々な方面でサポートに努めました。

その中でも、令和 7 年度は会計・財務業務と介護保険請求業務について本部にて統一、集中管理を行い、各拠点の業務負担の軽減を行うとともに、法人全体の収支状況・財務状況を迅速に把握することで、法人運営の強化に努めました。

また、福祉業界において最大の課題である人材確保については、ハローワークへの求人をはじめ、各種就職説明会への出展、求人情報サイトの活用のほか、本年度は職員の紹介により採用に繋げる「職員紹介採用制度」を法人独自の新たな制度として取り組んできましたが、依然として十分な人員を確保できない状況が続いています。

職員に対しては、国の補正予算に基づいた処遇改善等事業費補助金による賃金改善の実施と新年度からの基本給ベースアップを行うとともに、法人独自の人事考課制度については見直しと改善を行うことでより精度を高めました。更には既に導入している人事労務ソフトを活用して、職員向け情報紙「ぼらりす」の発刊、当該ソフトにおいて職員間で共有するほか、法人内での連絡ツールとしてフル活用することで職員への情報量を増やすことに努めました。

法人経営に対する取組では、安定的かつ持続可能な経営基盤の確立を目的とした「北星会中期経営計画」を策定しました。「北星会中期経営計画」では、各拠点がそれぞれの指標に基づき財務状況や経営状況を把握・評価した上で、課題と対策を記しています。今後、「北星会中期経営計画」を実践することで、将来の経営安定化に努めていきたいと考えております。

【重点目標への取り組み】

令和 7 年度 重点項目への取り組みと進捗

重点項目		取組と進捗
ア. 既存事業の安定運営 と新規事業の運営	子ども第三の居場所づくり事業の受託運営	宮津市の委託事業として協議を重ね、9 月に「みやぶ子どもサポートセンターぼけっと」の運営を開始しました。
	共生型サービスの推進	天橋の郷短期入所による共生型サービスを本格化しつつ、他の拠点での新たな共生型サービスの導入を検討中です。

	保険請求業務の一本化等業務の効率化	保険請求業務を本部事務局で一本化、集中管理することで、各拠点の事業実績や収入状況、経営状況の把握がより迅速になりました。
イ. 職員就業環境の向上	法人独自の人事考課制度の運用・推進	令和 6 年度を試行期間として運用開始後、必要な修正・追加を加えながら運用を継続。完成には至っていませんが、更なる修正を継続中。
	納得感のある賃金制度・就業環境の整備	国の補正予算を活用した賃金改善を検討し、令和 8 年度からの基本給ベースアップと諸手当の一部を増額したものの、賃金制度・就業環境の見直しには至りませんでした。
	様々な手段による介護人材の確保	ハローワーク等の就業支援機関や民間の求人サイトを活用するほか、法人職員による紹介採用制度を制定するなど様々な手段による人材確保を実施しましたが、必要な人員確保に至っておりません。 現在、外国人も含めた幅広い雇用を検討中です。
ウ. 将来を見据えた経営の安定化	経営計画の実践と更なる検討	経営計画の策定はできましたが、完成が令和 7 年 3 月になったため、計画の実践は令和 8 年度となりました。
	経理事務の統一化による収支の管理	経理事務を統一し、本部事務局で一元管理することで、より迅速な収支の管理を行いました。
	事業費・事務費の効率的執行	一部の物品については、法人で一括購入するなど、事業費・事務費の効率的な執行を実践しましたが、食材料の一括購入等は実施できず、課題が残る結果となりました。

○ 総務課

令和 7 年度は、人事・労務・給与の安定した業務遂行と、労務管理、勤怠管理のシステムの更なる活用を進め、手続きの効率化を進めてきました。

労務管理システム（スマート HR）では、システムの活用により、年末調整業務を効率的にかつ円滑に実施することができました。また、給与辞令や職員への文書についてシステムを活用することにより、対象者全員へ確実かつ迅速に交付および周知することができました。

また職員への情報ツールとして、職員向け情報紙「ぼらりす」を発刊し、公私にわたって様々な情報を発信することで、職員との繋がり強化に努めました。

1. 人事・採用・労務・給与関係

- ① 労務管理における各種申請について労務管理システム（スマート HR）を活用し電子申請を行うことで効率化を図りました。
- ② 勤怠管理システム（クロノス）を活用し、年休・時間外の集計表を行い、各拠点の年休取得推進、時間外勤務の削減等の効果や状況を確認し、情報共有を行いました。

2. 規則規程関係の整備

- ① 通勤手当額等、給与規程の一部改定および育児・介護休業法の改正に対応するため、規則の一部改定を行いました。
- ② 各拠点へ変更内容の周知を行い、規則綴りの更新管理を行いました。

3. 広報活動の充実

- ① 広報誌「きらめき」の年 2 回発刊と、直近の情報をお伝えできるよう、増刊号の発刊を 2 回行い、地域の方や求職者に法人の取り組みや魅力について広く知ってもらえるように努めました。
- ② 人材の獲得のための広報活動（ホームページ、インスタグラム等の SNS を活用した求人情報発信）を事業課とともに進めました。また、特定職種における人材確保に向け、特設ウェブページの作成や新聞折り込みチラシを作成・配布することで、求人情報の周知拡大に取り組みました。

○財務課

令和 7 年度は、経理事務の本部統合による業務改善の初年度ということで、事務処理の一極化による経営効率化を図り、具体的な業務の集約を進めました。

また、毎月の収支・財務状況を拠点毎に把握するとともに、その内容を施設長会議で報告することで、他拠点も含めた情報を法人全体で共有する体制を継続し、経営基盤の強化に努めました。

1. 会計処理業務の見直し等

- ① 令和 6 年度決算の精査及び令和 7 年度補正予算の試算、並びに令和 8 年度予算を作成しました。
- ② 本部と各拠点が連携した業務集約を実施し、作成した会計処理方法に係る経理事務マニュアルを実践しました。
- ③ 経理事務の本部統合として、法人一括による介護報酬請求事務及び法人全事業の資金収支管理を実施しました。

2. 経営分析

- ① 法人全体の資産・負債・純資産額を把握し、社会福祉充実算残額の計算と共に、法人の経営状況の把握に努めました。
- ② 各拠点の収支及び財務状況の把握・分析を行い、施設長会議で報告することで、経営状況の共有に努めました。

- ③ 法人全体の経営状態について、令和 6 年度に行った現状把握及び課題の抽出をもとに、中期経営経計画（5 か年計画）の策定を行いました。

3. 情報開示

- ① 法人ホームページ及び財務諸表等電子開示システムを通じて、令和 6 年度決算の状況を開示しました。
- ② 財務諸表等電子開示システムを通じて、令和 6 年度社会福祉充実残額および社会福祉充実計画を開示しました。

○ 事業課

1. 子ども第三の居場所（みやづ子どもサポートセンター）事業

令和 7 年 9 月より、様々な課題や困難を抱える子どもの居場所づくりとして、B&G 財団からの助成を受け、宮津市の委託事業として子ども第三の居場所（みやづ子どもサポートセンター）を天橋園地域交流スペースにおいて開設しました。

1 日 5 時間の週 3 回（月水金）開設し、日常での生活習慣の習得、学習支援、社会体験、相談体制の構築、食事、入浴、送迎等を行いました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和7年度						23	22	18	23	27	21	25	159



2. 北星会における公益的な活動

社会福祉法人との連携事業（宮津市社協が事務局として活動）に参加して、他の社会福祉法人が抱える課題を共有、意見交換を行いました。

また、合同の職員研修会を開催し、法人の職員も参加することができました。災害対策や採用活動の連携については引き続き検討していきます。

3. 栗田小学校放課後児童クラブ事業

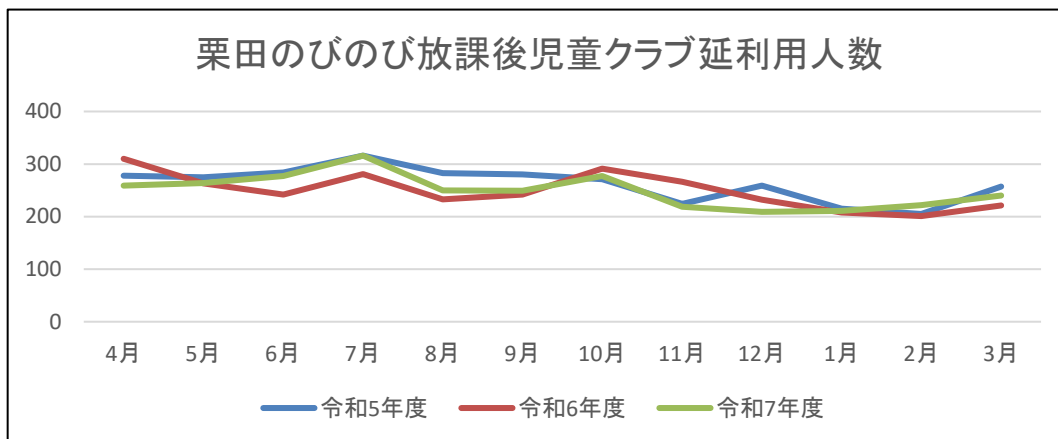
令和 7 年度の栗田のびのび放課後児童クラブは、利用児童数は令和 6 年度と比べて延べ人数で 3 名増加となりました。令和 8 年 3 月 31 日現在の登録者は、23 名となります。

8 月には、天橋の郷通所介護のご利用者との交流会（グランドゴルフ、ブルーベリー収穫）、天橋園の地蔵盆に参加し、多世代が交流できる機会をつくりました。

○学年内訳

通年 1 年 3 名 2 年 4 名 3 年 3 名 4 年 8 名 5 年 3 名 6 年 2 名

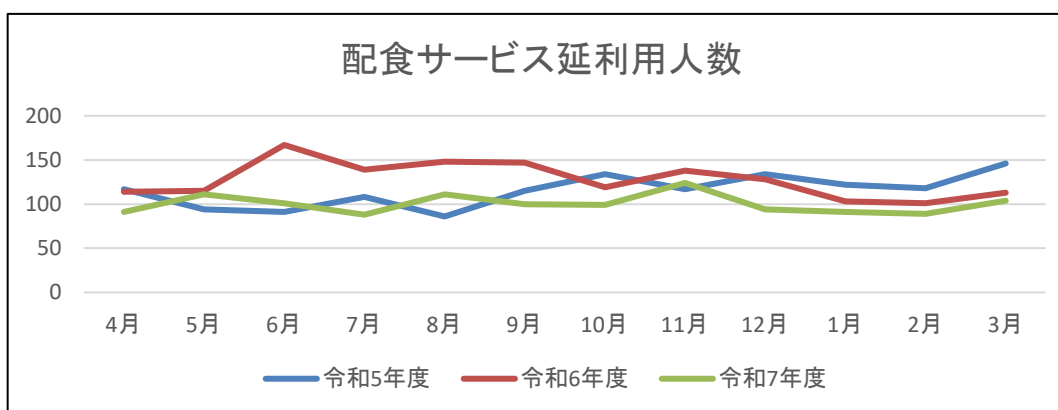
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度	278	275	284	316	283	280	271	224	259	215	205	257	3,147
令和6年度	310	263	242	281	233	242	291	266	232	208	201	221	2,990
令和7年度	259	264	277	316	250	249	277	219	209	211	222	240	2,993



4. 配食サービス事業

令和7年度の宮津市配食サービス事業は、令和6年度と比べて、329食減少しました。令和7年3月31日時点の登録者は、栗田地区11名、由良地区8名の合計19名となります。今後も継続して栗田、由良地区高齢者の食を支えていきます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度	117	94	91	108	86	115	134	117	134	122	118	146	1,382
令和6年度	114	115	167	139	148	147	119	138	128	103	101	113	1,532
令和7年度	91	111	101	88	111	100	99	124	94	91	89	104	1,203



5. 北星会法人研修事業

令和7年度法人研修は、eラーニング研修の活用を中心に各拠点で施設内研修、法定研修を実施しました。管理職研修については、北星会キャリアパスの見直しと共に検討していく予定です。

6. 職員採用活動

令和7年度の北星会職員の採用活動については、主に新卒求人に関して就職ナビサイトを活用していますが、実績は上がりず、今後の運用を検討する必要があります。

中途採用の求人はハローワーク及び付随する就職説明会において、一定程度の採用に繋がっています。しかしながら、専門職の採用は応募が少なく厳しい状況にあります。

○新卒職員採用実績

職 種	計 画	実 績
介護職	4 名	0 名
相談員	2 名	0 名
事務職員	1 名	1 名
リハビリ職員	1 名	0 名
看護師	1 名	0 名
管理栄養士	2 名	0 名
歯科衛生士	1 名	0 名

○中途職員採用実績

職種	対応人数	見学	採用
介護職員 (臨時職員含む)	26 名	6 名	13 名
介護補助員	2 名	0 名	0 名
看護師	1 名	1 名	0 名
調理	8 名	3 名	3 名
管理栄養士	3 名	3 名	1 名
訪問介護	1 名	0 名	0 名
介護支援専門員	1 名	0 名	1 名
児童クラブ支援員	2 名	0 名	0 名
サポートセンター支援員	1 名	0 名	1 名
送迎員	2 名	0 名	2 名

※中途職員採用に関しては、就職フェアの参加、ハローワークへの求人活動を行いました。

総合在宅支援 天橋園 事業報告書

【年度総括】

令和 7 年度は、前年度に実施された介護報酬改定（介護保険制度改正）に沿った様々な取組が十分に機能し、サービスの向上に繋がっているかを確認しつつ更に推し進めることで安定した事業運営を実現する年として進めてきました。しかしながら十分な成果を上げることができず、今後の運営に不安を残す 1 年となりました。

総合在宅支援天橋園は、居宅介護サービスの集合体であり、日々の利用実績が事業所の収支に大きく影響します。より多くのご利用者に継続して利用していただくための方策を常に考え、実行することでその目的が果たせますが、令和 7 年度は十分でなかったと言わざるを得ません。

今後の事業運営に不安を残さないためにも、ご利用者から選ばれるよう日々工夫を凝らした事業運営、サービス提供が行えるよう更なる努力が必要であると考えます。

そのような厳しい 1 年でありましたが、令和 7 年度はリニューアルオープン以来実施できていなかった「施設見学会」を開催することで地域の方と直接ふれあう機会を持つことができ、たくさんの方から各事業所への感謝の声をいただくことで、改めて地域における天橋園の役割を認識しました。また、天橋園をもっと身近に知っていただくことを目的とした天橋園地域貢献 PR 委員会の活動では、宮津市が主催する子育て応援フェスタ「はぐフェス」への参加なども行いました。

各事業所での取組みは、前年度に引き続き「生産性向上」への取組を実施したほか、職員研修については、オンデマンド配信の研修システム（e ラーニング）の活用が定着し、職員個人ごとのスキルアップを実施しました。

令和 7 年度の実績が低迷に終わった事業所については、その原因を追究し、適正な対策を講ずることとし、法人が策定した「中期経営計画」にも明記し、令和 8 年度以降確実に実行に移すことで、経営基盤の安定に繋がるよう職員が一丸となって進めて行くこととします。

【年度目標に対する成果】

中長期目標	今年度目標	成 果
1. 「地域共生社会」の実現に向けての支援	① オレンジカフェを受託運営し、地域の方々の介護予防・フレイル予防に努めます。	上宮津地区において、地域代表者との事前協議に基づいたカフェを実施し、認知症に関する講座、レクリエーション等を行いました。
	② 近隣の幼保・小中学校での福祉教育や自治会での学習会に講師を派遣し、認知症ケアに対する理解をより多くの人々に広めるよう努めます。	認知症サポーターキャラバンメイトでの出張講座を宮津小学校で実施。児童たちに認知症ケアに対する理解を広める活動を行いました。

	③ 子ども第三の居場所の運営に協力し、天橋園ご利用者と第三の居場所利用児童、生徒との良好な関係性づくりに努めます。	宮津市の委託事業である「みやづ子どもサポートセンター ぼけっと」が 9 月から開始されましたが、天橋園との合同行事等は実施できませんでした。
2. 求められるニーズに対応した良質で安全・安心なサービスの提供	① ご利用者アンケート等を実施し、ニーズの把握に努めます。	満足度調査を実施することで、利用者ニーズの把握を行い、利用者本位のサービス提供に努めました。
	② ご利用者に様々なメニューを提供、また、サービスご利用時に趣味活動を実践していただける仕組みを作ります。	利用者が自ら希望する活動を選択できる「えらべるデイ」など、個々の利用者に沿ったサービスを提供しました。
3. 利用者と地域住民、職員が共に楽しめる施設づくり	① 季節行事開催を地域に伝え、おもちゃ図書館のご利用者等と天橋園ご利用者が交流できるよう努めます。	天橋園おもちゃ図書館のご利用者との交流は実施できず、今後の課題となりました。
	② 地域貢献PR委員会を中心に天橋園合同レクを定期的に開催し、ご利用者同士の交流の機会を増やします。	地域のお祭りや、地藏盆など季節行事は実施しましたが、合同レク実施はできませんでした。
	③ 宮津幼稚園との交流を継続します。	昨年に引き続き、宮津幼稚園の園児によるクリスマス訪問など交流を継続することができました。
	④ 毎月、広報誌天橋園だよりを発行し、天橋園からのお知らせや行事への参加を呼びかけます。	近隣自治会での天橋園だよりの回覧や SNS を活用して様々な事業所情報・介護情報を発信しました。
4. 働き甲斐を感じられる職場環境づくりと将来を見据えた人材育成	① 広報誌の発行、SNS を用いて各事業所の活動を報告することで、事業の透明化を図るとともに職員が誇りをもって楽しく業務に従事できるよう努めます。	広報誌、SNS を用いた事業所の活動報告を行うことで、事業の透明化を図りました。
	② 人事考課制度や研修を実施し、職員それぞれのスキルアップに努めます。	所定の様式による人事考課の実施を行うことで、各職員のスキルアップに努めました。

5. 新たな事業展開と求められる経営基盤の強化	① アンケート等で把握できる各ご利用者からのニーズに柔軟に対応し、必要なサービスを提供できるよう努めます。	施設見学会参加者にアンケートを行い、施設に対する意見や要望を確認しましたが、具体的なサービス方針は今後立てていきたいと考えます。
	② サービスの安定供給ができるよう、職員の適正配置を行い多様な働き方を検討、実現できるよう努めます。	天橋園拠点内の事業所間で職員異動を実施し、一定の適正配置は行いましたが、全体的な人材不足の解消までは至っておりません。

【部門別事業報告】

1. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム天橋の家）

令和 7 年度は、前年度に課題となっていた職員不足の改善に向け、人事異動による職員補充や新規職員の採用により、安全な環境を提供できる体制を整えることができました。

利用者の状況は、高齢化や重度化は年々進行する中、退所者 2 名のうち 1 名は看取り介護を実施することができました。尚、骨折や誤嚥性肺炎による入院者は 3 名であり、例年に比較して少ない状況でした。また、年間の利用稼働率は 99.3%となり、今年度の目標稼働率 99.0%を達成することができました。

サービス面では、ご家族との連絡を密にすることを目標とし、施設でのご様子をより理解をしていただくことで、面会の機会が増え、ご家族との旅行などにも繋がるよう、バックアップ体制を強化することができました。

令和 8 年度は、家族との交流に加え、地域との交流も重視し、地域に根差したサービスの提供を目指して、職員一丸となって取り組んでまいります。

①入居利用者の状況

（ア）稼働率 （入居定員：18 名）

区分 年度	営業日数	延入居者数	空きベッド数	平均入居者数/日	稼働率
6 年度	365 日	6,508 人	62 床	17.8 人	98.8%
7 年度	365 日	6,522 人	48 床	17.9 人	99.3%

（イ）入退所状況（3 月 31 日時点）

区分 年度	新規入居者数	待機者	退所者 合計	施設内死亡 (施設看取り)	施設外死亡	施設移転
6 年度	2 人	29 人	2 人	2 人	0 人	0 人
7 年度	2 人	27 人	2 人	1 人	1 人	0 人

（ウ）地区別 入居状況（3 月 31 日時点）

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
----------	-----	------	-----	-----

6 年度	2 人	0 人	0 人	0 人
7 年度	2 人	0 人	0 人	0 人

(エ) 要介護度別 入居者の状況 (3 月 31 日時点)

(単位：人)

介護度 性別 年度	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
6 年度	0	3	0	5	0	7	1	2	0	0	1	17
7 年度	0	4	0	5	0	4	0	4	0	1	0	18
平均要介	6 年度		2.6		7 年度		2.6					

(オ) 要介護度別 (延入居者数の状況)

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
6 年度	1,474 人	1,468 人	2,756 人	810 人	0 人	6,508 人
7 年度	1,343 人	1,886 人	1,497 人	1,765 人	31 人	6,522 人

(カ) 年度別 (新規契約者の状況)

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	3 人	4 人	1 人	2 人
内 予防	0 人	0 人	0 人	0 人

②加算算定の状況

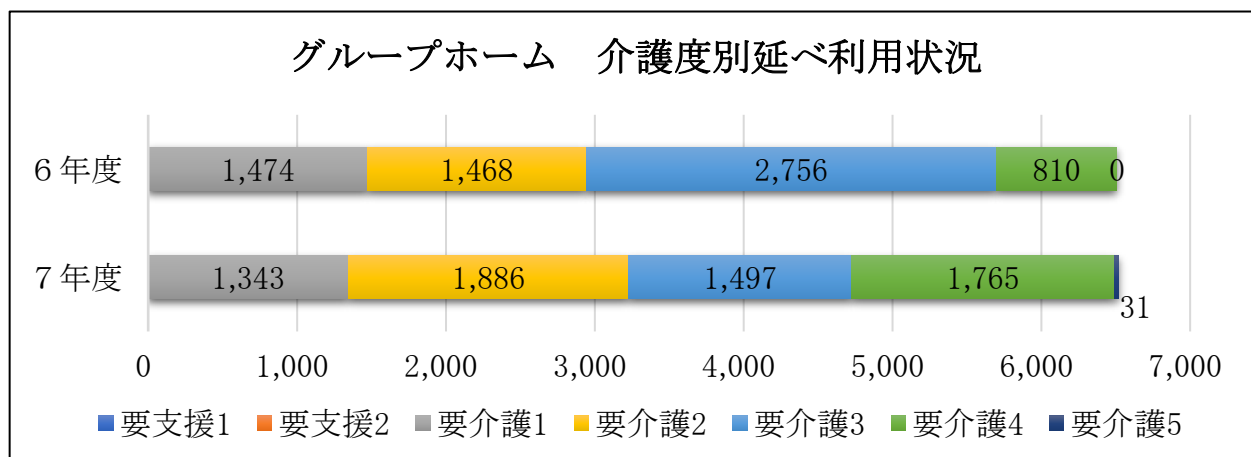
加算項目 (単位)	初期加算 (30)	医療連携 体制加算 I (37)	サービス提供 体制加算 I (22)	協力医療機関 連携加算 I (100)	認知症専門 ケア加算 I (3)	看取り 介護加算 1 (72)
算定延回数(回)	60	6,521	6,521	214	4,022	13
加算収入額(円)	18,000	2,412,770	1,434,620	214,000	120,660	9,360

加算項目	看取り 介護加算 2 (144)	看取り 介護加算 3 (680)	看取り 介護加算 4 (1,280)	生産性向上推進 体制加算 I (100)	科学的介護推進 体制加算 (40)	入院時費用 (246)
算定延回数(回)	27	2	1	217	217	12
加算収入額(円)	38,880	13,600	12,800	217,000	86,800	29,520

加算項目	処遇改善加算 I 等	加算収入額合計
算定延回数(回)		
加算収入額(円)	10,496,340	15,104,350

③その他の収入

項目 年度	家賃	食費 (おやつ代含む)	光熱水費	その他の収入合計
6 年度	11,809,800	10,476,270	4,295,280	26,581,350
7 年度	11,788,200	9,712,500	4,303,860	25,804,560



2. 通所介護（天橋園通所介護事業所）

令和7年度も、引き続き停滞している利用率の向上を重点課題とし、新規利用契約の獲得に向けた取り組みを実施し、空き状況については、毎月、居宅介護支援事業所へ情報発信を行い、周知に努めました。それにより一定の新規利用契約に繋がりましたが、目標の利用率を達成することはできませんでした。

実施したサービスにつきまして、ご利用者が自ら希望する活動を選択できる「えらべるデイ」は好評であり定着していることから、継続して実施しました

また、安全・安心面においては、感染予防対策を徹底することに加えて、ご利用者・ご家族のご協力を得ながら、事業所内での感染流行を防ぐことができました。

① 利用実績

（ア）延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	利用定員/日	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
6年度	25人	257日	4,592人	71.5%	1.81
7年度	25人	259日	4,706人	72.7%	1.82

（イ）要介護度別利用者数の状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未判定	小計
6年度	1,769人	1,317人	414人	297人	259人	4人	4,060人
7年度	1,349人	1,383人	797人	357人	270人	2人	4,158人

（ウ）要介護度別利用者数の状況 介護予防

介護度 年度	要支援1	要支援2	小計
6年度	206人	326人	532人
7年度	242人	306人	548人

（エ）年度別（新規契約の状況）

	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度実績
新規契約	31人	24人	25人	28人
内 予防	3人	4人	4人	7人

② 加算算定の状況（通所介護）

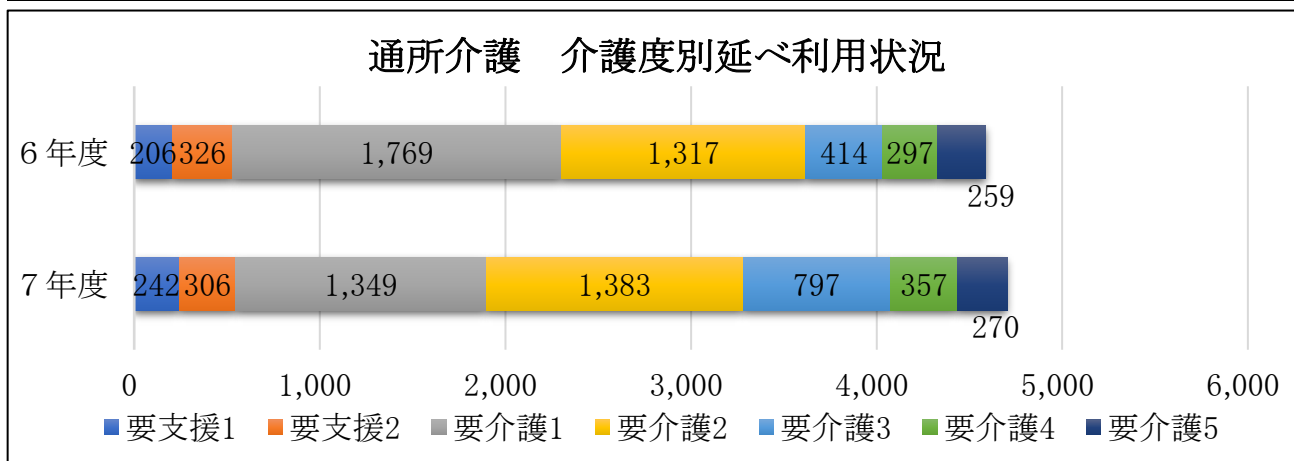
（単位：回）

加算項目 回数金額	個別機能訓練 加算Ⅰ1 (56)	個別機能訓練 加算Ⅰ2 (76)	入浴介助 加算Ⅰ (40)	サービス提供 体制加算Ⅰ (22)	ADL維持等 加算Ⅰ (30)
算定回数(回)	2,228	1,933	4,051	4,161	4,161
加算収入額(円)	1,247,680	1,469,080	1,620,400	915,420	1,248,300

加算項目 回数金額	科学的介護推進体 制加算（介護） (40)	処遇改善加算Ⅰ	加算収入額合計
算定回数(回)	550		
加算収入額(円)	220,000	3,567,210	10,288,090

（予防通所）

加算項目 回数金額	サービス提供 体制加算Ⅱ1 (88)	サービス提供 体制加算Ⅱ2 (176)	科学的介護 推進体制加算 (40)	処遇改善加算Ⅰ	加算収入額合計
算定回数(回)	57	54	111		
加算収入額(円)	50,160	95,040	44,400	297,430	487,030



3. 認知症対応型通所介護（ハウゼ天橋通所介護事業所）

認知症高齢者に対する地域のニーズに少しでも応えられるよう、ご利用者の認知症状の緩和とご家族の介護負担の軽減に努めました。ご利用者には「買い物支援サービス」や「屋外活動支援サービス」など個別対応のサービスを行うとともに、利用時間の調整を柔軟に行うことで、それぞれの家庭事情に対応した利用となり、ハウゼ天橋の利用継続につながりました。

昨年度からは、事業実施地域を宮津市南部地域から宮津市全域へ拡大し、中・軽度の認知症の方を中心とした事業活動に取り組みました。

令和7年度の利用実績については、この実施地域拡大の効果もあり、上半期は予想を上回る実績を残すことができました。しかし、10月以降は独居高齢者の自宅での転倒、持病の悪化、施設入所、死去などが相次ぎ、年間の1日平均利用人数は10.2人に留まりました。

本年度は、1日の個別活動がより活発になるよう取り組み、認知症の方が地域で共生できるよう、ご本人・ご家族を支援してまいります。

①利用実績

（ア）延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
6 年度	12 人	256 日	2,572 人	83.7%	2.64
7 年度	12 人	259 日	2,635 人	84.8%	2.72

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
6 年度	442 人	766 人	691 人	628 人	45 人	2,572 人
7 年度	415 人	814 人	627 人	656 人	123 人	2,635 人

(ウ) 介護度別利用者状況（介護予防）

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	合 計
6 年度	0 人	0 人	0 人
7 年度	0 人	0 人	0 人

(エ) 年度別（新規契約者の状況）

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	10 人	10 人	13 人	13 人
内 予防	0 人	0 人	0 人	0 人

②加算算定件数の状況

（単位：回数）

加算項目 回数 金額	入浴介助 加算Ⅰ (40)	口腔機能向上加 算Ⅱ (160)	サービス提供体 制加算Ⅰ (22)	ADL 維持等 加算Ⅰ (30)	科学的介護 推進体制加算 (40)	処遇改善加算 Ⅰ
算定回数(回)	2,202	6	2,635	261	261	
加算収入額(円)	880,800	9,600	579,700	78,300	104,400	5,421,550

加算項目 回数 金額	加算収入額合計
算定回数(回)	
加算収入額(円)	7,074,350

4. 訪問介護（天橋訪問介護事業所）

令和 7 年度の実績については、サービス提供責任者の減員により利用者数が減少し、身体介護の提供も減少しました。一方で、排泄介助と生活援助を組み合わせた身体生活支援の利用が増加し、結果として生活援助が全体の多くを占める構成となりました。

サービス種類別の延べ提供時間については、サービス提供責任者の減員などから、ほとんどの項目で前年度を下回る結果となりました。

サービス提供においては、常勤訪問介護員の減員により体制が厳しい状況ではありましたが、登録型非常勤ヘルパーの派遣により、追加訪問や新規依頼など多様な要望に迅速に対応することができました。

月 1 回の常勤及び非常勤ヘルパーによる定例会では、e ラーニング（オンデマンド研修）を活用した研修を実施し、介護技術の向上とヘルパーとして必要なスキルの確認を行いました。その中でも奇数月の定例会では、非常勤ヘルパーの希望に応じた個別研修を実施し、

必要な指導・助言を行うことで、職員間の連携強化にも繋がりました。

常勤ヘルパーの不足や登録型非常勤ヘルパーの高齢化など、解決すべき課題は残っていますが、ご利用者のニーズに応えられるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。

①介護度別利用者数の状況及び実働時間

	年度	介護予防サービス		介 護 サ ー ビ ス					障害者 支援	合 計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5		
契約人数(人)	6年度	8	14	25	28	9	8	7	0	99
	7年度	5	11	24	22	7	4	7	0	80
介護予防(h)	6年度	1,273 時間 00 分								14%
	7年度	907 時間 00 分								14%
身体介護(h)	6年度	2,788 時間 00 分								31%
	7年度	1,716 時間 00 分								26%
生活援助(h)	6年度	3,819 時間 00 分								42%
	7年度	2,866 時間 00 分								43%
身体生活(h)	6年度	1,219 時間 00 分								13%
	7年度	1,170 時間 00 分								17%
合 計	6年度	9,099 時間 00 分								100%
	7年度	6,659 時間 00 分								100%

② 加算算定の状況（訪問介護）（単位：回）

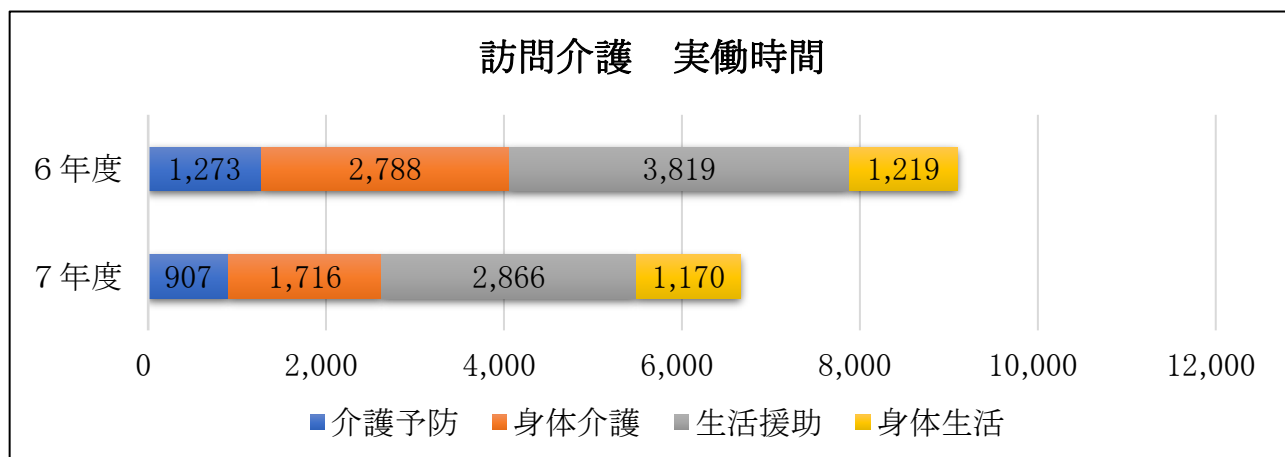
加算項目 回数 金額	初回加算 (200)	処遇改善加算 I	加算収入額合計
算定回数(回)	39		
加算収入額(円)	78,000	5,123,140	5,201,140

（介護予防）

加算項目 回数 金額	初回加算 (200)	処遇改善加算 I	加算収入額合計
算定回数(回)	1		
加算収入額(円)	2,000	667,730	669,730

③ 年度別（新規契約者の状況）

	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度実績
新規契約	57人	35人	36人	28人
内 予防	15人	12人	10人	0人



5. 天橋園居宅介護支援事業所

今年度は職員が1名減となり5名体制での運営となったため、管理件数は減少しました。しかし、要支援から要介護認定へ移行したご利用者についても継続して担当し、包括支援センターとの連携により新規利用者の受け入れも行った結果、目標としたケアプラン作成管理件数を達成することができました。

また、高齢者虐待、精神疾患、徘徊、ゴミ屋敷などの困難ケースについても積極的に対応し、市や保健所などの行政機関、警察、民生委員、近隣住民など地域全体と連携しながら支援に取り組みました。今後も、要支援・要介護認定を受けたご利用者が介護保険を活用しながら在宅生活を継続できるよう関係機関との連携を密にし、支援を継続していきます。

職員の専門性向上については、各職員の個別研修計画に基づき、法定研修や外部研修の参加、他法人との事例検討会、北星会居宅合同会議など積極的に取り組みました。

地域共生社会の実現に向けた取り組みとしては、上宮津地区において事務長とともにオレンジカフェを定期開催（10月・11月・12月・2月、※3月は居宅欠席）しました。茶話会の流れから自然な形で介護相談を受け、包括支援センターへの相談やサービス申請につながるケースもあり、地域課題を共に考える貴重な機会となりました。また、「介護の日」イベントでは施設見学会を開催し、地域住民に天橋園を知っていただくとともに、事業所の専門性を発信する良い機会となりました。

令和8年度は、一人一台タブレットの導入により、ICTを活用した業務効率化、情報共有の円滑化、ペーパーレス化を進めていきます。

専門職としての資質向上のため、今後も各自が目的や目標を持って各種研修や地域ケア会議などに積極的に参加し、迅速かつ丁寧な相談支援を継続していきます。ご利用者・ご家族との信頼関係を大切にし、その人らしい生活が実現できるよう支援する事業所を目指して努めてまいります。

(ア) 内容別相談件数

(単位：件)

内容 年度		介護保険その他 福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
6年度	実数	269	25	8	35	337
	延数	22,254	118	14	1,715	24,101

7 年度	実数	132	2	5	12	151
	延数	17,099	75	13	1,935	19,122

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
6 年度	2,545 人	269 件
7 年度	2,194 人	227 件

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
6 年度	24 人	83 人	998 人	785 人	344 人	207 人	104 人	2,545 人
7 年度	18 人	59 人	832 人	748 人	278 人	155 人	104 人	2,194 人

(エ) 年度別 (新規契約者の状況)

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	100 人	81 人	65 人	40 人

(オ) 加算算定の状況 (居宅介護支援)

(単位：回)

回数 金額	加算項目 初回加算 (300)	特定事業所 加算Ⅱ (421)	ターミナルケア マネジメント加算 (400)	入院時 情報連携加算Ⅰ (250)	入院時 情報連携加算Ⅱ (200)
算定回数(回)	46	2,117	3	42	21
加算収入額(円)	138,000	8,912,570	12,000	105,000	42,000

回数 金額	加算項目 退院退所加算 Ⅰ 1 (450)	退院退所加算 Ⅰ 2 (600)	通院時 情報連携加算 (50)	加算収入額合計
算定回数(回)	8	4	9	
加算収入額(円)	36,000	24,000	4,500	9,274,070

6. 事務

各事業所の収支・財務状況を定期的に確認し、把握した内容を統括責任者および管理者へ適切に共有することで、事業運営に必要な情報提供に努めました。

また、事業所との報連相を確実にし、設備・備品の修繕・更新の検討や職場環境の整備を進めることで、日々のサービス提供に支障が生じないよう環境づくりを支援しました。

これらの取り組みにより、各事業所および職員が安定して業務を遂行し、安心・安全なサービスを提供できる体制の維持に努めました。

7. おもちゃ図書館

令和 5 年度より開始した「おもちゃ図書館」は、地域の皆さまにも徐々に浸透し、来園者数も増加しています。

館内で実施している子ども服のリユース活動も継続しており、利用者が多く好評を得ています。

また、この子ども服のリユースについては、地域貢献 PR 委員会と協力し、12 月に宮津市主催の子育てフェア「はぐフェス」出展して広報を行い、地域との交流促進に努めました。

【おもちゃ図書館来園者数】

項目 年度	来園者数（組）
6 年度	139
7 年度	185

【おもつ等販売】

項目 年度	販売数（パック）
6 年度	1,278
7 年度	1,260

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月 11 日	51 人	年 1 回
腰痛健診	9 月 11 日・2 月 13 日	33 人・40 人	半年に 1 回
深夜業務従事者健診	2 月 13 日	9 人	年 1 回
ストレスチェック	9 月	31 人	年 1 回

【職員研修参加状況】

①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
安全衛生委員会内部研修	30 名	腰痛予防について
感染症委員会内部研修	42 名	感染症について・ガウンテクニック訓練・嘔吐物処理訓練
高齢者虐待防止に関する研修（サクラボ）	15 名	不適切ケアについて・高齢者虐待防止に関する法律

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
地域ケア会議	4 名	昨年度の振り返り・自立支援サポート会議について・調剤薬局の活動について
普通救命講習会	2 名	心肺蘇生法・AED の取り扱い方法等
キャラバンメイト養成講座	3 名	認知症サポーター養成講座運営方法等
宮津市介護支援専門員研修会	14 名	災害への備え・入退院時の連携について等
京都府介護支援専門員実務経験者更新研修〔課程Ⅰ〕	7 名	基本的なケアマネジメント等
京都府介護支援専門員実務経験者更新研修〔課程Ⅱ〕	4 名	ケアマネジメントにおける実践事例の研究及び発表等
スーパービジョンの実践の振り返り	2 名	介護保険制度および地域ケアシステムの動向等
安全運転管理者法定講習	1 名	安全運転管理について
食品衛生責任者実務講習会	1 名	食品衛生学・公衆衛生学・食品衛生法
ゲートキーパー養成研修	4 名	身近な人の悩みに気づき、気持ちに寄り添える話の聴き方
認知症介護実践者等養成研修	4 名	認知症ケアの理念・倫理と意思決定支援
京都府介護支援専門員主任ケアマ	4 名	主任介護支援専門員の役割と視点・人材育成

ネ更新研修		及び業務管理・対人援助者監督指導（スーパービジョン）等
科学的介護情報システム LIFE 説明会	1 名	LIFE の役割と意義・活用プロセス
認知症介護基礎研修	1 名	認知症の人の理解と対応の基本
在宅療養における食支援及び多職種連携	2 名	食支援および訪問事業の取組について

【地域貢献事業】

事業名	参加者数
宮津小学校認知症サポーター養成講座 12 月 2 日	102 名
オレンジカフェ囲炉裏茶や 全 8 回	61 名
はしたて一斉清掃 4 月・12 月	13 名

【実習等受入状況】

月	学校・事業所名	月	学校・事業所名
4	京都府介護支援専門員実務研修	4・5・6	京都府立看護学校施設実習
8	京都暁星高等学校		

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
あめんぼ	朗読・紙芝居	12 回	216 名

【各種会議・委員会開催状況】

会議名	開催回数/年
職員会議	2 回
業務運営会議	12 回
認知症委員会	7 回
虐待及び苦情対策委員会	12 回
安全衛生・感染症委員会	12 回＋ 臨時感染症 3 回
ヘルパー例会	12 回
運営推進会議	6 回
地域貢献 PR 委員会	13 回

与謝の園 事業報告書

【年度総括】

令和 7 年度、与謝の園はユニット型特別養護老人ホームとしての運営体制の定着と充実を図る年度となりました。

令和 7 年度、介護保険事業収入は 597,298,465 円となり、予算額を達成することはできませんでしたが、令和 6 年度比では 28,139,510 円の増収となりました。

長期では、入院による退居者はなく、病院等へ搬送しての死亡は 2 名。施設で亡くなられた方は 21 名、そのうち 15 名の方の看取加算を算定することができました。

実績は令和 7 年度予算、令和 6 年度実績ともに上回ることができませんでしたが、眠りスキャンやインカム等 ICT 機器の活用を推進し、見守り体制の強化および職員間の情報共有の効率化に取り組んだ結果、職員とご入居者との関わりの時間を令和 6 年度よりも多く確保することができました。

マルベリーホールを利用した運動会や卓球バレー大会等のイベントや各ユニットでのリハビリテーションやレクリエーション活動への積極的な取り組みもご入居者の「歩きたい」「動きたい」という意欲を引き出すこととなり、ご入居者同士の自発的な交流の機会も増え、ご入居者それぞれのその方らしい暮らしを実現しつつあります。

今後も ICT 機器を効果的に使用することやレク等の活動を積極的に行うことに加え 24 時間シートを使用してご入居者それぞれの生活パターンを把握したユニットケアの推進に努め、入居者の生活の質向上と職員の業務負担軽減につなげていきたいと考えます。

また、与謝の園で実施する様々な活動を PR 委員会が中心になり SNS 等活用して発信することで、ご家族にご入居者施設でのご様子をお伝えすることができ、施設運営に対する理解が深まったことに加え、施設運営の透明性の向上にもつながり、採用活動にも一定の効果があつたと考えます。

在宅部門。短期入所生活介護事業所は、職員がご利用者やご家族からの様々な要望に応えるよう努めた結果、88.5%の稼働率を確保できました。また、居宅介護支援事業所では職員を 5 名体制とすることができ、両事業所が令和 7 年度予算を達成することができました。

訪問介護事業所は職員体制を強化し、利用件数の増加に努めましたが、予算達成には至りませんでした。

訪問入浴事業所では、令和 8 年 3 月に補助金を利用して入浴車を更新することができましたが、利用者を大きく伸ばすことはできませんでした。

通所介護事業所では、日常のサービス提供に加え、機能訓練として移動販売の利用やスーパーへ出かけるなど買物訓練にも取り組み、ご利用者から要望のあるサービス提供を開始することで好評をいただきましたが、予算の達成にはいたりませんでした。

在宅の各事業所では介護保険事業とは別に障害を持つ方にもご利用いただける体制づくりに努め、与謝野町との契約により障害を持たれる方へのサービス提供を開始しました。

昨年、与謝の園は開設 40 周年を迎え、地域住民の皆様にもご参加いただける与謝の園まつりを開催し、地域とのつながりを深める機会となりました。

防災および感染症対策では、ガスバルク設備等を活用した事業継続訓練を実施。感染対策では外部講師を招いての研修や事業継続訓練を実施し、有事においても安定したサービ

ス提供が継続できる体制づくりに取り組みました。

旧与謝の園の解体につきましては、本部の指示に基づき、与謝野町とも協議を行い完了いたしました。

以上のとおり、令和 7 年度は新施設での運営体制の定着とサービスの質の向上に取り組む、概ね計画に沿った事業運営を行うことができました。令和 8 年度も職員とともにより質の高いサービス提供することにつとめ、予算達成を目指してまいります。

【年度目標に対する成果】

中長期目標	今年度目標	実 績
1. 安定した経営。	- 稼働率を意識しつつ各種加算の算定を含め、安定した保険収入を目指します。 - 訪問、訪問入浴はサービスでは提供を増やす。通所介護では、提供曜日の検討や提供するプログラムの検討を行う。など、利用者ニーズに柔軟に対応できるよう努めます。 - 法人の事務手続き等の統合に伴い、施設での事務手続きが滞ることのないよう、業務分掌の整備を行います。	- 施設長会議にて提供された資料のデータを毎月開催の主任会議で報告。各部署稼働率の確認と、利用向上のための対策を検討しました。 - ご利用者及びご家族を対象としたアンケートを実施し、サービス改善に役立てました。 - 通所では、提供するプログラムに買い物などを含めることで要介護度の低い方の利用につなげました。 - 訪問介護では、職員の増員を行いサービス提供にあたりましたが、同時刻の利用希望に応えることができないことも多く、登録ヘルパーの増員等検討を進めました。 - 訪問入浴では、補助金を利用して入浴車の更新ができました。また、与謝野町との契約による障害を持つ方へのサービス提供を開始することができました。 - 本部の分掌を基に業務に関する分掌を定め業務を進めました。
2. ご利用者の安全と安心を守り、サービスの質の維持向上。	- ご入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じた暮らしの実現を目指します。 - リハビリの実施やレクリエーションの提供を通し、多職種が協働でご入居者の意欲や身体機能を高めることで転倒防止を図ります。 - 眠りスキャンやインカムといった I C T 機器をより効果的に活用し、安心で安全に暮らしていただけるよう努めます。 - 介護、看護、専門職等が連携し、ご利用者の意思と権利を尊重し、安らかに人生を全うしていただける看取りケアに取り組みます。 - 自然災害及び感染症業務継続計画に基づき、研修と訓練を行います。	24 時間シートを利用し、入居者個々の思いや生活リズムを把握。ご入居者らしい暮らしを実現するため、各ユニットでユニットケアのモデルケースやモデルルーム作りを進めました。 - リハビリ専門職員は配置できませんでしたが、マルベリーホールでの活動も含め、体操などのレクリエーション活動を充実させることでご入居者の生活意欲を高めることに努めました。 - 事務職員含めた職員がインカムを利用して連携。また、眠りスキャンやカメラを利用して入居者個々の生活リズムを検証し 24 時間シートを作成。安全、安心に暮らしていただけるよう努めました。 - ご入居者が看取り対応となられた時には多職種が参加して看取り会議を開催。ご本人の身体状況やご家族の思いを共有し、介護、看護、調理、相談、事務を含めた他職種が連携して看取りの環境整備を行い安らかにお過ごしいただけるよう支援を行いました。 - 災害対策においては年 2 回の定期避難訓練と B C P 訓練を実施。感染対策では、外部から看護師を講師として招き、年 2 回の感染対策研修と BCP 研修を実施しました。 - 朝礼時にご利用者や職員の感染状況を報告。施設全体で情報共有と注意喚起、感染者対策の確認を行いました。
3. 地域との関係づくり。	- 近隣小中学校の福祉教育を支援します。 - 隣接するつばきこども園との交流を継続します。	- 例年実施している地域の学校での福祉教育で福祉に興味を持った生徒からの施設実習希望に対応しました。 - 隣接するこども園と定期交流を実施。また、卒園式、入園式には園から見える位置にお祝いメッセージを掲示し、保護者や園職員さんにも喜んでいただきました。

	・桑飼シルクカフェを毎月 2 回、定期開催します。 ・避難施設 ・与謝野町とも協議しつつ、旧与謝の園の跡地利用検討及び躯体の解体を行います。	・シルクカフェは地区を分けて毎月 2 回開催。参加者には毎回楽しみにしていただいています。今後は、与謝地域などカフェが開催されていない方にも参加していただけるよう、対象地域拡大を検討します。 ・現在、敷地内の除雪と敷地内でのゴミ収集は与謝野町に対応いただいています。 ・与謝の園は、与謝野町要支援者避難施設としての役割を担っています。今年度は、近隣自治会との合同避難訓練等の実現を目指します。 ・与謝野町と協議を行い法人本部と連携して進めた旧与謝の園解体は完了しました。
4. 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう支援。	・居宅介護支援を中心に、通所、訪問、訪問入浴、短期入所が連携し、在宅サービスを安心して続けられるよう支援します。 ・在宅サービス事業において共生型サービス提供を開始します。 ・地域交流（マルベリー）ホールで様々なイベント開催やプログラムを提供し、入居者、利用者、家族及び地域の方々との交流の場となるよう計画をすすめます。	・居宅職員を増員し、与謝野町、宮津市からの依頼に対応できるよう努めました。また、通所、訪問、短期入所、訪問入浴との連携により、必要なサービスを適切に提供できるよう努めました。 ・各事業所において障害のある方を受け入れる体制を整備しました。与謝野町との契約により障害を持つ方へのサービス提供を行いました。 ・マルベリーホールでは、相談室が中心となり、体操やクラブ活動、地域ボランティアさんによるイベントを定期的で開催。また、各部署主催のイベントを含め毎日何らかのプログラムが提供できるよう計画を進めました。 ・学校の長期休暇期間等にはマルベリーホールにおいてご入居者がお孫さん等のご家族に囲まれた面会を楽しんでいただきました。 ・与謝の園 40 周年祭りでは、地域の芸屋台披露や支援学校の対大胡演奏、ボランティアさんや職員有志による歌謡ショーを皆さんに楽しんでいただきました。 また、ご入居者とご家族と一緒に写真撮影を行うコーナーを設置、食事を共にする機会も設けご家族の絆つくりにご利用いただきました。
5. 職員が生き生きとやりがいをもって働ける職場づくり。	・生産性向上委員会を開催し、生産性の向上と業務効率化をすすめます。 ・人事考課制度を活用し、職員の職務意欲向上に努めます。 ・広報誌に加え、SNS を利用して施設の日常などの様子を発信することにより、施設の魅力向上に努めます。 ・訪問入浴車等、計画的に公用車の更新を行います。	・定期的に生産性向上委員会を定期開催し、導入した機器の有効利用について協議を行いました。また、施設長、主任等が生産性向上フォーラム等に参加し、知識を深めるとともにユニットケア推進を進めるきっかけとしました。 ・定期的に実施する人事考課に加え、施設長が全職員との面談を実施し、職員が相互理解を深めること等を提案することにより、働きやすさや職務意欲向上に努めました。 ・毎月 PR 委員会を開催し、広報の内容や SNS での発信状況等を協議しました。日常の様子を発信することでご家族からは施設での様子がわかって安心する。とのご意見をいただき、入職者の獲得にもつながりました。

【部門別事業報告】

1 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア) 稼働率（入居定員：75 名）

区分 年度	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
6 年度	365 日	27,149 人	226 床	74.4 人	99.2%
7 年度	365 日	26,529 人	846 床	72.7 人	96.9%

※令和 6 年 4 月入居者 77 名、令和 6 年 5 月 13 日より入居者 75 名

(イ) 入退所状況 (3月31日時点)

区分 年度	新規入居者	待機者	退所者 合計	施設内死亡 (施設看取り)	施設外死亡	施設移転	帰宅
6年度	17人	60人	20人	18人 (11人)	2人	0人	0人
7年度	23人	50人	23人	21人 (15人)	2人	0人	0人

(ウ) 地区別 入居状況 (3月31日時点)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
6年度	0人	73人	0人	1人	74人
7年度	3人	70人	0人	1人	74人

(エ) 年齢・性別 入居状況 (3月31日時点)

(単位：人)

年齢 性別 区分	60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
6年度	1	0	0	1	3	2	5	14	5	32	0	11	14	60	74
7年度	1	0	0	1	1	4	2	17	6	30	1	11	11	63	74
平均年齢	6年度		男性		85.8		女性		91.7		合計		90.8		
	7年度		男性		86.9		女性		92.7		合計		91.8		

(オ) 入居期間別 入居状況 (3月31日時点)

(単位：人)

区分 \ 期間	6 か月 未 満		6 か月 以 上 1 年 未 満		1 年 以 上 3 年 未 満		3 年 以 上 10 年 未 満		10 年 以 上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
6 年度	4	6	3	3	4	27	1	24	0	2	12	62	74
7 年度	1	13	1	6	7	14	2	28	0	2	11	63	74
平均入居期間		6 年度		3 年 0 か月									
		7 年度		2 年 9 か月									

(カ) 入居期間別 延べ入居状況

(単位：人)

期間 性別 年度	6か月未満		6か月以上1年未満		1年以上3年未満		合計
	男	女	男	女	男	女	
6年度	5	7	3	3	5	34	94
7年度	2	13	1	7	9	21	
期間 性別 年度	3年以上10年未満		10年以上		計		合計
	男	女	男	女	男	女	
6年度	2	33	0	2	15	79	94
7年度	3	39	0	2	15	82	97

(キ) 介護度別 入居状況 (3月31日時点)

(単位：人)

介護度 性別 区分	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
6年度	0	0	0	0	5	16	6	28	3	16	14	60

7 年度	0	0	0	0	6	18	6	33	1	10	13	61
平均要介護度	6 年度				4.0			7 年度			3.8	

(ク) 介護度別 延入居状況

介護度 区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
6 年度	0 人	0 人	7,271 人	12,270 人	7,391 人	26,932 人
7 年度	0 人	0 人	8,165 人	12,548 人	5,816 人	26,529 人

(ケ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	30 人	20 人	17 人	23 人

②加算算定の状況

加算項目 (単位)	看護体制加算 Ⅰ (4)	看護体制加算 Ⅱ (8)	夜勤職員配置 加算Ⅱ (18)	ADL 維持等加 算	認知症専門ケ ア加算Ⅰ (3)	サービス提供体 制加算Ⅰ (22)
算定延回数(回)	26,529	26,529	26,529	907	21,939	4474
加算収入額(円)	1,061,160	2,122,320	4,775,220	272,100	658,170	984,280

加算項目	日常生活継続 支援加算 (46)	安全対策体制 加算 (20)	看取り介護加 算Ⅰ (72)	看取り介護加 算Ⅱ (144)	看取り介護加 算Ⅲ (680)	看取り介護加 算Ⅳ (1280)
算定延回数(回)	22,055	23	86	231	29	15
加算収入額(円)	10,145,300	4,600	61,920	332,640	197,200	192,000

加算項目 (単位)	外泊時費用 (246)	栄養マネジメ ント強化加算 (11)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅱ (13)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅰ (3)	排泄支援加算 Ⅰ (10)	科学的推進体 制加算Ⅰ (40)
算定延回数(回)	129	13,260	877	30	907	379
加算収入額(円)	317,340	1,458,600	114,010	900	90,700	151,600

加算項目 (単位)	科学的推進体 制加算Ⅱ (50)	福祉施設高齢 者等感染対策 向上加算Ⅱ (5)	初期加算 (30)	療養食加算 (6)	福祉施設処遇 改善加算Ⅰ
算定延回数(回)	527	907	716	14,016	
加算収入額(円)	263,500	45,350	214,800	840,960	36,058,990

加算項目 (単位)	加算収入額合計
算定延回数(回)	
加算収入額(円)	60,363,660

※令和 7 年 7 月 8 月はサービス提供体制加算Ⅰ算定

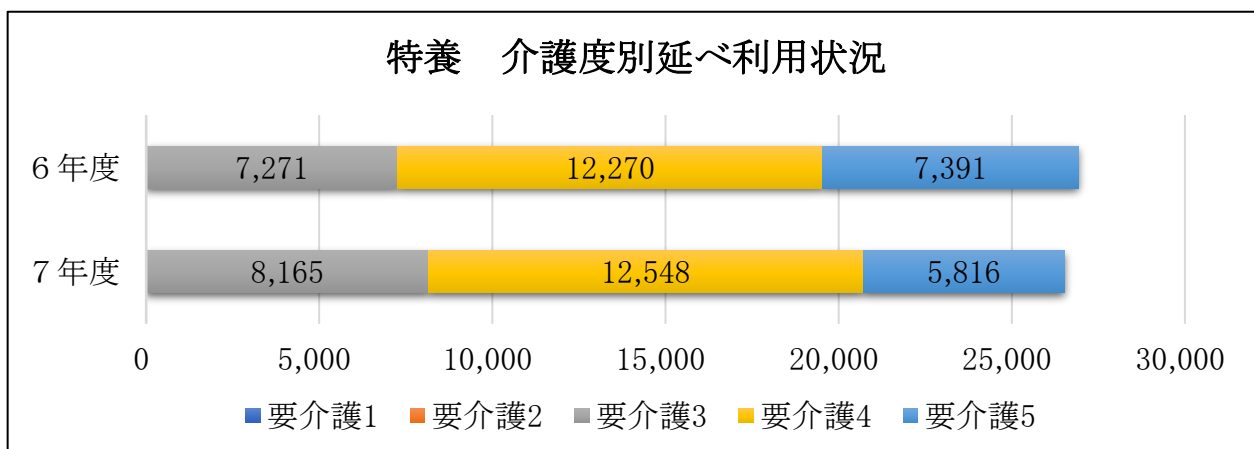
※令和 7 年 4 月から 6 月・9 月以降日常生活継続支援加算の算定

※令和 7 年 9 月まで栄養マネジメント強化加算算定

※令和 7 年 9 月より科学的推進体制加算Ⅱ算定

③その他の収入

年度 \ 項目	貴重品管理料	その他の収入合計
6 年度	108,000	108,000
7 年度	74,000	74,000



2 介護部

① 移転から2年目となり、新しい環境や設備にも慣れ、1ユニット15名のユニットケアに向き合えるようになりました。各ユニットにおいて、24時間シートの作成を行い、その方の生活リズムの把握、日々の想いのヒヤリングに努めてきました。また、職員の働き方について、夜勤の体制を5名から6名体制に切り替えることで夜勤帯でのケアの充実や職員の業務負担軽減にも努めてきました。夜勤体制の変更に伴い、日中の職員が減るため職員、パート、介護補助の業務分担、時間の見直しを行い、日中のケアの質を落とさないように努めました。

② 入居者の「楽しみ」「意欲」「生きがい」を引き出すため季節に応じた調理レクやYouTubeを活用しての体操レク、職員が演奏しての歌レク、職員が工夫を凝らし用具を作成してのゲーム、レクリエーションを実施しました。また、生活の質の向上に向けて、職員同士の対話を大切にし、ご入居者お一人おひとりの課題、気づきなどの情報を共有し多職種とも協働して重度化防止に努めました。

③ 職員の意識改革によるチームとしてのスキル向上に努めてきました。1ユニット15名のユニットケアを進めていくにあたり、人員の確保や業務効率化推進に向けて介護ロボットなどのテクノロジーの活用をすすめてきました。人員については介護補助によるタスクシフトにより職員の業務軽減につながりましたが、テクノロジーについてはデータの活用やインカムのやりとりなど、未だ円滑に使えていないところがあります。支援の動線を明確にしていくためにもスキルアップを目指していきます。

即戦力講師派遣や実習生（即戦力、支援学校、こまち実習）を積極的に受け入れることで職員の指導力が向上し、実習生の入職に繋がりました。

④ 感染症についてご入居者の感染拡大はありませんでしたが、職員のインフルエンザ、コロナ感染があり、業務縮小をせざるを得ないことやご入居者に感染拡大防止のため、居室での対応等のご協力をいただきました。職員同居家族のインフルエンザ感染の際は予防投与にて対応をしました。

リスク管理では骨折事故が数件あり、介護方法の見直しを図りました。また、勉強会

を通して、ヒヤリハット、事故の検証、振り返り、予防対策について振り返りを行い、重大事故防止に努めてきました。今年度も環境整備やご入居者の行動把握に努め、ご家族のご理解も得ながらご入居者に安心・安全な生活を送っていただけるよう努めます。

令和 7 年度は 23 名の方のお見送りをさせていただきました。今年度もご本人やご家族の思いに沿った最期を迎えていただけるようより良いケアに努めていきます。

- ⑤ マルベリーホールを活用に伴って地域の方、こども園の子供たち、ボランティアさんとの交流を図ってきました。昨年度は与謝の園 40 周年記念として、地域の方の参加もしていただき大きな祭りを開催し、ご入居者、ご家族ともに楽しんでいただきました。

今年度も地域との交流を大切にし、ご入居者が地域参加していけるよう努めます。また、広報誌や Instagram 活用し情報の発信を積極的に行っていきます。

<絹織ユニット>

- ・年間を通して、ユニット内における情報共有が大きな課題として明らかになりました。申し送りや情報周知は、ノート記録・システム入力・口頭伝達の 3 点セットで行うこととしていましたが、いずれかが欠けていたり、全てが実施されていない場面も見られ、「知らなかった」「聞いていない」といった情報伝達の不備が発生しました。
また、入力内容が不十分であることにより、他部署への情報提供や他部署との共有が適切に行われないケースもあり、ユニット全体および職員個々において、情報共有の方法を見直す必要性が生じました。この課題に対する改善策として、始業前のプチミーティングを導入。出勤者全員でその日の予定や申し送り事項を確認し合うことで、情報の抜け漏れ防止につながるだけでなく、職員の「聞き取る力」や「伝える力」を養う機会にもなりました。短時間で実施でき、効果も高いことから、今後も継続して取り組んでいく予定です。
- ・日々の関わりの中で、YouTube を活用した動画視聴、映画鑑賞、カラオケ、体操、テーブルゲームなど、従来のレクリエーションとは異なる取り組みを実施しました。これらの活動により、ご入居者からは「またしたい」「次は〇〇が見たい」といった前向きな声が聞かれるようになり、限られた時間の中でも小さな取り組みが大きな満足感や思い出につながりました。こうした反応は職員にとっても自信となり、日々の関わりの質向上に寄与しました。
- ・ご入居者の退所等により、24 時間シートを全員分作成することは難しかったが、聞き取りを進める中で初めて知る情報も多く得られました。得られた情報をもとにレクリエーションを企画するなど、ご入居者理解の深化と支援内容の充実につながった一方で、継続的な運用や全員分の作成に向けた体制づくりが今後の課題です。
- ・年間を通して、さまざまなテーマで毎月の勉強会を実施しました。しかし、振り返りの時間を設けていなかったため、一方通行の取り組みになってしまった点が課題となりました。ユニット職員からは勉強会そのものに対する否定的な意見はなく、今後も継続して実施していく方針です。今後は振り返りや反省の時間を取り入れ、より意識的に学びを深め、向上心を持って取り組める内容へと改善していきます。

<草紅葉ユニット>

- ・ご入居者に聞き取り等を行い、今までの生活を理解し、寄り添いながら自立支援に努めま

した。

- ・ご家族面会時には、ご入居者の様子を伝えるよう心掛け、看取り時にはご家族と共に大切な最期の時間を支えることができました。
- ・ご入居者の入れ替わりにより、職員が戸惑う場面も見られましたが、余暇活動やレクリエーションの充実を図り、日中の過ごし方をより良いものにできるように取り組んでいきたいと考えています。
- ・ご入居者の状態把握に努めましたが、不十分な所もあり、今後のケアに繋がりたいと思います。

<夏河ユニット>

- ・職員体制の影響により業務が中心となり、レクリエーションの実施が難しい日もありましたが、可能な範囲でご入居者とコミュニケーションを図り、活気ある日常生活につなげることができました。これにより、ご入居者の意欲向上にも寄与しました。
- ・24 時間シートについては全員分を完成させることはできませんでしたが、お一人おひとりの希望に寄り添い、得られた情報を職員間で共有しながら、より適切なケアの提供に努めました。今後も継続して取り組んでいきます。
- ・ご入居者の姿勢の傾きやずれが見られる際には、その都度姿勢を整え、特に食事時には安定した姿勢で摂取いただけるよう配慮しました。シーティングやポジショニングについては職員間で情報共有を行い、クッションの使用方法なども含めて見直しを進めました。今後は新しい職員も含め、姿勢調整が難しいご入居者を対象としたユニット内研修を実施し、より質の高いケアにつなげていきたいと考えています。

<螺鈿ユニット>

- ・ご入居者が安心して過ごしていただける環境づくりを目指しました。共有スペースや居室において、ソファやジョイントマットを活用することで、ご入居者が好きな場所でゆっくりと過ごせるよう努めました。
- ・ご入居者お一人おひとりの思いを丁寧に聞き取り、その方らしさを尊重しながら自立支援に取り組みました。
- ・ご家族への情報発信と共有を大切にし、面会時のコミュニケーションに加え、必要に応じて電話連絡を行うことで、ご入居者の状況を適切にお伝えするよう努めました。
- ・職員一人ひとりが自身の役割を理解し、チーム力の向上に取り組んでいましたが、個々の思いのすれ違いにより難しさを感じる場面もありました。令和 8 年度はユニット職員の思いを丁寧に引き出し、より良いチームづくりに向けて取り組んでいきたいと考えています。

<黒椿ユニット>

- ・看取り対応においては、事前の聞き取りや情報収集を丁寧に行い、ご入居者お一人おひとりに合わせた支援を実施することができました。また、職員間での情報共有や意見交換を重ねることで、統一したケアの提供につなげることができました。
- ・職員それぞれの長所、知識や経験を生かし、余暇活動の充実に取り組みました。特に、ユニット全体で協力して取り組んだ張り絵や塗り絵、玄関前の飾り付けは、ユニット内外から高い評価をいただき、ご入居者の楽しみや活気の向上に寄与しました。今後も、職員の個性や強みを生かした取り組みを継続していきたいと考えています。
- ・ユニットケアを進める上で重要となる 24 時間シートについては、ご入居者お一人おひと

りの思いをよりの確に反映できるよう、作成と活用に一層力を入れていきたいと思ひます。

3 看護部

令和 7 年度は、特養部門・在宅部門（短期入所・通所）のご入居者、ご利用者に加え、地域の皆さんが自分らしい暮らしを続けられるよう医療的側面から支援を行うことを事業計画にあげました。

特養・在宅部門については、令和 6 年度に引き続き特養医務と通所看護職員で情報共有する機会を設けていましたが、年度途中で職員減となり、時間を確保することが難しい状況となりましたが、ケアカルテ上で記録を詳しく入力するなどしてスムーズに支援が行えるよう努めました。

また、地域の方々への支援については、令和 7 年度もシルクカフェにて、健康講座を開きました。今後も方法を検討しながら継続していきたいと考えています。

感染症については、コロナ・インフルエンザ共に職員や在宅部門利用者に感染がみられましたが、今までの経験や研修が活かされ、施設内で拡大することなく経過しました。今後も研修を定期的に行い、感染症予防に努めていきます。また、結核に罹患していた方がショートを一時期利用されたため、保健所の指示に従い、接触者の割り出しや経過観察の血液採取の対応も行いました。

医療に対するニーズや看取り期の対応については、状態変化の都度、ご家族へ連絡を入れ意向を確認し、可能な限り希望に添えるよう努めました。特に看取りについては、ご家族との対話がさらに必要であると実感しており、今後の大きな課題です。

診療所が廃止となり丸 2 年が経過しました。嘱託医や医院の事務との対応で、いろいろと課題が出る度に検討し対策を講じました。医療重視ではなく「暮らしの場」での医療の提供にシフトしてきました。また、令和 6 年度より本格的に口腔衛生管理に着手し、毎月岡村歯科医師に往診に来ていただき、齲歯治療・義歯作成・ブラッシング指導等していただきました。職員が口腔衛生に着目する良いきっかけになったと思います。

令和 8 年度も引き続き、与謝の園に関わる全てのご利用者・ご家族さらには地域の方々が安心して生活できるよう、看護部としての活動をさらに発展させ支援していきます。

①診療状況

(ア) 与謝の園

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
6 年度	実数	94	0	0	0	0	0	0	0
	延数	3,608	0	0	0	0	0	0	0
7 年度	実数	98	0	0	0	0	0	0	0
	延数	3,637	0	0	0	0	0	0	0

(イ) 他の医療機関 通院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
6 年度	実数	21	14	3	6	0	3	0	2
	延数	40	32	5	18	0	4	0	8
7 年度	実数	23	13	4	30	1	5	1	4
	延数	44	32	7	83	2	11	15	9

(ウ) 他の医療機関 入院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
6 年度	実数	8	4	0	0	0	0	0	1
	延数	151	76	0	0	0	0	0	9
7 年度	実数	12	3	0	0	0	0	0	1
	延数	243	96	0	0	0	0	0	9

②健康診断等の実施状況（実施日時）

年度	対象人数	胸部集団検診	検尿検査	血液検査	歯科健診
6 年度	75	令和 6 年 10 月 21 日	令和 7 年 3 月 5 日	令和 6 年 9 月 3 日	R7. 2. 5
				令和 7 年 3 月 5 日	R7. 3. 12
7 年度	75	令和 7 年 10 月 20 日	9 月・12 月・3 月	9 月・12 月・3 月	毎月 1～2 回

4 相談室

令和 7 年度は、ご入居者お一人おひとりの生活歴や意向を丁寧に把握し、多職種協働による個別性の高い支援の充実に努めた一年でした。また、ご家族からの相談対応や面会・行事等を通して日頃からのコミュニケーションを大切にした結果、ご入居者やそのご家族からの苦情はなく、信頼関係の維持・構築において大きな成果が得られました。

入所稼働率については、年間目標である 99% に対し、令和 7 年度の実績は 96.9% にとどまり、目標達成には至りませんでした。要因として、空床が発生してから新規入所調整を開始するため、入所までに時間を要していることが挙げられます。これを踏まえ、令和 8 年度は、空床発生前から新規入所調整に着手できる仕組みづくりや、入所調整業務の標準化に取り組み、空床期間の短縮に努めます。

事故防止の取り組みにおいては、骨折事故件数が令和 6 年度の 6 件から 3 件へと半減し、改善が見られました。これは、事故報告書の作成方法を見直し、要因と対策をユニット内の複数名で検討して記載する仕組みを導入したことにより、職員間での情報共有が促進され、事故の背景や改善点を多角的に捉えられるようになったためです。また、事故報告書に防ぐべき事故に該当するか確認する欄を設けたことで、職員が自身の介護中の対応を客観的に振り返る機会が増え、日々の気づきや改善行動につながりました。

入所待機者の状況としては、要介護 3 の方の占める割合が多く、医療機関への入院や近隣地域における特養入所の進行も影響し、介護度の高い方ほど待機者数の減少がみられました。法人内各事業所や地域の状況を踏まえた入所調整の在り方について、引き続き検討が必要です。

令和 8 年度もご入居者の生活の質向上とご家族・地域から信頼される施設運営を目指し、相談室としての役割を果たしながら、安定した稼働率の確保とサービスの質の向上に取り組んでいきます。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在園者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合 計
6 年度	84 件	190 件	15 件	0 件	0 件	289 件
7 年度	71 件	60 件	23 件	0 件	0 件	154 件

(イ) 待機者数（地区別）

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合 計
6 年度	6 人	46 人	2 人	8 人	62 人
7 年度	8 人	51 人	1 人	2 人	62 人

(ウ) 待機者数（介護度別）

介護度 年度	要介護 3	要介護 4	要介護 5	区変中	その他	合 計
6 年度	39 人	14 人	9 人	0 人	0 人	62 人
7 年度	35 人	18 人	7 人	1 人	1 人	62 人

(エ) 退去状況（特養）

退去先 年度 区分		自宅・家族宅	看取りによる死亡	医療機関	その他	合 計
6 年度	人数	0 人	11 人	2 人	7 人	20 人
	比率	0%	55.0%	10.0%	35.0%	100%
7 年度	人数	0 人	15 人	2 人	6 人	23 人
	比率	0%	65.2%	8.7%	26.1%	100%

5 給食部門

令和 7 年度は「Let's enjoy working」をスローガンに掲げ、厨房職員一同が楽しみながら業務に当たること、質の高い食事サービスの提供に努めてまいりました。

業務面では、厨房機器の操作習熟による安定供食に加え、iPad の活用強化や活発な意見交換を通じて、業務プロセスの見直しと改善を継続的に実施しました。衛生管理においては、HACCP の概念に基づき、設備管理から職員の体調管理まで徹底しました。特に多湿期には大型除湿機を導入するなど、環境整備にも注力し、食中毒や感染症の発生防止を完遂しました。また、内部勉強会の実施により、職員の食品衛生知識の向上を図りました。

新たな取り組みとしては、6 月より職員食の提供を開始し、福利厚生的一面から職員をサポートする体制を整えました。今年度の通所ご利用者向け「持ち帰り弁当」の開始に向けた準備（アンケート調査等）も着実に進めました。

個別ケアにおいては、多職種連携によるミールラウンドを継続し、嗜好や体調に応じた個別対応を深めました。栄養ケアに基づく特別食や看取り期の方への個別対応も丁寧に行っております。また、季節感のあるイベント食や通所介護事業所と連携した調理レクリエーションの充実、ご利用者の生活の質の向上に寄与する大きな収穫となりました。

さらに、Instagram を用いた外部への情報発信という新しい試みにも着手しました。

費用面では、食材費の高騰が続く中、食材ロスの削減を徹底し支出抑制に努めました。地域貢献活動については「シルクカフェ」の継続に留まり、新規イベントの開催が叶わなかったことが次年度への課題です。

選択食の提供や喫茶開催など、多角的な企画を遂行でき、部署として非常に実りある一年となりました。

①提供実績

(ア) 延食数

(単位：食)

区分 年度	特養	短期入所	通所
6 年度	26,974	10,083	6,610
7 年度	26,588	10,997	7,528

(イ) 栄養基準 (1 日あたり)

項目 区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μ gRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基 準	1300～ 1500	60	600	30	10	550	0.8	1.0	80
6 年度	1,479	58.1	483	44.6	6.6	692	0.63	1.32	76
7 年度	1,478	57.9	484	44.5	6.6	692	0.66	1.35	77

(ウ) 食品群別摂取量 (1 人 1 日当たり食糧構成)

(単位：g)

*味噌は豆類・大豆製品に含みます。

区分	穀類	いも及びでん粉類	砂糖及び甘味料	菓子類	油脂類	種実類	豆類	魚介類	肉類	卵類	乳類	淡色野菜類	緑黄色野菜類	果実類	藻類	し好飲料類	調味料及び香味料	調理加工品類
目 標	210	40	10	40	8	2	60	60	40	35	200	200	150	60	3	-	-	-
7 年度	204.7	37.4	10.1	40.2	6.7	0.8	53.8	60.2	44.6	31.6	203.8	161.4	94.4	71.9	2.9	4.1	51.2	7.3

6 与謝の園短期入所生活介護事業所

ご利用者・ご家族・関係機関等との連携による在宅生活継続への支援、およびニーズを尊重した質の高いサービスの提供に努めた結果、目標とする稼働率を達成することができました。特に、「④感染症に強い事業所となるようにします」については、感染症予防へのきめ細やかな対策を講じつつ、「⑤ユニット型施設である特徴を生かし、できる限り、自立し充実した生活の支援」にも大切に取り組み、感染予防と自立を両立できたことが、目標達成に大きく関係したものと考えます。他にも、緊急受入、在宅中重度者受入、看取り期にあるご利用者の受入、ロングショートステイの受入に対しても、柔軟に対応することができました。⑥共生型サービスの提供については令和 7 年度中の実施には至りませんでした。開始に向けて引き続き取り組んでいきます。

数字で見ますと、新規契約数は横ばいながらも稼働率は上昇、入所状況・延べ入所ともに要介護 1～3 の利用者の増加が目立ちます。また要支援 1・2 のご利用者については、い

ずれも入所状況は大きく変わりはありませんが、延べ入所状況については、要支援 1 のご利用者が189%と大幅に増加しています。しかしながら、実際はお試し利用や緊急受入等で入所されたものの、継続利用にはつながらなかったケースが多くを占めました。このあたりに着目し、令和 8 年度については、今年度の成果を糧に「日々の生活の一層の充実」と「情報発信等による開かれた事業所の運営」について、事業所全体で取り組みを進めていきたいと思います。

①利用者の状況

(ア) 稼働率（定員 15 名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
6 年度	365 日	4,363 人	12 人	80.0%
7 年度	365 日	4,845 人	13.3 人	88.5%

(イ) 契約数

年度 \ 区分	新規入所者
6 年度	35 人
7 年度	40 人

(ウ) 地区別 入所状況

年度 \ 地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
6 年度	1 人	81 人	0 人	2 人
7 年度	0 人	91 人	0 人	1 人

(エ) 介護度別 入所状況

(単位：人)

介護度 \ 性別 年度	要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
6 年度	1	1	0	2	7	13	7	14	9	20	5	9	4	3	33	62
7 年度	0	3	1	1	9	15	6	20	10	24	4	10	2	3	32	76
平均 要介護度	6 年度				2.54				要支援 1・2 含む							
	7 年度				2.41				要支援 1・2 含む							

(オ) 介護度別 延入所状況

介護度 \ 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
6 年度	28 人	5 人	618 人	1,216 人	1,657 人	617 人	213 人	4,354 人
7 年度	81 人	5 人	575 人	1,439 人	1,939 人	700 人	106 人	4,845 人

(カ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	19 人	26 人	35 人	40 人
内 予防	1 人	2 人	3 人	3 人

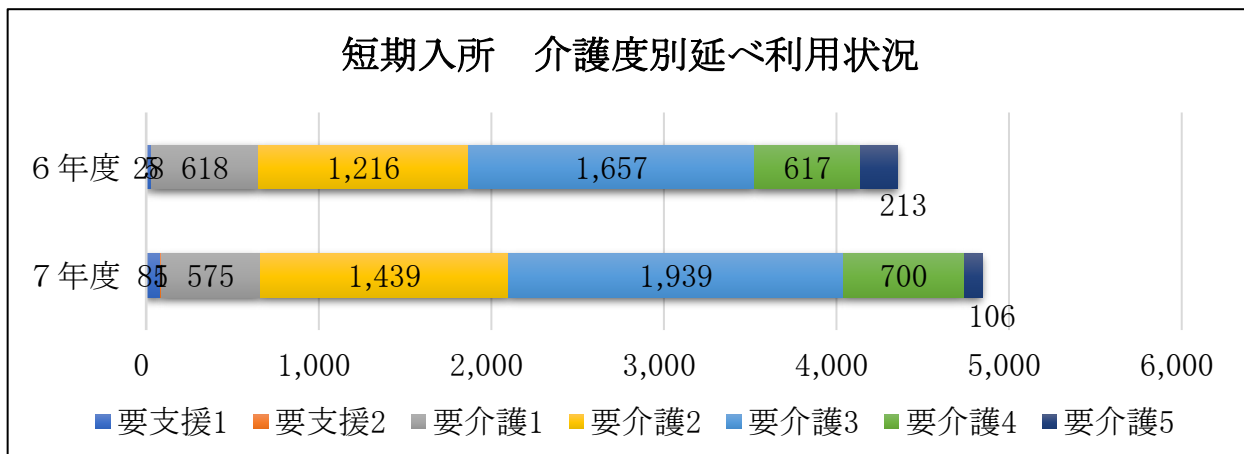
② 加算算定の状況

回数 \ 加算項目 金額	サービス提供体制 強化加算 I (22)	夜勤職員配置加 算 II (18)	在宅中重度者受 入加算 4(425)	緊急短期入所 受入加算 (90)	送迎加算 (184)
算定回数(回)	4,758	4,336	14	66	1,490
金 額(円)	1,046,760	780,480	59,500	59,400	2,741,600

回数 金額	加算項目 処遇改善 加算 I 等	加算収入額 合計
算定回数(回)		
金 額(円)	6,133,070	10,820,810

予防短期

回数 金額	加算項目 サービス提供体制 強化加算 I (22)	送迎加算 (184)	処遇改善 加算 I	加算収入額 合計
算定回数(回)	86	7		
金 額(円)	18,920	12,880	69,040	100,840



<大江の山ユニット>

- ご利用者の「家に帰りたい」「泊まりたくない」という不安に対して、その気持ちに寄り添い、少しでも安楽に、穏やかな気持ちで過ごして頂けるよう、チームとして共通理解のもとで個別対応に尽力した1年間でした。職員一人ひとりが、常に目の前の利用者の在宅での生活、背景を思い描き、在宅生活の中に与謝の園ショートステイの生活が存在していることを意識出来ていた事で過介護にならない支援に努めることができました。ご家族への伝達もしっかり行い、自立支援の視点を持って対応できていました。
- 入所前に感染症リスクの高いご利用者も、しっかり対策を講じることで年間通して受け入れてきました。令和6年度の反省点を活かし、適切かつ万全な対応でユニットに感染症が蔓延することはありませんでした。この成果は、日々の職員の注意深い行動や自身の健康管理、利用者の細かな状態観察による早期発見に努めていたからこそ得た結果であり、安全、安心なショートステイの場所という信頼に繋がっていると考えています。これからも見えない感染症リスクに対して、日々の標準予防策を研鑽し、心地よい居場所づくりに努めます。
- 「その人らしさ」を職員間で共有する為に、SS独自のパーソナルメモを作成しておりましたが、日々のケアカルテ入力もしっかりできるものの、パーソナルメモの更新はなかなか出来ず、このツールを日々の「その人らしさの探求、対応」に活用することはできませんでした。今年度は業務が多い中、パーソナルメモを作成することが大切なのではなく、利用者の個性を理解し、ご利用者お一人おひとりが「ショートステイでも自分らしく過ごしていただく」ことを目的としていることは、職員全員が共通認識として持っているため、パーソナルメモに囚われない形に変容が必要で、日々の業務や記録作成に活かせるカスタマイズをケアカルテ更新に合わせて意見し考えていきたいと思っています。
- 「取り組んで楽しい」「出来て嬉しい」に着目し、ご利用者個々の姿に丁寧に目を向け、

ご利用者の「やってみたい」気持ちを活かした活動を積み重ねた 1 年でした。無理に取り組みを促すのではなく、自然な形で意欲が引き出され、ご利用者の日々の活動はこれまでに以上に活発なものとなり、ユニットの設えは季節ごとに彩られました。また、地域の文化祭や与謝の園祭りでの作品展示にとどまらず、年度末には隣接することも園へのサプライズメッセージボードも作成し、「うちの作品が世に出たなあ」と喜びと達成感を味わっていただきました。ご利用者それぞれの興味、得意分野に寄り添いながら、個々を見極め日々関わることで、取り組みに対するハードルは下がり、自発的な行動、前向きな姿勢がみられていると感じています。ショートステイでの体験が新たな楽しみに繋がり、日々の生活が彩られるのは、関わっている職員としてもうれしい体験であり、ユニット全体の活性化に繋がっていると思います。令和 8 年度は制作活動に加えて、体を動かし、楽しいが体験できるゲーム等を日々取り入れていきます。

7 与謝の園通所介護事業所

令和 7 年度は「ご利用者も楽しく職員も楽しい事業所」を目標に 1 日の利用人数 30 人を目指してご利用者に残された力や職員それぞれの能力を活かしたサービス提供に努めました。

○利用者能力維持への取り組みについて

- ・脳トレプリント等の準備や水分補給の維持、新たにイージーウォークを設置し、ご利用者自らで取り組める環境作りを行いました。
- ・生活リハビリの一環として昼食の盛り付けをご利用者と共に行う以外に家庭菜園、移動販売での買い物、外食、地域での物づくり体験などのレクリエーションを実践することができました。
- ・マルベリーホールを活用し要支援のご利用者対象に物づくりを行いました。それを与謝の園祭りに出品することで地域住民と交流する機会となり社会参加の促進に繋がりました。

○稼働率の安定について

- ・「与謝の園は楽しいところ」と、地域住民や地域事業所のケアマネに選んでもらえる様、SNS での発信を活用し取り組みの紹介を行いました。
- ・マルベリーホールで開催する「シルクカフェ」に参加し繋がりや馴染みの関係を作ることによってデイサービスの利用に繋げることができました。
- ・デイサービスにとって新たな取り組みとなる「持ち帰り弁当」の計画と準備を 4 月からスタートに向け管理栄養士、厨房職員と協力し行いました。

①利用実績

(ア) 述べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
6 年度	30 人	310 日	6, 682 人	71.8%	1.76
7 年度	30 人	310 日	7, 585 人	81.6%	1.60

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計

6 年度	1,782 人	1,349 人	1,430 人	419 人	151 人	5,131 人
7 年度	2,650 人	1,131 人	1,334 人	512 人	96 人	5,723 人

(ウ) 介護度別利用状況 (介護予防)

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	事業対象者	合 計
6 年度	252 人	1,211 人	102 人	1,565 人
7 年度	387 人	1,362 人	113 人	1,862 人

(エ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	27 人	29 人	50 人	38 人
内 予防	7 人	9 人	19 人	9 人

②加算算定の状況

(ア) 通所介護

加算項目 回数 金額	若認知症加算 (60)	入浴介助 加算 I (40)	ADL 維持等加 算 I (30)	科学的介護推 進体制加算 (介護) (40)	送迎減算 (-47)	サービス提供 体制加算 I (22)
算定回数 (階)	123	5,342	887	887	305	5723
加算収入額(円)	73,800	2,136,800	266,100	354,800	143,350	1,259,060

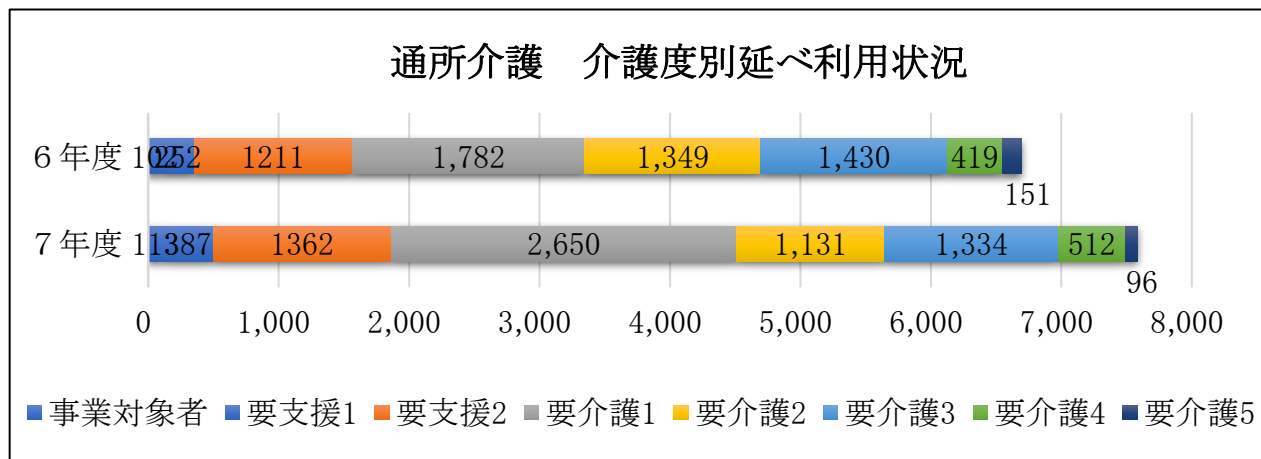
加算項目 回数 金額	処遇改善加算 I (介護) 等
算定回数(回)	
加算収入額(円)	4,427,320

通所介護 合計加算収入額	8,661,230 円
--------------	-------------

(イ) 予防通所

加算項目 回数 金額	サービス提供 体制加算 I 1 (88)	サービス提供 体制加算 I 2 (176)	処遇改善加算 I 等	科学的介護推 進体制加算 (40)
算定回数(回)	136	197	333	307
加算収入額(円)	119,680	346,720	983,380	133,200

予防通所介護 合計加算収入額	1,582,980 円
----------------	-------------



8 与謝の園訪問介護事業所

住み慣れた地域や家庭で『その人らしい生活』が継続できるよう、ご利用者の残存能力を引き出し、生活に活かせるよう見守りや声かけを心掛け、自立支援に向けた訪問介護サービスの提供に努めました。

令和7年度は、近隣訪問介護事業所から事業の廃業に伴い、7名のご利用者の引継ぎ受け入れを行いました。

自立支援に向けた見守り支援に取り組み、身体生活の訪問時間数も大幅な増加に繋がりました。また利用回数の多いご利用者が入院(レスパイト入院含む)や施設入所などとなった際にも、居宅支援事業所と連携を図ることで、訪問件数を安定させることにつながりました。

令和8年度も引き続き自立支援を念頭に、一日でも長く、住み慣れた自宅で安心して生活が続けられるよう支援していきます。

①介護度別利用状況及び実働時間数

《与謝の園訪問介護》

	年度	介護予防サービス		介 護 サ ー ビ ス					障害者 支援	合 計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5		
契約人数 (人)	6 年度	6	5	19	14	11	11	6		72
	7 年度	8	8	20	24	15	6	9		90
介護予防 (h)	6 年度	715 時間								19%
	7 年度	715 時間 45 分								17%
身体介護 (h)	6 年度	1,767 時間 35 分								46%
	7 年度	1,657 時間 15 分								39%
生活援助 (h)	6 年度	974 時間 25 分								25%
	7 年度	907 時間 30 分								22%
身体生活 (h)	6 年度	372 時間 20 分								10%
	7 年度	931 時間 30 分								22%
合 計	6 年度	3,829 時間 20 分								100%
	7 年度	4,212 時間								100%

③ 加算算定の状況（訪問介護）

（ア）要介護

（単位：回）

加算項目 回数 金額	初回加算（介護） 200	処遇改善加算Ⅰ （介護）等	緊急時加算 （介護） （100）
算定回数（回）	47		12
加算収入額（円）	94,000	3,537,920	12,000

訪問介護 合計加算収入額	3,643,920 円
--------------	-------------

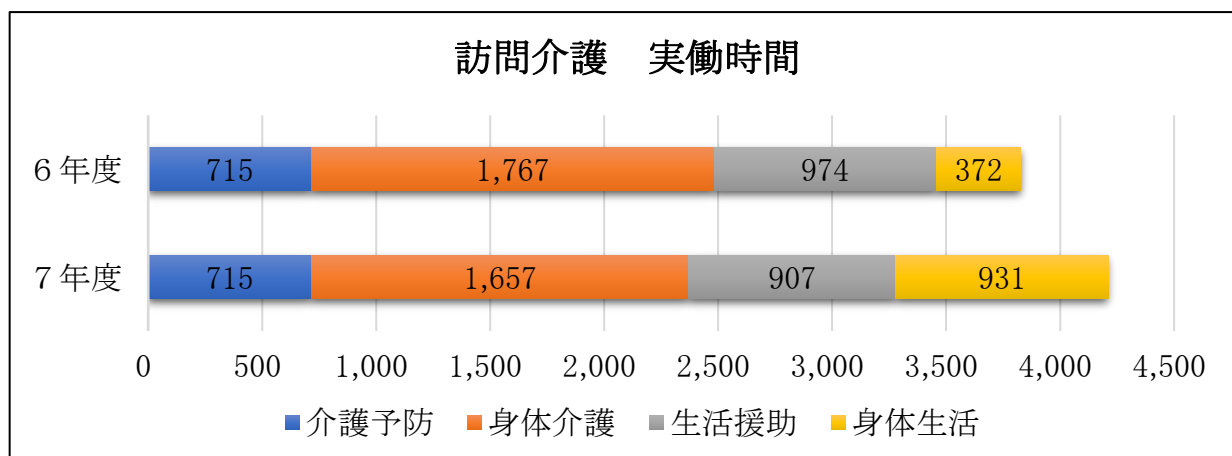
（イ）介護予防

加算項目 回数 金額	初回加算 （予防） （200）	処遇改善加算 Ⅰ等
算定回数（回）	12	
加算収入額（円）	24,000	505,790

介護予防 合計加算収入額	529,790 円
--------------	-----------

④年度別（新規契約者数の状況）

	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度実績
新規契約	20人	18人	27人	35人
内 予防	3人	2人	6人	12人



9 与謝の園訪問入浴

令和7年度は、契約者数が4件増加、延べ利用数も249件と微増収微増益となりました。

宮津社協の訪問入浴業務廃業に伴い、令和8年2月よりサービス提供地域を拡大し、宮津地域のご利用者の受け入れも行いました。令和8年3月からは月・火・水・金と稼働し、営業日を増やし月利用者延べ人数43件と最も多くサービス提供を行うことができました。

在宅での看取りを行われるご家族の意向に寄り添い、5名の利用者の看取り加算も算定

しています。

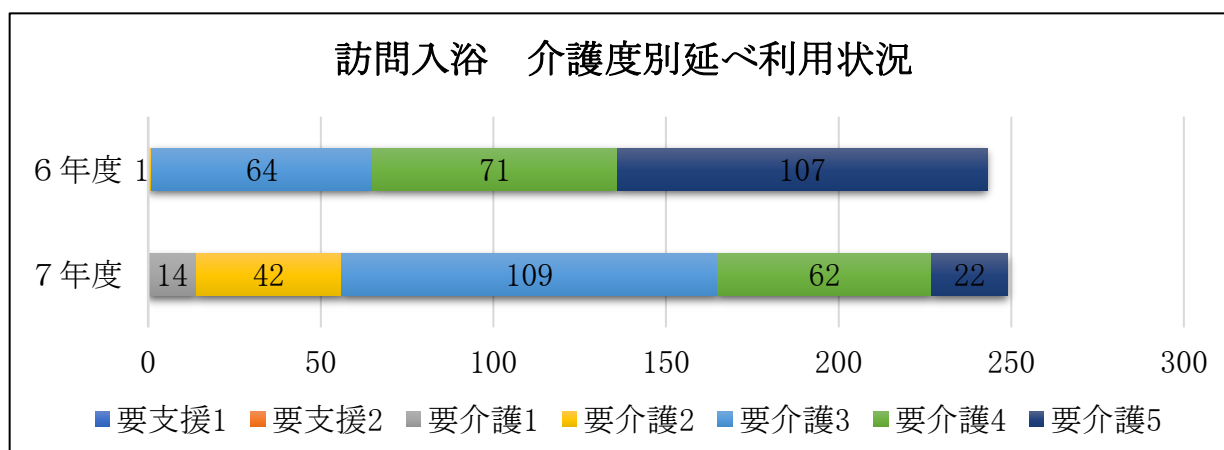
①利用状況

区分 年度	契約者数	営業日数	延利用数	平均稼働率	平均介護度
6 年度	18 人	109 日	243 人	2.2	4.1
7 年度	21 人	136 日	249 人	1.8	3.1

		介護予防サービス		介 護 サ ー ビ ス					合 計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
介護度別 利用者数	6 年度	0	0	0	1	6	6	5	18
	7 年度	0	0	2	5	6	4	4	21
介護度別延 べ利用者数	6 年度	0	0	0	1	64	71	107	243
	7 年度	0	0	14	42	109	62	22	249

② 年度別 （新規契約者数の状況）

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	16 人	7 人	13 人	15 人
内 障害	0 人	0 人	0 人	0 人



10 与謝の園居宅介護支援事業所

1. 相談支援およびケアマネジメント業務

令和 7 年度もご利用者の心身状況や生活環境を深く勘案し、ご本人・ご家族の意向を尊重した「住み慣れた地域での自立支援」を軸に、居宅サービス計画の作成および相談支援を行いました。下半期からはケアマネジャー5 名体制へと増員し、与謝野町を中心に宮津市(須津・文珠地区)からの新規利用者の受け入れも強化いたしました。

2. 外部連携とターミナルケアへの取り組み

地域包括支援センター、医療機関、各サービス事業所との密な連携を図り、特に入退院・入退所時における情報共有を徹底いたしました。また、在宅におけるターミナル支援にも取り組みましたが、加算算定要件を満たす件数には至らず、今年度の「医療連携加算」算定は見送ることとなりましたが、令和 8 年度も質の高い医療連携体制を構築し加算算定を目指します。

3. 運営実績と令和 8 年度目標

給付管理件数は順調に推移し、月間 139～158 件、年間平均 146 件を記録し、令和 6 年度目標の 140 件を達成できました。令和 8 年度は目標件数 168 件の超過達成を目指し、更なる積極的な新規受け入れを行います。

4. 人材育成・地域貢献・福利厚生

- 自己研鑽：地域ケア会議、ケアマネ連絡会、各種外部研修へ積極的に参加し、専門知識の習得と対人援助技術の向上に努めました。
- 実習受入：特定事業所加算算定事業所として、介護支援専門員実務研修実習生の受け入れ体制を整え、令和 7 年度は 1 名の実習生を受け入れました。
- 地域交流・職員ケア：「シルクカフェ」を通じた地域住民との交流や、「マルベリーホール」を活用した職員向けの健康イベントを開催しました。心身ともに健康に働ける環境づくりを行い、質の高いサービス提供に繋がるよう令和 8 年度も計画していきます。

(ア) 内容別相談件数

年度 \ 内容		介護保険その他福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
6 年度	実数	223 件	3 件	2 件	4 件	232 件
	延数	13,507 件	32 件	8 件	20 件	13,567 件
7 年度	実数	264 件	4 件	2 件	1 件	271 件
	延数	14,051 件	26 件	2 件	6 件	14,085 件

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
6 年度	1,640 人	196 件
7 年度	1,801 人	213 件

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

介護度 \ 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
6 年度	16 人	55 人	631 人	425 人	336 人	93 人	99 人	1,655 人
7 年度	12 人	36 人	717 人	497 人	350 人	128 人	61 人	1,801 人

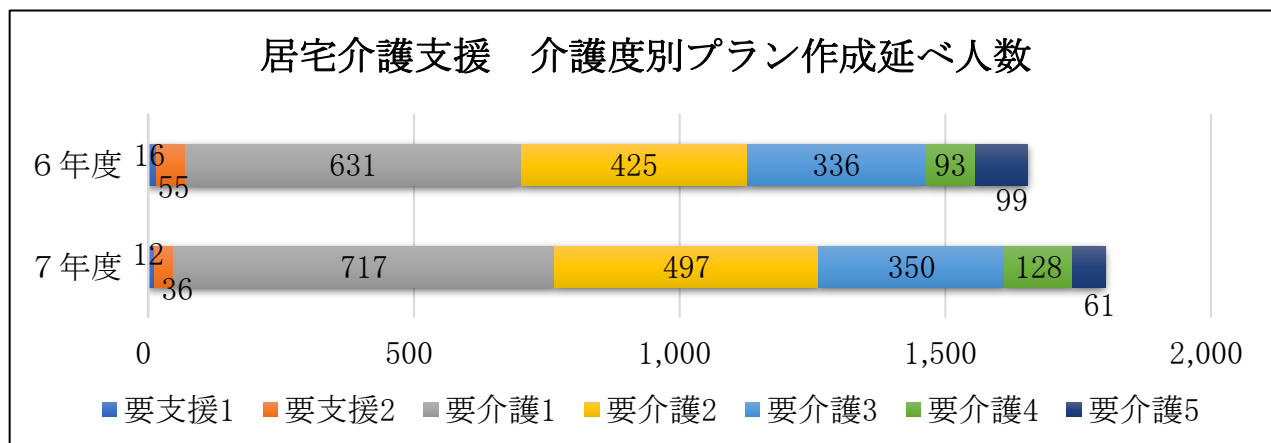
(エ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	65 人	49 人	63 人	68 人

(オ) 加算算定の状況 (居宅介護支援)

(単位：回)

加算項目 \ 回数 金額	特定事業所加算Ⅱ
算定回数(回)	1,753
加算収入額(円)	7,380,130



11 事務

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月 1 日	99 人	年 1 回
腰痛健診	9 月 1 日、2 月 9 日	83 人 65 人	年 2 回
深夜業務従事者健診	2 月 9 日	33 人	年 1 回
ストレスチェック	9 月	77 人	年 1 回

【職員研修参加状況】

① 施設内研修

研修・会議名	研修内容
身体拘束ゼロ委員会	身体拘束ゼロにむけて／書面
身体拘束ゼロ ・高齢者虐待防止委員会	虐待防止基礎研修／動画
感染症対策委員会	食中毒予防について／動画
感染症対策委員会 新型コロナ実地研修（BCP 研修）	感染症対策／集合
安全衛生委員会主催	災害避難訓練前研修（BCP 災害含む）
安全衛生委員会主催	職員腰痛予防
リスクマネジメント委員会	事故発生又は再発防止に関する研修
リスクマネジメント委員会	令和 6 年度の事故の振り返り
認知症ケア委員会	認知症の理解／書面
身体拘束ゼロ委員会	不適切ケア／書面
研修委員会	プライバシー保護・接遇／書面
褥瘡対策委員会	シーティング・ポジショニングの基本を理解する
研修委員会	口腔衛生 口腔スクリーニングについて／動画
訪問入浴介護事業所研修会 （研修計画に基づき年間 12 回開催）	接遇マナー、リスクマネジメント、看取り連携について、 感染症について、認知症について等（新型コロナウイルス 感染のため書面研修含）
訪問介護事業所研修会 （研修計画に基づき年間 12 回開催）	接遇マナー、虐待、認知症、食中毒、感染症について等 （新型コロナウイルス感染のため書面研修含）

② 施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
歯科医師会北部多職種連携推進研修	1	宮津市福祉教育総合プラザ
認知症介護実践者等養成研修	3	
デイサービス委員会	1	
ユニットケア施設管理者研修	1	Zoom
キャラバンメイト養成研修	2	綾部物づくり交流館
特定給食施設従事者等講習会	1	Zoom
看取りサポート人材養成研修	1	京都府看護協会研修センター
作業行動に起因する労災防止に関する説明会	1	Zoom
女性活躍キックオフワークイノベーションセミナー	1	宮津市福祉教育総合プラザ
認知症介護実践者等養成研修(リーダー)	2	京都府庁
キャリアアップ初任者研修	1	Zoom
看介護職リハビリテーションステップアップ研修会	2	丹後中央病院
介護サービス情報の公表対応研修	3	ラポール京都
チームリーダー研修	1	京丹後市弥栄地域公民館
安全運転管理者講習	1	宮津警察署
アンガーマネジメント研修	1	介護福祉人材センター
若年性認知症支援研修会	2	アグリセンター大宮
主任介護支援専門員更新研修	1	Zoom
京都府機能訓練指導員等研修会	1	福知山市民交流プラザ
与謝野町ケアマネ連絡会	5	与謝野町役場加悦庁舎
チームリーダー振り返り研修	1	京丹後市峰山地域公民館
実地研修施設を目指すためのセミナー	2	Zoom
福祉施設職員中堅介護技術研修	1	介護福祉人材センター
デイサービス職員研修会	1	亀岡園
甲種防火管理者新規講習	2	知遊館
感染症予防対策研修会	1	京丹後市峰山地域公民館
歯科口腔保健従事者研修会	2	知遊館
カスタマーハラスメント研修	4	Zoom
丹後圏福祉避難サポートリーダー養成研修	5	わーくぱる
ヤングケアラーの現状と支援ケアマネの役割を考える	1	Zoom
施設看取り介護導入研修	1	登録会館
看護職のためのユニットケア研修	1	Zoom
介護現場における生産性向上推進フォーラム	3	Zoom
介護報酬改定に備えた戦略	6	福知山市民交流プラザ

適切なケアマネジメント手法を学ぶ	1	Zoom
与謝野町地域ケア推進会議	2	元気館
地域包括支援センター運営協議会	1	元気館
与謝野町介護保険運営協議会	1	与謝野町役場加悦庁舎

【地域貢献事業】

事業名	参加者数
つばきこども園交流会（年長組）	6回/年
橋立中学校認知症サポーター養成講座 10月25日	51
山田小学校認知症サポーター養成講座 12月13日	4
桑飼シルクカフェ 22回開催	339
山田小学校4年生（総合学習の一環として施設見学）1月30日	7

【実習等受入状況】

月	学校・事業所名	実習内容	受入人数
8	与謝の海支援学校	職場実習 8月4日～8月8日	1
2	生活支援センター こまち	職場実習 2月16日～2月23日	1
3	福祉即戦力人材養成科施設実習	2月3日～2月12日	2
3	介護支援専門員実務研修実習生	3月24日・4月7日8日 （感染症により日程変更）	1

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
梅林寺花園会女性部	車いす清掃	1回/年	5
キャメルズ	歌の発表	1回/年	3
かるかも会	補修（衣類など）	2回/年	8
丹鉄元気バンド	行事内での歌	2回/年	3
民謡「豊美会」	民謡の披露	1回/年	7
橋立清掃	橋立清掃活動参加	2回/年	8

【各種会議・委員会開催状況】

会議名	開催回数/年
職員会議	2回/年
主任会議	12回/年
リスクマネジメント委員会	12回/年
看取りケア委員会	3回/年
生産性向員会	3回/年

研修委員会	3 回/年
サービス自己評価委員会	6 回/年
感染症対策委員会（BCP 感染含む）	5 回/年
身体拘束ゼロ委員会	4 回/年
褥瘡対策委員会	4 回/年
医療的ケア委員会	4 回/年
認知症ケア委員会	4 回/年
部署間連絡会議	5 回/年
入所検討会議	12 回/年
安全衛生委員会（BCP 災害含む）	12 回/年
新型コロナ対策会議	20 回/年
PR 委員会	11 回/年

天橋の郷 事業報告書

【年度総括】

令和 7 年度においても、法人理念及び施設理念を基に、天橋の郷に働く職員一人ひとりが「凡事徹底」の心構えを持ち、毎日の業務において基本に忠実に、当たり前のことをしっかりと継続実践することで、充実したサービス提供に繋げられるよう取り組みました。

介護業界のみならずあらゆる産業で人手不足が問題となる中、生産性向上委員会による業務改善と安全衛生委員会による職場環境改善を進めるとともに、ICT 機器や介護ロボットの活用とノーリフティングケアを推進し不足する部分をこれらの取組により補いました。

職員の状況をみると、年度末の長期短期入所に属する職員数は常勤換算で 6.1 人の減となりましたが、時間外勤務は前年度の約 2/3 となる 698 時間にとどまり、年休の平均取得日数も前年度の 10.3 日から 12.0 日へと増加しており、生産性向上の取組の成果が数字に表れています。

更に、京都府の補助金を活用し長期短期において介護記録の AI 型音声入力システムを導入したほか、デイサービスにおいて双方向型のインカムに更新するなど、介護現場での業務負担軽減につながる ICT 機器及び介護ロボットの活用を進めました。

短期入所とデイサービスにおいては、終末期にあるご利用者について在宅主治医や関係機関と連携してレスパイトケアを受け入れたほか、緊急時や医療的ケアが必要な方についても積極的に対応しました。

共生型短期入所サービスにおいても複数の定期利用が 1 年を通じて継続し、地域のサービス資源として定着しています。

老朽化が課題となっている建物と設備については、令和 8 年度からの計画的な改修・更新に向け準備を進めていきます。

経営面では、年間の稼働率は、長期が△0.1%の微減となったほかは、目標稼働率を達成するなどいずれの事業所においても前年度を上回りました。その結果、拠点全体の介護保険事業収入は過去最高額となる 6 億 4,700 万円に達するとともに、昨年度 430 万円の赤字となった経常増減差額についても 3 千 500 万円に近い額を確保することができました。

これは、日頃の質の高いケアの提供と、様々な貢献活動により地域の高い信頼を得られたことがもたらした結果と言え、令和 8 年度においても掲げた計画と目標達成に向け、引き続き拠点全体で着実に業務にあたってまいります。

【目標に対する取組成果】

長期目標	今年度目標	取 組 状 況
1 安心安全な施設づくり	1 安心安全な施設づくり	①施設の大規模改修に向け、8 年度に調査設計業務を委託するための予算計上を行った。併せて設備備品の更新計画を策定した。設備については、京都府補助金を活用した入浴リフトの更新や配膳ワゴン等厨房機器の更新を行った。 ②京都府の原子力総合防災訓練に併せ、令和 5 年度に整備した放射線防御設備の稼働訓練と、地元の住民の避難受入訓練を行った。消防計画に基づく避難訓練は夜間想定も含め 2 回実施した。 ③職員全体会において自然災害及び新型コロナウイルス感染症業務継続計画の説明及び研修を行った。 ④新型コロナウイルス感染症について、通所事業所職員からご利用

		者、ショートステイご利用者へと感染が拡大し、クラスター感染となった。
2 地域が必要とするサービスの提供	2 利用者本位のサービス提供	①1年を通じてご利用者のニーズを踏まえ、様々な行事を季節ごとに行い楽しみを提供したほか、ご本人の意志を尊重した対応を継続する中で生活のQOLの向上に繋がった。不適切ケアについては、職員同士が互いに意識しながら根絶に向けて取り組んだ。 ②特養ご利用者の入院原因の多くを占める尿路感染症、誤嚥性肺炎、骨折を予防するため、多職種で取り組んだ。骨折事故は減少したものの他の疾患による入院が頻発し、入院日数は前年度より増加し、243日となった。このことが、稼働率を下げる要因となった、口腔ケアについては、訪問歯科医の指示を受けた歯科衛生士による指導を受け、ご利用者の口腔内の適切な状態を維持することができた。 ③短期入所とデイサービスにおいて主治医や関係機関と連携し、終末期にあるご利用者のレスパイトケアに積極的に取り組むとともに、医療的ケアが必要な方や家庭の事情等により緊急なご利用についても積極的に利用を受け入れた。 ④認知症介護に関する研修の積極的な受講に併せ、認知症ケア委員会を中心にチームケアに取り組むことで、ご利用者のBPSDの出現予防と、出現時の適切な対応を行うことができた。 ⑤障害のある方等への共生型短期入所サービスにおいては、3名の定期利用があり、延べ人数も令和6年度の21人から107人と大きく増加した。
3 安定的な経営	3 働きやすい魅力ある職場づくり	①生産性向上委員会が中心となって介護ロボットやICT機器の活用、2人介助から1人介助が可能なノーリフティングケアの推進等業務の効率化を図った。これらの取組を進めることにより、特に特養においては、日中の職員体制を1ユニット当たり2.5人から2.0人とすることができた。 ②生産性向上や5S活動など就業環境と業務改善に取り組んだ結果、時間外勤務は前年度の1/4にあたる約350時間減少したほか、年休の平均取得日数も目標の15日には届かなかったものの前年度の11.4日から13.0日に増加した。 ③職員には半年ごとに拠点目標を踏まえた個々の目標を設定させ、半年に1度の人事考課において、目標に対する取り組み状況等を把握し、評価に繋がった。 ④特養においては余暇活動プロジェクトチームを中心に、他の事業所においても各担当が季節に応じた行事やレクリエーションを積極的に行い、またその様子をさとめーるやSNS等を用いて情報発信を行い、ご利用者と職員確保に繋がった。
	4 地域連携	①持ち帰り弁当及び土日の配食弁当事業に引き続き取り組んだ。 ②地域と顔の見える関係の構築に向け、地域の一斉清掃活動に参加したほか、地域の祭礼の訪問を受けた。 ③真夏の渇水期に施設敷地内の調整池の水を地域の農業用水に提供した。 ④天橋の郷開設20周年を記念し、6年ぶりに郷フェスタを開催したほか、はまなす苑においても地域住民参加型のはまフェスを開催し、地域の方々に施設や事業所の様子を知っていただくことができた。また、様々な感染症への対策を行いながら、栗田地区と由良地区において年間を通じてオレンジカフェを開催した。 ⑤栗田地区には食料品店がないことから買物難民対策として、又長期入所者の買物の楽しみの提供の場として、月に2回宮津市内の小売業者の売店を開設した。 ⑥地域の幼稚園、小・中・高校と交流を行った。栗田小学校では、認知症サポーター養成講座を実施するとともに、栗田のびのび放課後児童クラブとデイサービスご利用者との交流を積極的に行った。海洋高校の高校生レストランの食材に天橋の郷で栽培したブルーベリーを提供した。義務教育教員免許取得のための介護体験について、地元出身の2名の大学生の受入を行った。 ⑦京都府警の交通事故防止活動に協賛し、ご利用者とひまわりの絆プロジェクトに参加した。

【部門別事業報告】

1. 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア) 稼働率（入居定員： 70 名）

区分 年度	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
6 年度	365 日	25,239 人	311 床	69.1 人	98.8%
7 年度	365 日	25,216 人	334 床	69.1 人	98.7%

(イ) 入退所状況（3月31日時点）

区分 年度	新規入居者	待機者	退所者 合計	施設内死亡 (施設看取り)	施設外死亡	施設移転	帰宅
6 年度	23 人	79 人	23 人	19 人 (16 人)	3 人	1 人	0 人
7 年度	23 人	79 人	23 人	21 人 (17 人)	1 人	1 人	0 人

(ウ) 地区別 入居状況

区分 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
6 年度	67 人	3 人	0 人	0 人
7 年度	63 人	4 人	1 人	2 人

(エ) 年齢・性別 入居状況

(単位：人)

区分 年齢 性別	60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100 以上		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
6 年度	0	0	0	0	1	3	3	20	5	35	0	3	9	61
7 年度	0	0	0	0	1	3	3	20	5	35	0	3	9	61
平均年齢	6 年度		男性		87.8 歳		女性		90.5 歳		合計		90 歳	
	7 年度		男性		88.2 歳		女性		91.1 歳		合計		90.5 歳	

(オ) 入居期間別 入居状況

(単位：人)

区分 期間	6 か月 未 満		6 か月 以 上 1 年 未 満		1 年 以 上 3 年 未 満		3 年 以 上 10 年 未 満		10 年 以 上		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
6 年度	3	10	3	5	2	20	1	24	0	2	9	61	70
7 年度	4	11	0	5	5	21	1	22	0	1	10	60	70
平均入居期間	6 年度				3 年 0 か月								
	7 年度				2 年 10 か月								

(カ) 入居期間別 延入居状況（特養）

年度 期間 性別	6 か月 未 満		6 か月 以 上 1 年 未 満		1 年 以 上 3 年 未 満		合 計
	男	女	男	女	男	女	
6 年度	3 人	14 人	4 人	6 人	2 人	27 人	
7 年度	5 人	12 人	1 人	9 人	7 人	23 人	
年度 期間 性別	3 年 以 上 10 年 未 満		10 年 以 上		計		合 計
	男	女	男	女	男	女	

6年度	1人	34人	0人	2人	10人	83人	93人
7年度	1人	33人	0人	2人	14人	79人	93人

(キ) 介護度別 入居状況

(単位：人)

介護度 区分	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
6年度	0	0	0	0	4	9	5	34	0	18	9	61
7年度	0	0	0	0	4	6	5	40	0	15	9	61
平均要介護度	6年度		4.1		7年度		4.1					

(ク) 介護度別 延入居状況

介護度 区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
6年度	0人	0人	5,518人	12,655人	7,066人	25,239人
7年度	0人	0人	4,129人	15,212人	5,875人	25,216人

(ケ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度実績
新規契約	21人	19人	23人	23人

②加算算定の状況

加算項目 (単位)	個別機能訓練 加算Ⅰ(12)	個別機能訓練 加算Ⅱ(20)	看護体制 加算Ⅰ(4)	夜勤職員配置 加算Ⅱ(18)	ADL維持等加 算Ⅱ(30)	認知症専門 ケア加算Ⅰ (3)
算定延回数(回)	25,215	857	25,216	25,216	71	0
加算収入額(円)	3,025,800	171,400	1,008,640	4,528,880	21,300	0

加算項目 (単位)	認知症チーム ケア推進加算Ⅰ (120)	日常生活継続 支援加算 (46)	生産性向上 推進体制加算Ⅰ (100)	生産性向上推進 体制加算Ⅱ (10)	安全対策体制 加算(20)	看取り介護 加算Ⅰ(72)
算定延回数(回)	780	25,216	857	0	23	117
加算収入額(円)	936,000	11,599,360	857,000	0	4,600	84,240

加算項目 (単位)	看取り介護 加算Ⅱ(144)	看取り介護加 算Ⅲ(680)	看取り介護加 算Ⅳ(1280)	外泊時費用 (246)	経口維持 加算Ⅰ(400)	経口維持 加算Ⅱ(100)
算定延回数(回)	258	33	16	96	396	396
加算収入額(円)	371,520	224,000	204,800	236,160	1,584,000	396,000

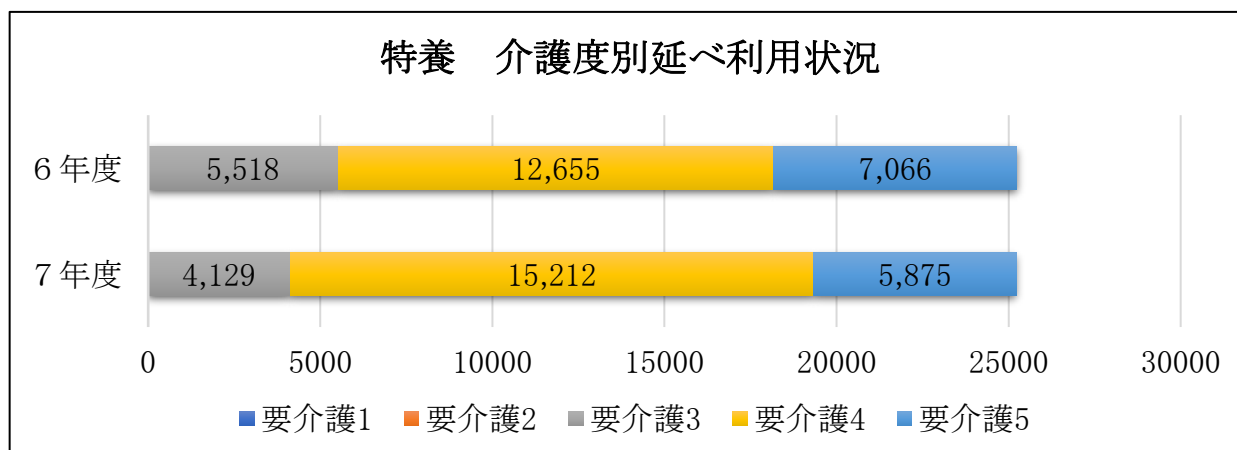
加算項目 (単位)	栄養マネジメ ント強化加算 (11)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅱ (13)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅰ (3)	排泄支援加算 Ⅰ(10)	科学的推進体 制加算Ⅱ (50)	初期加算 (30)
算定延回数(回)	25,216	738	39	777	857	630
加算収入額(円)	2,773,760	95,940	1,170	77,700	428,500	189,000

加算項目 (単位)	介護職員処遇改 善加算Ⅰ等	合 計
--------------	------------------	-----

算定延回数(回)		
加算収入額(円)	35,472,300	64,292,070

③その他の収入

年度 \ 項目	貴重品管理料	居住費調整額	湯灌料	エンゼルケア	合 計
7 年度	168,000 円	177,302 円	285,000 円	5,000 円	635,302 円



2. 介護部門

- ① 今年度も新型コロナ・インフルエンザ・ノロ等のウィルスによる感染はみられましたが、感染時の迅速な対応とスタンダードプリコーションの徹底に取り組み蔓延することはありませんでした。

認知症ケアについては、ユニット職員が入居者一人ひとりに丁寧に関わり、思いを聞き実現させる場面を見ることが増えてきました。次年度は認知症ケア委員会を月 1 回開催し、認知症のある方が安心して暮らせる時間や場所が確保できるように取り組んでいきます。

- ② 不適切だと思われる言動について、注意し合える関係性がある程度構築されてきました。今後も、入居者だけでなく職員間においても円滑な関係を築くことでより良いチームケアに繋がるようにすすめていきます。

余暇活動プロジェクトチームを中心に行事に取り組み、各ユニットでは誕生日企画や体操等に力を入れ、入居者には生活に楽しみや潤いを持っていただけたと感じています。ただ、前年度と比較すると勤務体制の変化に伴い行事数自体は減退傾向となりました。

- ③ 歯科衛生士や言語聴覚士による指導を受け、毎食後のケアの徹底により入居者の口腔内の状況は改善しました。排泄ケアについても全介護員を対象にオムツ交換の手技が確実に行われているか、間違った介助方法による皮膚トラブル等がなかったか確認を行いケアの統一を図りました。

- ④ 新たに設けたリーダー会議において、リーダーとしての役割や長期全体としての協力体制について協議したことで、8月より職員体制を1ユニット2.5人から2.0人に減員した際にも、リーダーが前向きに率先して動くことができ、比較的スムーズな移行ができ

たと感じています。今後も、あらゆる業務において前向きに率先して発信し行動できるリーダーを育成します。

- ・ 茜ユニット：①1 年を通して入居者の尊厳を守り一人ひとりに向き合い丁寧で思いやりのある優しい声掛けと介助を心掛けました。
②バディユニット同士で入居者にも楽しんでいただける賑やかな夏祭り行事や、入居者の前で焼きながら食べていただくたこ焼き、また低糖質スイーツを作り、糖質制限のある入居者にも食べる楽しみを感じ喜んでいただくなど、工夫をこらした楽しい企画に取り組みしました。
③歯科衛生士の指導によりその方に合った口腔ケアを実施し、口腔内の衛生保持に努めてきましたが、口腔ケアの手技が不十分で、統一したケアが行えていない状況もありました。指導に則った統一したケアを継続する為に職員一人ひとりが責任を持ち信頼されるケアができるよう努めます。
④施設内の研修には積極的に参加し、研修での学びを生かし、感染症対応や、不適切ケアについて考え日々のケアに繋げることができました。引き続き学びの姿勢を持ち、わからないことがあれば自身で調べる等して、チームケアの向上に努めます。
- ・ 和ユニット：①その日に着る衣類や、おやつは何が良いか等入居者に尋ねることで、自己決定を促し可能な限り個々の希望に沿えるように配慮しました。また、認知症ケアについて不穏な状況にある入居者には否定せずに傾聴と丁寧な説明を行うことで穏やかに過ごしていただくことができました。
②職員間で意見交換し「放置、軽視、拘束、強要の禁止」を掲げた4項目を職員だけが見える場所に掲示し、不適切ケアの防止に取り組みしましたが、対応が重なった時に口調がきつくなる場面もありました。今後の課題として更なる接遇強化に努めます。
月1回、梓ユニットと合同でラーメンやお好み焼き等の行事食や、体操や歌などのレクリエーションを行い、入居者に楽しんでいただく事ができました。
③個別機能訓練に加え、身体機能の低下防止のためラジオ体操やパタカラ体操に取り組みしましたが、業務の状況により実施できない日もあり課題となりました。今後は継続して取り組めるように職員間で連携し時間の確保に努めます。
歯科衛生士の指導の下、歯ブラシや口腔ケアスポンジ、マウスウォッシュを使用した口腔ケアを毎食後に行い、口腔内の清潔保持と誤嚥性肺炎防止に努めました。
④施設内研修や排泄ケア委員会の取り組みを受け、ユニット内でも意見交換を行い、適正な排泄ケア用品を選定し無駄のないよう徹底しました。
- ・ 梓ユニット：①認知症のある方で興奮状態や不穏な時などは声掛けや対応が難しい場面もありましたが、入居者目線で寄り添いながらコミュニケーションを持つとともに、職員間で情報を共有し連携しながら対応に努めました。
②令和7年度は和ユニットと合同で昼食時にラーメンやお好み焼き、おや

つではぜんざいやぼたもち、体操やマッサージ、風船を使ったバレー等のレクリエーションが実施でき、喜んでいただきました。その他の行事ではお誕生日のお祝いの他、入居者希望のネイルサロンやハンドマッサージなど喜んでいただきました。

③洗濯物たたみなどの軽作業やユニットの壁面飾りの作成、歌や体操など実施し残存機能の維持向上に努めました。

④職員間での引継ぎや情報の共有を行うことでスムーズに連携を取ることができ、業務の見直しができました。施設内研修への参加は難しい時がありましたが、動画研修により知識や技術の習得に努めました。

- ・ 翠ユニット：①服薬介助において服薬後の口腔内の確認が疎かになり、飲みこぼしの事故が起きてしまいました。マニュアル通り飲み込まれるまで確認を徹底したことでその後の服薬事故を防止しました。
②入居者の意向を聞き取り、意向に添った行事を企画しました。バディーユニットと協力して低糖質デザートを提供したり花火の動画を見ながらかき氷や綿あめを召し上がっていただくなど、行事食の実施に繋げることができました。
③歯科衛生士の指示を居室の洗面台に貼りだし、職員誰もが徹底しケアが行えるよう努めたことで入居者の清潔を保持することができました。
④5S 活動においては入居者の生活エリアだけでなく、職員が使用するデスクやキッチン周辺などにおいても手分けして改善に努めました。結果として指摘を受ける箇所もなくその後も継続して 5S 活動に取り組みました。
- ・ 泉ユニット：①入居者の帰宅願望や認知症による感情の変化があつた場合でも、傾聴し理解を示しながら対応をしたことで信頼関係を築き、穏やかに過ごしていただける時間を増やすことができました。
②月 1 回の行事企画を紅ユニットと合同で行いました。その都度充実感と笑顔を引き出すことができました。前もって予定を立て勤務調整を行ったことで計画どおりの実施に繋がりました。
心を込めた適切な態度やことば遣いで入居者に接し、不適切ケアを職員間で注意し合いましたが、入居者の思いがけない危険な行動時は否定することばが出るがありました。
③生活リハビリとして個別機能訓練を毎日行い、残存機能の維持向上に努めました。体操はレクリエーションでしか行えませんでした、歌がいつでも歌えるように壁に歌詞を貼るなど工夫することで喜んでいただきました。
口腔ケアについては歯科衛生士の指導による個別のケア方法を居室の洗面台に貼り出して、どの職員も統一したケアが行えるようにしたことで口腔内の清潔保持と嚥下機能維持ができました。
④5S 活動についてスタッフと協力し合い取り組みました。入所者の方に喜んでいただけるように設えにも力を入れました。季節ごとの設えやユニット内の片づけパソコン周りの整理整頓が毎日できるようにすすめました。これにより退所後の整理整頓が迅速にできました。

- ・紅ユニット：①認知症の進行が著しい入居者の対応に苦慮しているが、その方に寄り添い穏やかに生活していただけるように職員間で連携し情報共有を密に行った上で笑顔で対応することを徹底しました。
- ②不適切ケアを見たり聞いたりした時には注意し合い各々が意識して不適切な言動の撲滅に取り組みました。
- 月に一回の行事については音楽祭・ボーリング大会・秋祭りなどを実施し、入居者に楽しんでいただきました。
- ③毎日、昼食前にパタカラ体操を実施し、嚥下機能の維持に努めました。
- 課題としては入居者に楽しんで参加していただけるような工夫も必要だと感じました。今後は、季節の歌や体操なども取り入れながら継続して取り組んでいきます。
- 陰部洗浄は毎日欠かさず行い、尿路感染予防に努めました。
- ④職員間の報告・連絡はケアカルテやノートで共有できました。
- また、入居者の状態変化に応じ尿量に応じたパット選びを適宜行い無駄のないように取り組みました。

- ・暁ユニット：①その方の世界観を理解し、一人ひとりに合わせた声掛け・対応を行い、安心して過ごしていただけるように支援しました。
- ②入居者の思いを汲み取り、希望に沿ったお誕生日企画や行事企画を実施しました。また、季節ごとの壁画制作や、おやつ作りを行う事で、毎日の生活に楽しみを持っていただけるように努めました。
- ③職員に対する依存度が高い方にも、声掛けや傍に寄り添いながら歩行・自走を促し残存機能維持に繋げました。
- 水分強化については、個々の状態・嗜好に合わせてポカリゼリーや温かい飲物を提供するなどの工夫を行い、水分摂取に繋げました。
- ④ノーリフティングケアにおいては、入居者の状態変化に応じて随時機能訓練士に相談して対応することで安全確保に努めました。
- 不適切ケアについての取り組みは、不適切な言動があった場合は職員同士で注意し合い何が問題だったのか話し合うことで意識改善に繋がりました。

3. 看護部門

- ① 入居者・利用者が日々、安心・安全・安楽に過ごせるように多職種と連携しながら、見守り機器を活用し、情報共有を図りました。また嘱託医もしくはかかりつけ医への上申、指示のもと、内服治療や入院対応など早期対応・早期治療が行えました。急変時にはチームリーダーとして多職種と連携強化し対応しました。
- ② 看取りケアについても多職種と日々の申し送りやカンファレンスで共有することで看取り導入や看取り期の日々のケアについて入居者にとって安楽に最期を迎えられるように個々に応じた対応を行うことができました。
- 認知症ケアについても日々の業務の中、一緒に対応の検討をすることで入居者にとって、その人らしい生活が送れるようにチーム一員として取り組むことができました。
- ③ 今年度はコロナ感染症の発生がありましたが1ユニットだけにとどまり、それ以上の拡大はなく、変わらない日々に戻ることができました。また職員の罹患者が出た場合も

早期対応にて職員一人ひとりが予防行動できたことで拡大せず、面会も継続して続けることができました。

研修の参加や地域活動への参加は医務室の一部の職員にとどまっている為、全員が積極的に参加できるように努め、日程を明示するなどして取り組んでいきます。

- ④ 医務内で情報共有を会議や LINE などを利用し行うとともに、他部署としっかりと連携し、入居者・利用者にとって負担のないケアや処置を行うことができました。また日々の業務やイベントなど協働して行うことでお互いが業務遂行できました。今後も多職種の協働に努め、働きやすい職場にしていきます。

①診療状況（天橋の郷） 単位：件

（ア）天橋の郷

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
6年度	実数	93	3	0	20	0	11	0	0
	延数	805	17	0	71	0	105	0	0
7年度	実数	93	8	0	38	0	11	0	0
	延数	878	35	0	354	0	89	0	0

（イ）他の医療機関 通院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
6年度	実数	5	16	4	1	0	0	1	0
	延数	7	45	13	1	0	0	5	0
7年度	実数	9	12	7	2	1	0	1	0
	延数	14	23	16	8	6	0	8	0

（ウ）他の医療機関 入院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
6年度	実数	10	3	1	0	0	0	0	0
	延数	10	3	1	0	0	0	0	0
7年度	実数	11	1	2	0	2	0	0	0
	延数	12	1	3	0	3	0	0	0

②健康診断等の実施状況

	対象人数	胸部集団検診
6年度	68 人	令和 6 年 10 月 21 日
7年度	67 人	令和 7 年 10 月 20 日

4. 支援室

- ① 多職種と連携し、安心で安全な生活を送られるよう支援しました。骨折事故は 4 件と前年度より減少しました。また感染症は流行時期に一部のユニットで発生しましたが、適切な感染予防対策により、それ以上の拡大を防ぐことができました。虐待の防止については、委員会などで研修を実施し、不適切ケアの防止に努めることで、入居者やご家

族に安全な施設であることを認知していただきました。

- ② ご本人やご家族の意向を確認し、本人が望まれる施設生活となるよう支援しました。
日々の生活の中で少しでも楽しみのある生活を提供しました。
 - ③ 入居者やご家族の要望については、できるだけ柔軟に対応しました。外出の要望には
出かけやすい準備を行い、ご家族に負担がかからないように支援しました。また日頃か
ら小さなことでも細やかな報告を行い、ご家族との信頼関係の構築に努めました。
 - ④ ミニコンサートや宮津踊り、傾聴など地域の団体やグループなどのボランティアを積
極的に受け入れることで、入居者に楽しみを提供し、安心感のある施設生活の提供を行
うことができました。また、1年を通して桜の花見や紅葉ドライブなど季節に応じた行
事を企画し、入居者に楽しんでいただきました。
- 毎月送付していたお便りは3か月に一度になりましたが、入居者のご様子を定期的にご家族にお伝えすることができました。
- ⑤ 居宅介護事業所と連携する中で入居者の確保を行い、退所者が出た場合の次期入所者
は概ね5日以内に調整することができました。ただ入院者が多く、その間空床がでたた
め、稼働率は98.7%と昨年度とほぼ横ばいで、目標稼働率の99.2%を達成できませんで
した。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在苑者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合 計
6年度	78 件	0 件	23 件	1 件	0 件	102 件
7年度	87 件	0 件	23 件	1 件	0 件	111 件

(イ) 待機者数（地区別）

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合 計
6年度	27 人	42 人	5 人	5 人	79 人
7年度	31 人	48 人	4 人	4 人	87 人

(ウ) 待機者数（介護度別）

介護度 年度	要支援・他	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
6年度	1 人	0 人	4 人	44 人	17 人	13 人	79 人
7年度	1 人	0 人	0 人	51 人	19 人	16 人	87 人

(エ) 退去状況（特養）

退去先 年度 区分		自宅・家族宅	医療機関（入院）	看取りによる死亡	その他	合 計
6年度	人数	0 件	4 件	16 件	3 件	23 件
	比率	0%	17%	70%	13%	100%
7年度	人数	0 件	2 件	17 件	4 件	23 件
	比率	0%	9%	74%	17%	100%

5. 給食部門

- ① 令和7年度も、地産地消を推進しながら地元の新鮮な食材を使用したメニューにより、
ご利用者に季節を感じていただける楽しくておいしい料理を提供することを調理室スタ

ップ全員で取り組みました。また、部署ごとの季節の行事食やおやつなどを工夫しながら実施しました。2月には調理職員が、デイサービス、ショートステイ、暁ユニットに出向き、ご利用者の前ににぎり寿司を握り提供しました。

- ② ご利用者の栄養状態、嚥下状態、アレルギー、嗜好等を把握し、他部署と相談しながら個々のご利用者に合わせて食事を提供することで、健康状態が維持できるように栄養管理を行いました。
- ③ 天橋の郷デイサービスとはまなす苑の平日持ち帰り弁当の提供や土日の配食サービスは、お弁当を丁寧に作り安否確認を兼ねてお届けすることができました。
- ④ 青空食堂にて災害時用ガスコンロと炊飯器を利用し、5月にカレーライスを提供しました。
- ⑤ 人材育成面では、個々の職員に合わせた指導を実施し、効果的な指導体制がとれるよう努力しました。また、調理ミーティングを毎日実施し、調理方法の把握と統一を行うことにより効率よく業務が行えるようになりました。
- ⑥ 環境面では、労災事故もありましたが、設備の美化に努めると同時に古くなっている厨房機器の入れ替えも実施しました。次年度以降も作業効率向上の為に計画的な入替を検討していきたいと考えます。

①提供実績

(ア) 延食数

年度 \ 区分	特養	短期入所	通所
6年度	25,104 食	6,063 食	10,913 食
7年度	25,182 食	6,232 食	11,411 食

(イ) 栄養基準（1日あたり）

項目 \ 区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μgRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基準	1,400	50	550	30	6	560	1	1	100
6年度	1,431	57	468	39	4.9	432	0.7	0.8	69
7年度	1,425	56	468	39	4.8	419	0.7	0.8	67

(ウ) 食品群別摂取量（1人1日当たり食糧構成）

（単位：g）

群 類 \ 区 分	穀類	いも及びでん粉類	砂糖及び甘味料	菓子類	油脂類	種実類	豆類	魚介類	肉類	卵類	乳類	淡色野菜類	緑黄色野菜類	果実類	藻類	嗜好飲料類	調味料及び香味料	調理加工品類
目標	180	40	10	10	3	1	50	70	50	20	250	160	80	50	5	5-	40	5-

7 年度	165	36.7	7.1	35.9	2.2	1	37.7	69.9	55.3	10.4	280	154	77.4	47.1	2.8	13	3 2 . 2	0.5
------	-----	------	-----	------	-----	---	------	------	------	------	-----	-----	------	------	-----	----	------------------	-----

6. 天橋の郷短期入所生活介護事業所

- ① 居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、医療機関、他福祉サービス事業所と連携をすることで、退院後の在宅復帰支援や介護者の急病などの緊急時の受け入れにも柔軟に対応することができました。また、利用中の様子や身体状況を担当ケアマネや関係機関へ迅速に報告・情報共有し、切れ目のない支援体制を構築することによって、地域包括ケアシステムの一翼を担う短期入所生活支援事業所として、在宅生活の継続支援と介護者の負担軽減を目的に安定したサービスを提供することができました。

稼働率は年間 87%、新規ご利用者 65 名と前年度同様の高い数字を維持することができました。今後も地域に必要とされる短期入所生活介護事業所として、多職種連携を強化し、地域の方が安心して在宅生活を継続できるように支援していきます。

- ② 終末期のレスパイトケアでは、介護者の身体的・精神的負担の軽減を図るとともに、介護疲れによる在宅生活の継続困難を防ぐことを目的として医療機関、訪問看護との連携を深め、ご利用者の心身状態や医療的ニーズをしっかりと把握し、現場に細かく情報伝達することで看取り期において可能な限り利用していただくことができました。
- ③ 利用期間中に楽しみや生きがいを感じていただけるようにご利用者の声や家族からの意見を取り入れながら、季節に合った外出や外食などの行事企画、誕生日カードの作成、製作活動や歌、体操などのレクリエーションを実施し、ご利用者の満足度向上に繋げることができました。また、その様子を SNS で発信することでご家族や地域、関係機関にも短期入所生活支援事業所の特色や支援内容、ご利用者の表情や様子、施設の雰囲気を知っていただき、ご家族との信頼関係の構築や新規ご利用者の獲得にも繋がりました。
- ④ 地域共生社会の実現に向け、共生型サービスを通して多様なご利用者の受け入れ体制の構築に努めてきましたが、関係機関への情報発信不足や利用ニーズとのマッチングが難しく、年間新規ご利用者が 2 名と大きなサービス拡大には繋げることができませんでした。関係機関との連携を強化するとともに、地域への周知強化、障害者ケアのスキルアップに努めて地域に求められる共生型サービスを目指します。
- ⑤ 支援室の中で特養と短期入所生活介護事業所の部署の分け隔たりをなくし、お互いにカバーできるところは協力して業務を行うことに努め、業務内容や役割分担の見直しを行うことで時間外労働の削減につなげることができました。また、有給休暇が取得しやすい雰囲気づくりや家庭事情に配慮した柔軟な勤務調整を行い、ワークライフバランスに配慮し、仕事と私生活が両立した働きやすい職場環境を構築することができました。

・介護部 昴、虹ユニット

- ① 服薬後の口腔内の確認を疎かにしたことに起因する飲みこぼしの事故が 1 件ありました。緊急対策会議を開き、原因分析、再発防止策を検討し職員一人ひとりが意識し服薬マニュアルを遵守した上で一つ一つの確認をしっかりと行うことを徹底することで再発防止につなげることにしました。

- ② ご利用者に対して居心地良く過ごしていただくように接遇に心がけました。一方で業務が立て込んだ際に表情や言葉遣いに余裕がなくなり配慮に欠ける場面もみられました。今後は忙しい状況でも一定の接遇レベルを維持できるように普段から意識して取り組んでいきます。
- ③ ご利用者の希望や季節ごとの喫茶店等の外食、カラオケ、お花見ドライブ、おやつ作り、飾り作り等の行事を毎月実施できました。日常的にレクリエーションを取り入れご利用者に喜んでいただくことができました。次年度もご利用者が満足していただけるよう取り組みます。
- ④ 動画研修や施設内外の研修を活用し介護技術及び専門知識の向上に取り組むとともに、ケアカルテ上での介護記録・カンファレンスを通じた情報共有で介助時の外傷や転倒事故件数が減り、共生型のご利用者の対応など連携したケアが実施できました。

①利用者の状況

(ア) 稼働率（定員：20名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
6年度	365日	6,102人	16.7人	83.6%
7年度	365日	6,383人	17.5人	87.5%

(イ) 契約数

年度 \ 区分	新規入所者
6年度	62人
7年度	65人

(ウ) 地区別 入所状況

年度 \ 地域	宮津市	与謝野町	福知山市
6年度	142人	4人	2人
7年度	138人	5人	1人

(エ) 介護度別 入所状況

介護度 性別 年度	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
6 年度	13	16	17	24	7	22	10	20	7	6	54	88	
7 年度	9	19	9	23	11	20	9	20	6	12	44	94	
平均要介護度	6 年度				2.8				7 年度				2.8

(オ) 介護度別 入所状況（予防）

年度 \ 要支援度 性別	要支援1		要支援2		合 計	
	男	女	男	女	男	女
6年度	0	1	1	2	1	3
7年度	0	1	0	1	0	2

(カ) 介護度別 入所状況（共生型）

年度	性別	合 計	
		男	女
6 年度		1	1
7 年度		2	2

(キ) 介護度別 延入所状況

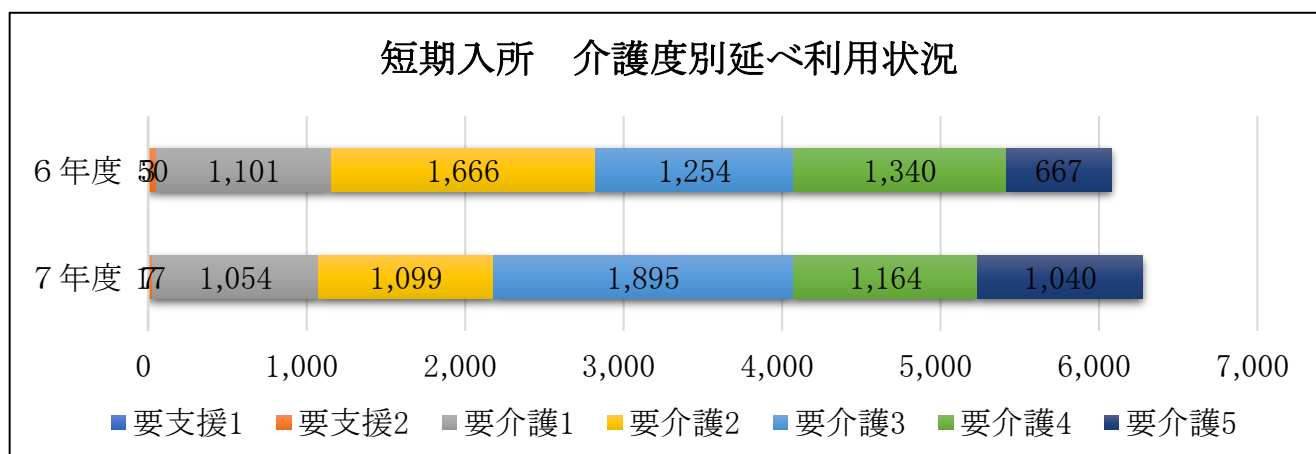
介護度 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	共生型
6 年度	3 人	50 人	1,101 人	1,666 人	1,254 人	1,340 人	667 人	21 人
7 年度	7 人	17 人	1,054 人	1,099 人	1,895 人	1,164 人	1,040 人	107 人

(ク) 年度別 (新規契約者数の状況)

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	43 人	47 人	62 人	65 人
内 予防	3 人	2 人	6 人	2 人
内 障害			2 人	2 人

②加算算定の状況

加算項目 年度 金額	機能訓練体制 加算 (12)	サービス提供制強 化加算 II (18)	サービス提供体 制強化加算 I (22)	夜勤職員配置 加算 II (18)	在宅中重度者 受入加算 4 (425)	送迎加算 (184)
算定回数(回)	6,276	0	6,276	6,252	9	2,376
金 額(円)	753,120	0	1,380,720	1,125,360	38,250	4,371,840
加算項目 回数 金額	緊急短期入所 受入加算 (90)	処遇改善 加算 I	地域外送迎	長期利用者 提供減算	生産性向上 推進体制加 算 I (100)	生産性向上推 進体制加算 II (10)
算定回数(回)	7		226	29	831	0
金 額(円)	6,300	8,616,200	113,000	-8700	831,000	0
加算項目 回数 金額	栄養士配置 加 算 I (22)	食事提供体制加 算 (48)	共生型送迎加 算 (186)	福祉専門職員 配置等 加算 (15)	共生型処遇 改善加算 I	加算収入額 合計
算定回数(回)	55	55	43	107		
金 額(円)	12,100	26,400	79,980	16,050	173,370	17,534,990



7. 天橋の郷通所介護事業所

一年を通じて毎日の活動や行事企画の充実により、ご利用者に一層楽しんでいただき休まずに行きたいと思っていただけるように努めました。また、毎月 2 回天橋の郷でフード

&リカー・ヤノ様の食料品などの販売の取り組みを始めました。栗田由良地域の方など買物が難しい方を中心に大変喜んでいただけており、ご利用者の楽しみを増やすことができました。

日常のケアでは、自立支援と機能維持に重点を置いたケアを継続して行いました。また、ケアマネジャーなど関係機関と連携しご利用者の住環境や身体機能を踏まえた介護方法や福祉用具の提案を行い、在宅生活の充実やご家族の介護負担軽減を図るなどご利用者の在宅生活継続に繋がるように努めました。

稼働率では、目標の 84%を達成することができました。例年稼働率の下がる冬季にも皆様にご利用いただき目標稼働率達成に繋がりました。サービス内容の充実により、寒い時期でも天橋の郷デイサービスに行きたいと思っただけたと捉えております。次年度も現在の取組を継続すると共に、職員の負担軽減など働きやすい職場環境の維持・構築にも力を入れ、より一層内容の充実とチーム力の向上を図っていくことで目標稼働率が達成できるよう努めます。

- ① 京都式選べるデイサービスに継続して取り組み、毎日 3～5 グループの活動の場を提供しました。制作活動や園芸活動など、ご利用者の要望を確認しながらすすめました。行事企画でもご利用者の希望を把握し、ニーズに合った企画を毎月 2 回以上実施しました。日々の活動と共に行事企画がご利用者の楽しみとして定着し、増回や利用継続など稼働率向上に繋がっています。
- ② 感染症対応では、スタンダードプリコーションの徹底による感染症予防に努めましたが、職員罹患からの感染拡大があり併設事業所にも影響を出してしまいました。同居家族体調不良時の対応が不十分だったことで発生しており、次年度は職員一人ひとりが感染症予防の意識を高く維持できるよう日々確認を行い、事業所に感染症を持ち込まないよう今一度感染症対策の周知徹底を行います。
- ③ 毎日のミーティングや毎月のデイ会議で利用者一人ひとりについて確認し、職員の気付きの共有を行いました。それにより適切な対応の統一ができ、ご利用者に心地良く過ごしていただくことができました。次年度も気付きの共有をしっかりと行い、一層心地良く過ごしていただけるよう努めると共に体調不良等、変化に対して迅速に対応を行います。
- ④ 栗田のびのび放課後児童クラブとの交流会や栗田地区文化祭への出展を行いました。栗田のびのび放課後児童クラブとの交流会はご利用者の楽しみとして定着しており、文化祭への出展は制作活動の意欲向上に繋がっているため、次年度も取り組みを継続して行います。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率 (要介護者及び要支援者)

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
6 年度	35 人	258 日	7,360 人	81.5%	1.5
7 年度	35 人	259 日	7,643 人	84.3%	1.6

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
6 年度	2,784 人	2,079 人	510 人	405 人	138 人	5,916 人
7 年度	3,029 人	2,129 人	668 人	715 人	0 人	6,541 人

(ウ) 介護度別利用状況 (介護予防)

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	合 計
6 年度	470 人	974 人	1,444 人
7 年度	416 人	686 人	1,102 人

(エ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	40 人	44 人	35 人	32 人
内 予防	9 人	10 人	8 人	5 人

②加算算定の状況

(ア) 通所介護

加算項目 回数 金額	個別機能訓練加算Ⅰ (56)	個別機能訓練加算Ⅱ (76)	個別機能訓練加算Ⅲ (20)	認知症加算 (60)	入浴介助加算Ⅰ (40)	口腔機能向上加算Ⅱ (介護) (160)
算定回数(回)	630	4,081	883	1,094	5,783	1,091
加算収入額(円)	352,800	3,101,560	166,600	656,400	2,313,200	1,745,600

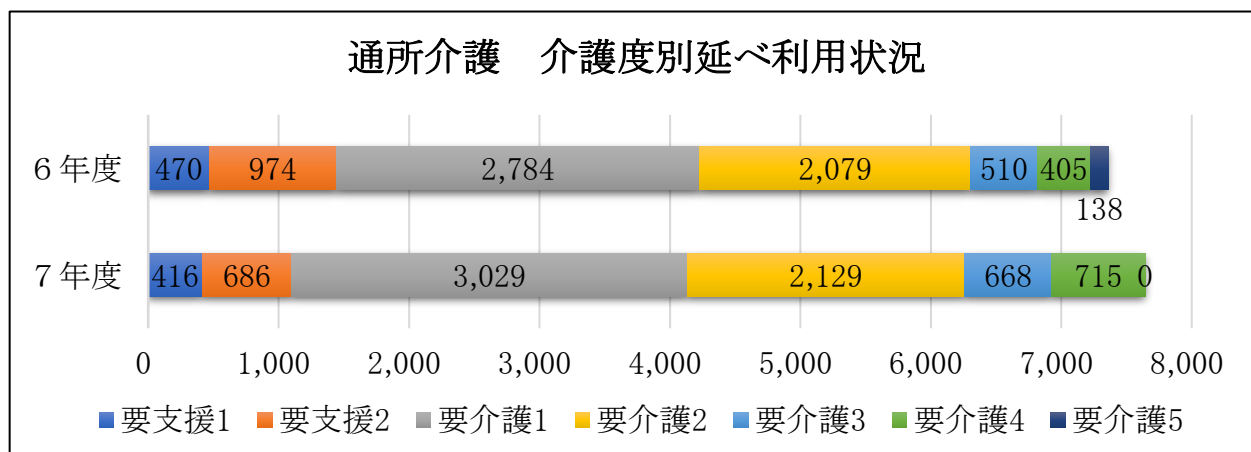
加算項目 回数 金額	ADL 維持等加算Ⅰ (30)	科学的介護推進体制加算 (介護) (40)	送迎減算 (-47)	サービス提供体制加算Ⅱ (18)	処遇改善加算Ⅰ (介護) 等
算定回数(回)	963	962	297	6,562	963
加算収入額(円)	288,900	384,800	-139,590	1,181,160	5,495,990

通所介護 合計加算収入額	15,547,420 円
--------------	--------------

(イ) 予防通所

加算項目 回数 金額	サービス提供体制加算ⅡⅠ (72)	サービス提供体制加算ⅡⅡ (144)	口腔機能向上加算Ⅱ (160)	科学的介護推進体制加算 (40)	処遇改善加算Ⅰ 等
算定回数(回)	109	99	135	208	208
加算収入額(円)	78,480	142,560	216,000	83,200	546,420

予防通所介護 合計加算収入額	1,066,660 円
----------------	-------------



8. Re-s t y l e 通所介護事業所

令和7年度は、目標稼働率68%を上回る71.8%を達成し、1年を通して地域に根ざし、安定した運営を行うことができました。年間31名の新規利用者がある一方、中止者も20名にのぼりましたが、近年の社会情勢による健康意識の高まりから継続的な申し込みをいただき、活気ある状況が続いております。要介護4から事業対象者まで幅広い層に対し、多様なニーズに寄り添った柔軟なサービス提供を実践しました。令和8年度に向けては、この柔軟な対応力を維持しつつ、ご利用者が「継続して通いたい」と思える環境作りと、さらなるサービスの質向上を目指します。

①機能訓練等サービスの充実

身体機能の維持・向上に向け、マシントレーニングや全身体操に加え、ボールやマットを用いた多角的なメニューを提供しました。あわせて、認知機能の維持を目的とした「脳トレ」と運動を組み合わせたプログラムや、屋外ウォーキング、口腔体操などを計画的に取り入れることで、マンネリ化を防ぎ、意欲的に継続できるメニューを提供しました。また、定期的な体力測定を通じて個々の身体状況への理解を深めるとともに、数値の変化を共有することで、ご利用者の目標意識やモチベーションの向上に繋げることができました。

②生活機能訓練と楽しむプログラムの両立

口腔機能の維持や指先の巧緻性を高める実践的な訓練に加え、音楽やゲーム、園芸、制作活動などの多彩なレクリエーションを年間通して実施しました。これらのプログラムを、職員が毎月アイデアを出し合い、ご利用者の興味・関心に合わせて計画的に実践したことで、日々の活気や「通う楽しみ」を継続することに繋がりました。こうした充実した活動内容が利用者様の高い満足度と定着に結びつき、結果として年間を通じた安定した稼働率の維持・達成へと繋げることができました。

③地域連携の強化と社会貢献活動の推進

地域密着型デイサービスとして、ご利用者の心身の変化を速やかにご家族や介護支援専門員、包括支援センターへ報告し、緊密に情報共有を行うことで、ご利用者の状態に合わせた最適な支援を実践しました。また、地域ケア会議へも積極的に参加し、専門職間のネットワーク構築に努めるとともに、天橋立清掃などの地域活動に法人職員として貢献することができました。今後はこうした繋がりをさらに大切にしながら、より一層「リスタイルを利用したい」と地域の方々に頼っていただける存在を目指して、職員一

同取り組んでいきたいと考えています。

④接遇スキルの向上と安全管理の徹底

職員全員が、ご利用者への敬意を持った言葉遣いや寄り添う姿勢を大切にし、リスク委員が中心となり接遇スキルの向上に努めました。安全面では、ヒヤリハット報告を継続していますが、業務への慣れによる報告漏れが増えており、改めて些細な気づきを共有する意識付けを徹底していきます。また、今期は冬季の降雪による車両事故が課題となった反省を活かし、乗車前点検の徹底や送迎ルートの再確認を行い、事故ゼロを目指した安全対策を強化する方針です。あわせて、備品収納などの5S活動にも注力し、より安全で過ごしやすい環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率(要介護者及び要支援者)

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
6年度	AM・PM 15/15	258 日	5,235 人	67.6%	0.84
7年度	AM・PM 15/15	259 日	5,576 人	71.8%	0.90

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
6年度	1,342 人	556 人	184 人	96 人	0 人	2,178 人
7年度	1,374 人	555 人	136 人	187 人	0 人	2,252 人

(ウ) 介護度別利用状況(介護予防)

介護度 年度	事業対象者	要支援 1	要支援 2	合 計
6年度	164 人	2,162 人	731 人	3,057 人
7年度	120 人	2,185 人	1,019 人	3,324 人

(エ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度実績
新規契約	28 人	12 人	32 人	30 人
内 予防	22 人	7 人	20 人	17 人

②加算算定の状況

(ア) 通所介護

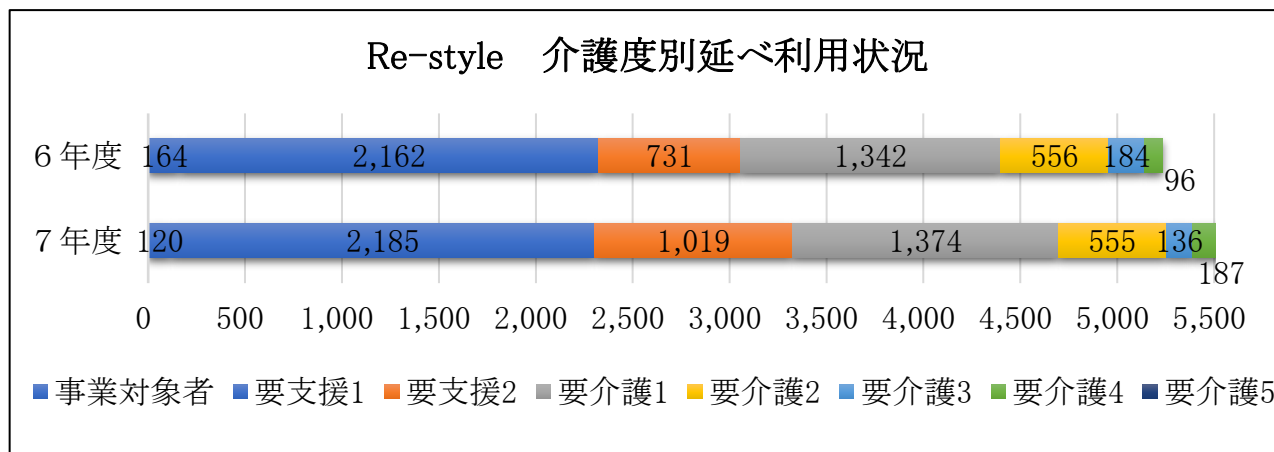
加算項目 回数 金額	個別機能 訓練加算 I 1 (56)	ADL 維持等 加算 I (30)	科学的介護 推進体制加算 (40)	送迎減算 (-47)	サービス提供 体制加算 I (22)	処遇改善加算 I 等 (92/1000)
回数(回)	2,036	556	556	13	2,277	556
加算収入額(円)	1,140,160	166,800	222,400	-6,110	500,940	1,135,540

通所介護合計加算収入額	3,159,730 円
-------------	-------------

(イ) 予防通所

加算項目 回数 金額	サービス提供 体制加算ⅠⅠ (88)	サービス提供 体制加算ⅠⅡ (176)	科学的介護 推進体制加算 (40)	送迎減算 (-47)	処遇改善加算 Ⅰ等 (92/1000)
回数(回)	593	238	831	10	831
加算収入額(円)	521,840	418,880	332,400	-4,700	1,878,810

予防通所合計加算収入額	3,147,230
-------------	-----------



9. はまなす苑通所介護事業所

令和7年度もご利用者に満足いただける施設づくりや地域に向けた取り組みを行うことができ、ご利用者や地域の皆さまにも大変喜んでいただくことができました。

稼働率では令和6年度と比較すると成果をあげることができましたが、新規契約者は令和6年度に比べ少なく利用中止者の方が多くみられました。また、後半では自宅での転倒や病気で入院される方なども多数重なり、目標の稼働率に届くことができませんでした。

令和8年度は、新たにリハビリに特化した曜日を設け、由良地区の事業対象者および要支援者の健康維持を目的として精力的に活動し、新規ご利用者の獲得に努め目標稼働率の達成を目指します。

① 質の高いケアの提供

ご利用者一人ひとりを尊重し丁寧な対応を心がけてきました。また、笑顔を忘れず接することでご利用者のたくさんの笑顔を見ることができました。認知症の方が安心して利用していただけるよう適切な対応、環境づくりに努め取り組むこともできました。

② QOL 向上に繋がるご利用者本位のサービス提供

ご利用者主体で認知症の方や個々の身体状況に配慮しながら全員で楽しみレクリエーションを提供しました。また、レクリエーションを通して「楽しみ、生きがい」を見つけていただくことで身体機能だけでなく精神面も向上し、QOLの向上につながるご利用者もおられました。積極的な屋外活動はできませんでしたが、令和8年度は事業対象者、要支援者を中心に屋外活動に力を入れ活動していきます。

③ 四季の行事・外出

定期的な例年通りのイベントに加え、外食や外出企画ではアンケートを実施しご利用者とのコミュニケーションの中で行き先を決め、皆さんの希望を叶えることができとて

も喜んでいただくことができました。

④ 地域貢献活動

令和 7 年度も地域の皆さまの協力もあり「はまフェス」を開催することができました。また、地域のイベントにも多数参加させていただき精力的に活動を行うことができました。はまなすマルシェや子ども食堂への寄付も行うことができ、充実した 1 年となりました。令和 8 年度も継続し地域の方といっしょに作り上げるイベントを多数開催していきます。

① 利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
6 年度	20 人	258 日	3,581 人	69.4%	2.2
7 年度	20 人	259 日	3,868 人	74.7%	2.1

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
6 年度	503 人	1,512 人	618 人	407 人	146 人	3,186 人
7 年度	847 人	1,480 人	700 人	305 人	158 人	3,490 人

(ウ) 介護度別利用状況（介護予防）

介護度 年度	事業対象者	要支援 1	要支援 2	合 計
6 年度	0 人	35 人	360 人	395 人
7 年度	0 人	40 人	338 人	378 人

(エ) 年度別（新規契約者数の状況）

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	11 人	9 人	22 人	11 人
内 予防	3 人	3 人	4 人	4 人

② 加算算定の状況

(ア) 通所介護

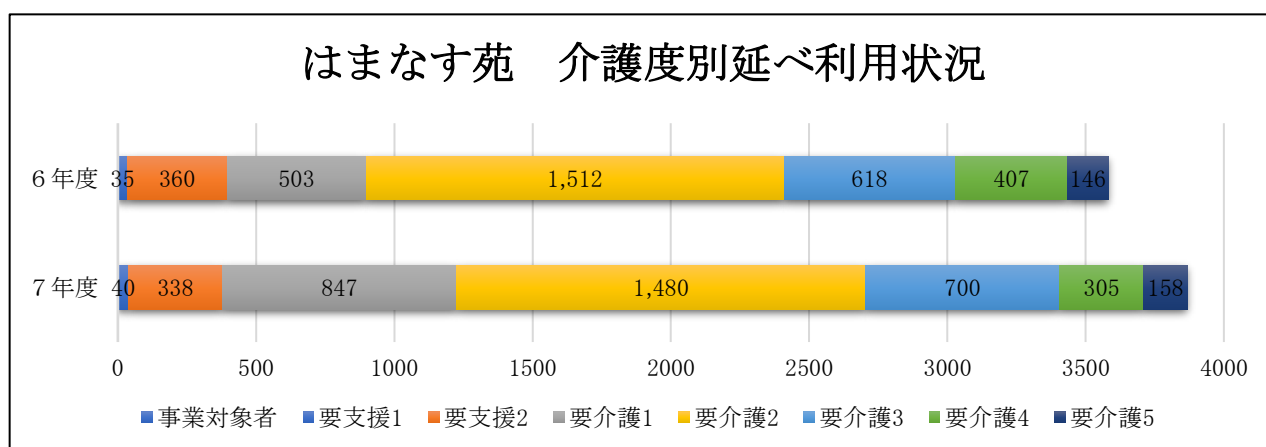
加算項目 回数 金額	入浴介助 加算 I (40)	認知症加算 (60)	送迎減算 (-47)	サービス提供 体制加算 I (22)	口腔機能 向上加算 I (150)	科学的介護 推進体制加算 (40)
回数(回)	3,173	882	45	3,490	502	368
金額(円)	1,269,200	529,200	-21,150	767,800	753,000	147,200

加算項目 回数 金額	中重度者 ケア体制加算 (45)	処遇改善 加算 I 等 (92/1000)	合計
回数(回)	3,490	368	
金額(円)	1,570,500	3,056,880	8,072,630

(イ) 予防通所

加算項目 回数 金額	送迎減算 (-47)	口腔機能 向上加算Ⅰ (150)	サービス提供 体制加算Ⅰ (88)	サービス提供 体制加算Ⅱ (176)	科学的介護 推進体制加算 (40)	処遇改善 加算Ⅰ等 (92/1000)
回数(回)	5	4	10	54	64	64
金額(円)	-2,350	6,000	8,800	95,040	25,600	203,730

加算項目 回数 金額	合計
回数(回)	
金額(円)	336,820



10. 事務部門

経理事務の本部集約化に伴い事務体制を3名から2名へ変更し、法人財務課と緊密に連携を図りながら経営状況を把握し、業務改善に取り組みました。

天橋の郷開設20周年記念事業として、「20周年だよ郷フェスタ、これからも地域と共に！」をテーマに6年ぶりに郷フェスタを開催しました。多くの方の来場があり盛況に終えることができました。

ハード面においては開設から20年が経過し、建物の経年劣化や設備の老朽化による不具合が発生しているため、施設の大規模改修に向けた現状把握及び設備備品の更新計画を作成し、令和8年度予算に必要経費を計上しました。

経営面においては、保守契約、業務委託契約の更新時において、契約内容を精査し経費上昇を最小限に抑えました。

また、物価高騰が続くなか令和5年度より継続してCTY計画に取り組み、光熱水費や消耗品等節約に努め、経費上昇の抑制に努めました。

環境面では、5S活動を徹底し働きやすく安全な環境づくりを進めました。

質の高い介護サービス提供のためZOOMを活用しながら職員の研修受講を積極的に進め、職員の資質向上を図りました。

【配食サービス実績】

年度 \ 項目	介護配食	持ち帰り弁当
6 年度	1, 532 食	3, 019 食
7 年度	1, 200 食	3, 436 食

【おむつ等販売】

年度 \ 項目	販売数
6 年度	721 パック
7 年度	648 パック

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月 8 日	108 人	年 1 回
腰痛健診	9 月 8 日 2 月 12 日	83 人 82 人	半年に 1 回
深夜業務従事者健診	2 月 12 日	35 人	年 1 回
ストレスチェック	9 月 8 日	90 人	年 1 回

【職員研修参加状況】

①内部研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
職員総会・親睦会総会	41 人	事業計画、BCP 計画、コンプライアンスについて
感染症予防委員会施設内研修①	35 人	食中毒予防と手洗い研修
虐待・身体拘束対策委員会・事故対策委員会①	64 人	虐待・身体拘束動画研修
排泄ケア・褥瘡予防委員会	30 人	褥瘡予防・医療的ケアに関する研修
認知症ケア委員会研修	67 人	認知症について動画研修
感染症予防委員会施設内研修②	28 人	コロナ感染症とガウンテクニック
虐待・身体拘束対策委員会・事故対策委員会②	29 人	高齢者虐待・服薬事故について(応用編)
安全衛生委員会研修	35 人	健康講話(産業医)、腰痛予防体操(外部講師 PT)
生産性向上委員会研修	25 人	生産性向上について
口腔ケア研修	17 人	歯科衛生士による講話
実践報告会	46 人	各ユニット、事業所による報告

②外部研修

研修・会議名	参加人数	研修の開催方法・研修内容
福祉職マナーの極意((初任者向け))	1 人	こころに寄り添うコミュニケーション術(綾部ものづくり交流館)
キャリアアップ研修(中堅職員)	1 人	中堅職員としての役割(ZOOM)
京都府認知症介護実践者研修	2 人	認知症介護実践者研修 講義・課題・自施設実習(市民交流プラザふくちやま)
キャリアアップ研修(チームリーダー)	1 人	チームリーダーとしての役割(綾部ものづくり交流館)
若手職員の離職防止研修	1 人	働きやすい職場づくりシリーズ(ZOOM)
宮津市地域ケア会議①	3 人	昨年度の振り返りと今年度の予定について(福祉・教育総合プラザ)
栄養士等ネットワーク推進研修会	1 人	日本人の食事摂取基準 2025 年度版を知る(ZOOM)

		M)
生産性向上推進セミナー（中級編）	1人	取組の進め方、機器選定等（ZOOM）
生産性向上を行うリーダーのためのマネジメント研修	1人	リーダーに求められる業務改善の進め方等（京都経済センター）
京都府介護支援専門員 実務研修	1人	介護支援専門員実務研修（ZOOM）
テーマ別セミナー福祉業界のDXリテラシー	3名	福祉職場におけるDXの現状と主要なデジタル技術（ZOOM）
社会福祉専門セミナーⅢ	1人	対人援助の基本姿勢・相談面接技術セミナー「基礎編」（こどもみらい館）
特定給食施設従事者等講習会	1人	給食施設における衛生管理について・給食施設での災害時の備え（ZOOM）
企業内人権啓発推進員研修会、京都府企業内人権問題啓発セミナー	1人	公正な採用選考に関する説明・同和問題に関する講演（市民交流プラザふくちやま）
京都府北部社会福祉研修事業チームリーダー研修	1人	初任者等を指導する立場として、リーダーシップを発揮し指導するための手法を取得（京丹後市弥栄地域公民館）
京都府北部社会福祉研修事業チームリーダー研修振り返り研修	1人	リーダーシップを発揮し指導するための手法を習得（峰山地域公民館）
認知行動療法ワークショップ研修	1人	専門職としての力量を高める3つのちから（ZOOM）
京都府機能訓練指導員等研修会	1人	食事のポイントを知ろう～姿勢から考える日々の関わり～「実技編」（市民交流プラザふくちやま）
福祉リーダーの極意を学ぶセミナー	1人	どうすれば信頼される福祉リーダーになれるか（ZOOM）
キャリアアップ研修（管理者）	1人	管理職員としてのキャリアデザインと職場環境整備のあり方を学ぶ（京都テルサ）
発生要因から取り組みを考える管理者向け虐待防止・権利擁護研修	1人	虐待についての基礎や発生要因を学び、自施設で行える虐待防止策を考える（ZOOM）
科学的介護情報システム（LIFE）研修会	1人	LIFE 概要、評価項目に関する基礎知識（ZOOM）
宮津市地域ケア会議②	2人	調剤薬局の活動について（福祉・教育総合プラザ）
ユニットリーダー研修	1人	ユニットケア研修（ZOOM+実施研修）
スピーチロック防止研修	1人	言葉による抑制、虐待防止研修（ハートピア京都）
感染症予防対策研修会	1人	グループワークを通して対応を学ぶ（峰山地域公民館）
ゲートキーパー養成研修	1人	悩みを抱える人を適切に支援するための知識や役割の習得「メンタルヘルスの向上」（福祉・教育総合プラザ）
宮津市内の法人職員のためのスキルアップ講座	1人	ハンドマッサージ体験講座（マ・ルート）
宮津市内の法人職員のためのスキルアップ講座	1人	「聞こえにくいって」ってどんなこと？現場で伝えるコミュニケーションのコツ（青嵐荘）
職場のハラスメント防止研修	1人	ケースで学ぶハラスメント防止研修（ZOOM）
京都府北部社会福祉研修事業（カスタマーハラスメント研修）	1人	事例に学ぶカスタマーハラスメントの対処方法と働きやすい職場の作り方を学ぶ（ZOOM）
家族が抱く「いたみ」への共感と解決への「共同」	1人	障害者支援に携わる専門職の家族支援のスキルを磨く（ZOOM）
令和7年度実効性の向上に向けた災害福祉支援体制強化助成事業「災害福祉支援における社会福祉法人の新たな使命」研修	1人	京都DWA Tの活動を振り返り、また他県の取組から学ぶことにより、京都における災害福祉支援体制の今後を考える（ZOOM）
カスタマーハラスメント対策研修～働き続けたいと思える職場づくりに大切なこと～	1人	職員の心理的安全性を守り、利用者との信頼関係を築きながら組織として適切に対応するための知識（ZOOM）
令和7年度民間社会福祉施設長研修会	1人	虐待事件をきっかけに再起をかけた組織づくりについて（ZOOM）
令和7年度施設看取り専門研修	1人	看取りケアを深め、様々な看取りに対応できる職員を育成（ZOOM）
令和7年度虐待防止ネットワーク研修会	1人	虐待防止とアンガーマネジメント（福祉・教育総合プラザ）

「地域の支え合いによる移動支援」勉強会	1人	宮津市で課題となっている身近な地域における移動手段の充実向け「支え合いによる移動支援について」学ぶ（福祉・教育総合プラザ）
丹後地域病診連携多職種ミーティング	1人	丹後地域の医療・介護関係者の今後の連携のあり方について考える（ZOOM）
施設長向け介護施設における看取りケア研修	1人	施設看取りへの認識を深めること（ZOOM）
福祉サービス苦情解決事業相談研修会	1人	実践報告から学び、苦情を通じたサービスの質の向上を図る（ZOOM）
宮津市地域ケア会議③	7人	地域ケア個別会議、自立支援サポート会議から見えてきた課題について（福祉・教育総合プラザ）
北部医療センター府立医大教授の大学院特別講義	2人	フェーズフリー健康医療システムによる地域社会創生（ZOOM）

【地域貢献事業】

月	事業名	参加者数
4月～3月	オレンジカフェ推進事業（いちごカフェ、ゆら・リングカフェ）	315人
6月1日	獅子地区一斉清掃	5人
6月10日	栗田小学校3年生 交流	8人
8月7日	栗田のびのび放課後児童クラブ デイ利用者交流	21人
10月21日	栗田小学校3年生 交流	8人
12月3日	栗田小学校認知症サポーター出張授業	8人
12月17日	栗田幼稚園園児 クリスマスプレゼント交換	10人

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	実習内容	受け入れ人数
9月	京都府看護協会	訪問看護師養成講習	1人
9月	立命館大学	介護等体験	1人
10月	京都教育大学	介護等体験	1人

【ボランティア活動状況】

- 5月1日 音楽サークル ONCE NORE による天橋の郷 20周年記念イベント
- 5月20日 「縞の財布」盆踊り
- 6月20日 Sun Flower`sⅡによるコンサート
- 7月28日 篠笛 糸井様
- 8月21日 メダカバンド デイにてコンサート
- 10月15日 傾聴ボランティア 2名
- 11月14日 傾聴ボランティア 2名
- 12月10日 傾聴ボランティア 2名
- 12月15日 カレンド 年末コンサート
- 12月18日 みかんの花 デイにてコンサート
- 12月24日 めだかバンド デイにてクリスマスコンサート

2月19日 傾聴ボランティア 2名

3月13日 傾聴ボランティア 2名

【各種会議・委員会開催状況】

会 議 名	開催回数／年
業務運営会議	12回
入所判定会議	9回
安全衛生委員会	12回
感染症予防対策委員会	4回
認知症ケア委員会	5回
排泄ケア・褥瘡予防委員会	4回
事故虐待防止・身体拘束廃止委員会	4回
看取り委員会	4回
余暇活動プロジェクト会議	10回
施設マニュアル委員会	2回
地域貢献PR委員会	11回
生産性向上委員会	4回

リハ・ヴィラなぎさ苑 事業報告書

【年度総括】

令和 7 年度におけるリハ・ヴィラなぎさ苑の事業運営は、社会情勢の大きな変化と直面する諸課題に対し、全職員が「多機能型施設」としての専門性を発揮し、一丸となって取り組んだ一年でありました。

まず経営面において特筆すべきは、当施設が開設時に独立行政法人福祉医療機構より受けた借入金について、当初の計画通り令和 7 年度をもって全ての返済を完了したことです。開設以来、長きにわたり健全経営を維持し、この大きな節目を迎えられたことで、次年度以降はより柔軟かつ積極的な設備投資や人材育成へのリソース配分が可能となります。

一方、運営面においては、従来型施設特有の課題と向き合い続けた一年でもありました。当施設は、近年の主流であるユニット型施設とは異なり、多床室と個室が混在するフロアで最大 50 名のご利用者が集団生活を送る「従来型」の構造を有しています。この構造上、一旦感染症が発生すると、ユニット型に比べて隔離や動線分離の難易度が極めて高く、終息までに時間を要するリスクを常に抱えています。しかしながら、医師である施設長を中心とした感染対策委員会の指導のもと、職員一人ひとりが標準予防策を徹底し、発症時の迅速なスクリーニングとケアの質の維持に尽力いたしました。このような構造的な不利を、職員の連携と高い意識という「人的資源」でカバーすることで、ご利用者の安全確保に努めてまいりました。

こうした厳しい環境下にあっても、当施設の根幹である「在宅復帰超強化型」の機能は着実に向上しています。居宅介護支援事業所や医療機関との連携をさらに深化させた結果、在宅復帰率は前年度を 6 ポイント上回る 58.0%に達しました。また、Google Workspace の導入や AI 勤務表作成ソフト、移乗用リフト、見守り支援機器といった ICT・ロボット機器の積極的な活用により、生産性の向上と職員の業務負担軽減を同時に推し進めました。一部の接遇面における課題については組織として厳粛に受け止め、次年度は「風通しのよい働きやすい職場づくり」を加速させ、人材の定着とさらなるサービス質の向上を図ります。借入金完済という新たなスタート地点に立ち、地域のリハビリテーションの要として、安心・安全な介護サービスの提供に努めて参ります。

【年度目標に対する成果】

重点項目	年度目標	実 績
安定した経営	在宅復帰超強化型を基本として各専門職の知識、技術、研修に基づく各加算を取得していきます。	在宅復帰強化型の介護報酬を算定することは、なぎさ苑の経営を維持するために必須となっていますが、人口減少や感染症対応により厳しい状況です。しかし、今年度も全職員の努力により算定を維持することができました。
	居宅介護支援事業所や医療機関等と連携し安定したご利用者の確保に努めます。	なぎさ苑が地域の中で果たす役割は多岐にわたっています。「多機能型施設」の特色を生かして、サービスを提供することができました。
	全職員がコスト意識を持ち主体的に運営に参画し、業務効率化を図っていきます。	職員間でコスト意識が浸透した結果、主体的な取り組みが促進され、業務効率化とご利用者の安定確保に寄与しました。

	法人本部と連携を図り、業務の集約化と効率化を目指します。	法人本部と連携強化を進め、業務効率の向上に取り組みました。
	消費電力の節約と二酸化炭素排出量の削減に努めます。	各職員への節電促進、ボイラー運転時間の見直しを行い、切電に努めました。
安心・安全な介護サービスの提供	在宅復帰施設を基本とし在宅生活を維持していくための支援を行っていきます。	令和7年度の在宅復帰率は58%と前年度より6%高くできました。在宅生活を維持するための支援として、ショートステイ、デイケア、訪問リハビリを提供し、在宅から施設まで切れ目のない支援を行いました。
	多職種間の連携を図り、情報ネットワークの活用と情報共有に努めます。	公用車、会議室を効率よく使用するためにサイボウズの予約システムを活用しました。施設内の連絡手段として Googlechat、インカムを活用してスムーズな連携を実現できました。
	介護ロボットや ICT 機器を活用し、ご利用者の意思を尊重した環境整備を目指します。	見守り機器やインカムを使用することでご利用者が必要な時にすぐ対応できる体制を構築できました。
	科学的介護情報システム（LIFE）を活用して、質の高い支援を行います。	LIFE システムを用いた分析結果をもとに、個々のニーズに合わせた支援計画を策定し、質の高いケアの提供を実現しました。
	自然災害や感染症発生時には業務継続計画（BCP）を基に対応していきます。	BCP の訓練と施設内研修を実施することにより、平時に何を準備しなければならないのかを明確にすることができました。
	認知症の方の尊厳や個性を尊重し、チームケアを実践します。	施設内研修により、施設全体での認知症理解が深まり、尊厳を重視した対応がさらに強化されました。
	各個々の状態に対応した安心、安全な食事の提供を行なっていきます。	ご利用者の状態に応じた栄養バランスの取れたメニューを職員間で情報共有しながら、継続して食事提供を行いました。
	各種マニュアルの整備、見直しを随時、実施していきます。	年度のはじめにマニュアルの整備および見直しを実施しました。今後も運用の向上に向けた取り組みを継続します。
人材育成と確保	施設内研修（OJT）、施設外研修（Off-JT）、研究会等への参加を支援し職員の専門性向上を目指します。	研修への積極的な参加を通じ、個々のスキルアップとサービス向上が実現しました。
	e ラーニングを活用した研修機会を確保し、サービス向上に努めます。	施設内研修の企画および実施により、e ラーニングを活用した研修体制が確立され、職員の知識・技能が向上しました。
	新規採用、入職時には新任職員研修、他部署研修を実施し他部署を理解すると共にスムーズな連携を目指します。	各部署の特性理解を深める研修を実施することで、職員間の連携体制が円滑に整えられました。
	介護ロボットや ICT 機器導入により業務改善を継続的に行い、職員の業務負担の軽減と働きやすい環境を目指します。	眠りスキャンやインカムの導入により、職員間の連携強化を行いました。可動リフトの使用により、移乗介助の負担軽減が実現し、快適な職場環境が整備されました。
	新人事考課システムを活用し、客観的な評価の実施と職員のモチベーション向上を目指します。	評価の見える化が実現し、客観性の高い評価基準のもと、職員のモチベーション向上に繋がりました。
	福祉即戦力介護研修生の実習受入、学生の実習や体験学習の受入を行い、人材確保へ繋がります。	京都府立看護学校、龍谷大学短期大学部、YMCA 国際専門学校、福知山淑徳高等学校などからの受入れにより、各分野での人材育成基盤が強化されました。
	法人本部と協力したリクルート活動を実施し人材獲得に努めます。	各専門職による丁寧な施設説明が応募者への理解を深め、採用に繋がりました。
	ホームページ、SNS 等を活用した情報発信を行い人材確保に努めます。	毎月のお便りの発行により、施設魅力を発信し、人材確保への基盤を整えました。

地域貢献と連携	認知症カフェ、サポーター養成講座、健康講座などを実施・継続し、職員の専門知識を地域住民に提供します。	毎月開催の「須津なごさカフェ（認知症カフェ）」や、6月の吉津小学校児童対象の認知症サポーター養成講座の実施、さらに施設紹介を通じ、地域との連携が強化されました。
	地域住民が行うサロン活動の送迎等を始め、地域住民との繋がりを大切にします。	「せせらぎの会（ふれあいサロン）」開催日に公用車を利用した送迎支援により、地域住民との交流が深まりました。
	地域のニーズを把握し、行政や各関係機関と連携を図り対応していきます。	須津なごさカフェやせせらぎの会での交流を通じ、地域のニーズを把握し、行政等との連携に反映させました。
	地域サロン、勉強会、行政が行う研修会等へ職員を講師として派遣していきます。	地域で実施されるサロン、研修会などに職員を派遣し、専門職の知識を提供することで、地域住民との交流および健康促進に大きく貢献しました。

【部門別事業報告】

1. 介護老人保健施設

① 長期等利用者の状況

（ア）療養介護状況

区分 年度	入所稼働率 (短期入所含)	在宅復帰率	ベッド 回転率	重度化割合 要介護4・5	入所前後 訪問指導	退所前後 訪問指導
6年度	92.5%	52.0%	17.0%	27.0%	58.0%	66.3%
7年度	91.7%	58.0%	15.0%	27.0%	49.0%	51.3%

（イ）退所者状況(延人数)

区分 年度	在宅	在宅系施設	介護老人 福祉施設	他の老健	入院	死亡	その他	合計
6年度	78人	11人	48人	1人	30人	8人	11人	187人
7年度	79人	7人	29人	1人	24人	11人	4人	155人

（ウ）地区別 入所者数(延人数)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	京丹後市	合計
6年度	95人	82人	10人	11人	198人
7年度	81人	80人	11人	14人	186人

（エ）年齢・性別 入所者数(延人数)

年齢 性別 年度	65未満		65～69		70～79		80～89		90～99		100以上		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
6年度	0	2	1	2	9	14	15	58	21	67	2	7	48	150
7年度	1	1	1	1	8	6	18	52	18	70	0	10	46	140
平均年齢	6年度		男性		90.4歳		女性		90.1歳		合計		90.2歳	
	7年度		男性		85.0歳		女性		90.1歳		合計		88.8歳	

（オ）介護度別 入所者数・平均介護度(延人数)

(単位：人)

介護度 性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
-----------	------	------	------	------	------	-----

年度	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
6 年度	2	12	11	44	19	41	14	41	2	12	48	150
7 年度	6	15	5	36	19	42	10	37	6	10	46	140
平均要介護度	6 年度			3.0			7 年度			2.82		

(カ) 介護度別 延入居状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
6 年度	3,351 人	12,071 人	8,510 人	6,745 人	2,020 人	32,697 人
7 年度	3,362 人	9,864 人	10,419 人	6,878 人	2,114 人	32,637 人

(キ) 年度別（新規契約者数の状況）

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	101 人	84 人	94 人	90 人

② 加算算定の状況

加算項目 区分 (単位)	在宅復帰療養 加算Ⅱ(51)	夜勤職員配置 加算(24)	口腔衛生管 理Ⅱ(110)	認知症専門ケ ア加算Ⅰ(3)	生産性向上推 進体制加算Ⅰ (100)	生産性向上推 進体制加算Ⅱ (10)
算定延回数(回)	32,545	32,545	1,188	20,651	1,159	295
加算収入額(円)	16,597,950	781,080	1,306,800	619,530	1,159,000	29,500

加算項目 区分 (単位)	認知症短期集 中リハ加算Ⅰ (240)	認知症短期集 中リハ加算Ⅱ (120)	短期集中リハ ビリⅠ	認知症ケア加 算(76)	安全対策体制 加算(20)	療養食加算(6)
算定延回数(回)	2,005	591	3,576	16,616	151	32,367
加算収入額(円)	4,812,000	709,200	9,226,080	12,628,160	30,200	1,942,020

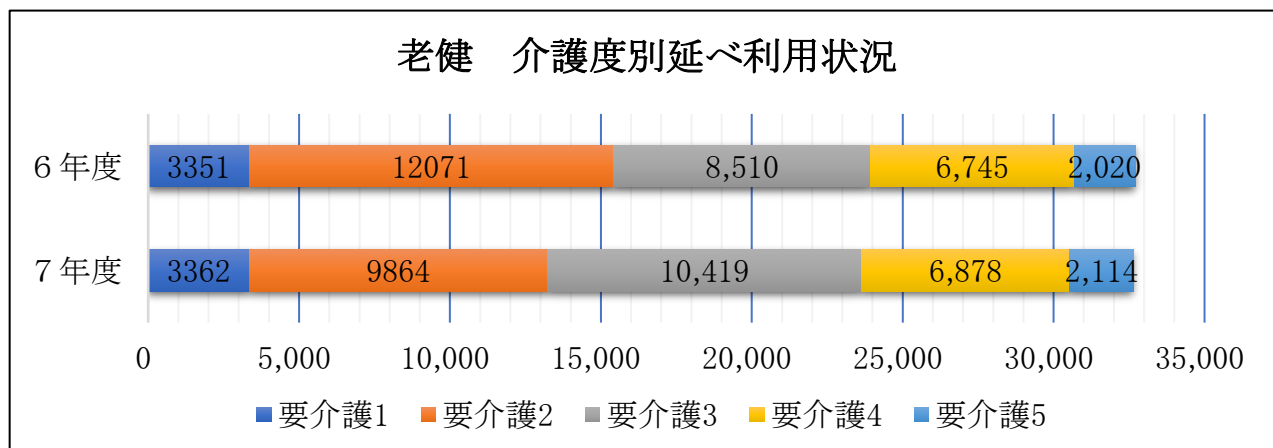
加算項目 区分 (単位)	経口維持Ⅰ (400)	経口維持Ⅱ (100)	栄養マネジメ ント強化加算 (11)	排せつ支援Ⅰ (10)	排せつ支援Ⅱ (15)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅰ(3)
算定延回数(回)	163	163	5,048	681	530	588
加算収入額(円)	644,000	163,000	555,280	68,100	79,500	17,640

加算項目 区分 (単位)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅱ (13)	科学的介護推 進体制加算Ⅰ (60)	科学的介護推 進体制加算Ⅰ (40)	リハビリマネ ジメント計画 (53)	リハビリマネ ジメント計画 (33)	初期加算Ⅱ (30)
算定延回数(回)	623	1,211	527	185	1,006	3,496
加算収入額(円)	80,990	726,600	210,800	98,050	331,980	1,048,800

加算項目 区分 (単位)	入所前後訪問 指導加算ⅠⅠ (450)	入退所前連携 加算Ⅰ(600)	退所時情報提 供Ⅰ(500)	退所時情報提 供Ⅱ(250)	ターミナル ⅠⅠ(72)	ターミナル ⅡⅡ(160)
算定延回数(回)	77	82	84	28	30	120
加算収入額(円)	346,500	492,000	420,000	70,000	21,600	192,000

加算項目 (単位) 区分	ターミナル 31(910)	ターミナル 41(1,900)	所定疾患Ⅱ (480)	介護サービス 体制加算Ⅱ (18)	介護職員処遇 改善加算Ⅰ	加算収入額合 計
算定延回数(回)	20	10	252	32,545		92,358,140
加算収入額(円)	182,000	190,000	1,209,600	5,858,100	29,510,080	

※ 介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和6年6月から処遇改善加算（Ⅰ～Ⅴ）として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。



2. 介護部門

(一般療養棟)

令和7年度に一般療養棟で重点的に取り組みを行ったこととしては、前年度末に受けた接遇に関する苦情について、個人単位、ユニット単位でテーマを決め取り組んだことを振り返り共有しました。今後はその場その場で指摘し合えるような関係を作り、さらに気持ちのこもった接遇につながるよう努力します。

日常のケアの場面では、ご利用者の目指す先を把握し、その時にあったケアの提供が出来るようご利用者の日常を観察し、必要に応じて多部署で連携を取ることに努めました。また、季節を感じていただけるような掲示物の作成と非日常を感じられるような行事の立案、実施をユニット発信で取り組みました。それらと並行して、移乗用リフトの導入でご利用者、職員共に負担の軽減となるために介護士全員が習得できるよう操作方法の学習に力を入れ、個々の苦手意識の払しょくに努めた結果、苦手意識の克服や技術習得を実感したことは成功体験となりました。また、必要に応じてシフトの変更や業務内容の精査、変更の実施で業務効率化を図り、そこから生まれた隙間時間の有効活用をご利用者の暮らしに還元できるよう職員への意識付けも行っているところです。来年度はさらに充実した隙間時間の有効活用を目指していきます。看取りケアについては、ご利用者の日常の様子、眠りスキンの活用で状態観察をし、変化に気付いた面については職員への啓発を行い、ケア方針の見直しにつながるよう働きかけました。

感染対策については、感染症発生時に行った対策について感染委員会を中心に振り返りを実施しフィードバックすることで、万が一感染症が発生した場合でも落ち着いて対応できるよう全職員に意識付けを行いました。今後は、有事の際の職員の配置、動きを潤滑に行えるか、また必要に応じて指示できるようにしていくことが重要であると捉えています。

人材育成については、職員不足のなか日常業務を遂行することに重点を置いたため、具体的な成果はありませんでした。来年度は職員それぞれの個性を活かした深みと思いやりのある人材育成に飛躍させるべく、風通しのよい働きやすい職場作りに取り組みたいと考えます。

(認知症専門棟)

令和7年度は引き続き感染対策を最優先事項として取り組んでまいりました。3月から4月にかけてはご利用者および職員、その家族への感染拡大により、一部業務縮小を余儀なくされる場面もありましたが、その後は発生を抑え、安心・安全な生活環境を維持することができました。今後も職員一人ひとりの意識を高め、感染症標準予防策の徹底に努めてまいります。人材育成においては、統一した指導とスキル実践による質の向上を図ってまいりました。今後も職員間のコミュニケーションを強化し、相互に協力し合える円滑な業務環境を整えてまいります。認知症専門棟として、ご利用者の生活歴や個別性を尊重したケアを意識するとともに、不適切ケアをフロア全体の重要課題として捉え、次年度に向けた意識向上と具体的な改善に取り組んでまいります。看取りケアについては、多職種連携のもと、ご家族への丁寧な説明と寄り添った関わりにより、穏やかな最期を迎えられる環境作りができたと考えております。次年度は感染対策を講じつつ、面会機会の確保など、介護職としてさらなる支援の在り方を追求してまいります。また、インカムや眠りスキャンの導入により情報共有が迅速化し、業務効率が向上しました。残された課題についても、継続的に改善を図ってまいります。

3. 看護部門

人材育成・社会活動・実習教育

- ・人材育成：全老健や看護協会が主催する研修等に延べ12名が参加しました。そのうち2名が「京都府看取り基礎研修」および「実習指導者講習会」を修了しています。これらの研修で得た知見を共有するため、4月に看護部伝達講習会を開催しました。
- ・社会活動：「看護の日」への職員派遣、京都府看護協会主催の研修会や地域住民を対象としたカフェへの講師派遣など、積極的に社会貢献に取り組みました。
- ・実習受入：京都府立看護学校の「老年看護学」実習施設として、17名の学生を受け入れました。独自の指導計画案や指導マニュアルの更新を行い、実習要綱に準じた丁寧な指導体制を整備しています。

ICT活用の推進と業務効率化

- ・Google Workspace：本格運用を開始し、チャット機能を中心とした部署間連携がインフラとして定着しました。これにより業務効率の大幅な向上が認められています。
- ・AI 勤務表作成ソフト「QOLUS」：1月に導入し、勤務表作成時間の大幅な削減を実現しました。希望申請ルールの一統により、平等でバランスの取れた勤務作成が可能となりました。
- ・オーダー管理・ワークシート：ワーキンググループを組織し、現場への定着を図りました。その結果、実施漏れの防止や観察ポイントの明確化、ダブルチェックの促進だけでなく、申し送りの質向上や記録時間の短縮といった多角的な効果を確認しました。

委員会活動およびケアの質向上

- 感染対策委員会：グループウェア上で施設全体の感染サーベイランスやマッピング情報を構築・運用しました。これにより感染症の早期発見と効率的な情報共有が可能となり、二次感染の防止やクラスター発生の抑制に繋がりました。また、環境整備（汚物処理室の補修やゾーニング）や、2月に実施した「感染症 BCP 訓練」を通じ、現場の対応力を強化しました。
- 皮膚排せつケア委員会：LIFE（科学的介護情報システム）へのデータ提出を継続し、ケアの質を追求しました。アセスメントに基づく体圧分散マットレスの整備等を進めた結果、褥瘡発生件数は14件（前年比5件減少）と改善が見られました。
- ACP（アドバンス・ケア・プランニング）：継続的な取り組みにより、今年度は13件の看取りを実施しました。
- 一部の職員による利用者様への不適切な言動（声掛け）の事案が確認されました。本件に関し、ご本人およびご家族に対し多大なるご心痛をおかけしたことを深く反省し、組織として厳粛に受け止めております。

4. 支援相談室

令和6年度末から令和7年4月にかけて、一般棟および認知症専門棟の各フロアで感染症クラスターが発生し、受け入れ制限を行った影響により、4月の入所稼働率は81%と低迷しました。

また、「超強化型加算」については半年間の総数で算定されるため、令和6年度1月・2月の在宅復帰割合が20%台にとどまったこと、さらに5月に入院に伴う退所者が増加したことにより、算定要件である在宅復帰率50%を5月のみ達成することができませんでした。しかし翌月には50%を上回り、令和7年度も継続算定が可能となりました。

なお、1月・2月の在宅復帰割合が伸び悩んだ背景として、丹後地域特有の積雪環境が大きく影響しています。独居や高齢世帯が増え冬季は転倒リスクの増大、通院・買い物など生活動線の確保が難しくなることから、在宅生活の継続が現実的に困難となり、地域全体として在宅復帰が進みにくい状況があります。

また、周辺地域の短期入所生活介護事業所において、一人当たりの利用日数が増加傾向にあります。そのため、老健に数か月単位で入所しなくても、ご家族の都合に合わせた短期間の利用や、ご利用者本人にとって負担の少ない日数での利用が選択されていると考えられます。実際に入所申請があり、当方から調整のうえ受け入れのご案内を行っても、既にショートステイの利用で生活が成り立っていることを理由に、ご家族より入所を見送られるケースも生じています。相談室として「在宅復帰率」「回転率」「入所稼働率」を細かく把握し、季節変動を見据えた退所調整、老健の役割やメリットを明確に伝える情報提供の強化、稼働率・在宅復帰率を安定させるため、病院・居宅ケアマネを中心とする在宅サービスとの連携強化に努めました。

毎月恒例行事として、ご利用者の生活に彩りを添えるため、相談室主催で月1回の「きんとくカフェ」を開催し、淹れたてのコーヒーをおやつの時間に楽しんでいただきました。また、可能な範囲で社会福祉学科の学生実習を受け入れるとともに、地域貢献活動として「須津なぎさカフェ」や、吉津小学校3年生を対象とした「認知症サポーター養成講座」を開催しました。

さらに、「ふれあいサロン」への参加者送迎を継続することで、地域の方々との交流を深めるとともに、地域での生活状況を把握する機会にもつながりました。サロン送迎や須津なぎさカフェを通じて得られた地域の声や相談については、必要に応じて速やかに関係機関と連携し、地域での生活が継続できるよう支援を行っています。その結果、「須津なぎさカフェ」への参加者も増え、地域活

動の広がりを感じています。

令和 8 年度も、在宅復帰支援と地域貢献に努めながら、ご利用者に寄り添った支援を継続してまいります。今後も、より良いサービスを提供できるよう取り組んでまいります。

在宅復帰・在宅療養支援等指標】

	令和 7 年度目標	獲得点数	令和 7 年度実績
1. 在宅復帰率	毎月 50%超	20 点	58%
2. ベッド回転率	毎月 10%以上	20 点	15%
3. 入所前後訪問指導	毎月 35%以上	10 点	49%
4. 退所前後訪問指導	毎月 35%以上	10 点	51.3%
5. 居宅サービス実施数	3 サービス継続	5 点	3 サービス継続
(通所リハビリ・訪問リハビリ・短期入所)			
6. リハ専門職の配置人数	5 人以上	5 点	7 人
(PT・OT・ST いずれも配置)			
7. 支援相談員の配置人数	3 人以上	5 点	4 人
(社会福祉士の配置あり)			
8. 重度者割合（要介護 4+5）	----	0 点	27%
9. 喀痰吸引の実施割合	----	0 点	0%
10. 経管栄養の実施割合	----	0 点	0%
指標点数/合計	70 点以上	75 点	75 点
入所稼働率	95%以上		91.7%

【算定要件】（基本型以上を算定するための要件）

- ・退所時指導等（a. 退所時指導の実施、b. 退所後の状況確認＜1 ヶ月以内＞）
- ・リハビリテーションマネジメント（リハビリ計画策定と評価の実施）
- ・地域貢献活動：加算型以上は必須
- ・充実したリハビリ（少なくとも週 3 回程度のリハビリ実施）：在宅強化型以上は必須

5. 機能訓練室(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)

前年度に引き続き、超強化型介護報酬の算定要件として、ご利用者全員に週 3 回以上の個別リハビリ介入を実施しました。短期集中リハビリテーション加算・認知症短期集中リハビリテーション加算については、感染対策のため中止となった期間があり、また年間を通して、加算の対象者が前年度より少なく、加算実施数が減少していました。また一時的な人員の減少のため、短期集中リハビリの介入回数を減らして対応していた時期があったことも要因として考えられます。

経口維持加算に関しては、7 月から言語聴覚士の正職員が 1 名減員となりましたが、代わりに非常勤職員の言語聴覚士を 2 階の専属として配置しており、前年度と変わらず加算の算定が行えています。また、前年度から継続し「ねもとリハビリテーション」への派遣や外部講師など、外部からの依頼に対応しています。

入退職については新しく入職者はなく、退職者が 1 名ありましたが、育休から復帰した職員 1 名あり、現在は比較的安定した状況となりました。まだ十分な人員とは言えず慢性

的な人員不足の状況下でも、ご利用者の満足度の低下を防ぐため、多職種連携を図りながらリハビリを提供していきます。さらに、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士それぞれが専門性を最大限発揮できる職場環境の構築を目指します。今後も、ご利用者の在宅復帰を支援するための取り組みを継続していきます。

6. 給食部門

令和7年度の給食部門は、職員の退職により厳しい体制下ではありましたが、調理部門を中心に他部署とも緊密に連携を図ることで、ご利用者への食事提供を滞りなく継続し、安心・安全な食の提供に努めることができました。

今年度は特に感染症対策を強化し、調理場への菌の持ち込み制限を徹底したほか、新型コロナウイルスやノロウイルス発生時には即座に個室対応や提供時間の調整を行うなど、状況に応じた柔軟な体制を敷きました。また、食材料費高騰への対応として工程や品数の見直しを行いながらも、スタッフが一丸となって知恵を出し合い、ご利用者に喜んでいただけるイベント行事や食事レクリエーションの提供に力を注ぎました。

一方で、職員の定着や育成が思うように進まないといった課題も浮き彫りとなり、今後は現在の職員がより意欲的に働けるような職場環境を築き上げることが、次年度に向けた重要な目標であると考えております。

①提供実績

(ア) 延食数

区分 年度	長期入所	短期入所	デイケア	天橋園通所	ハウゼ天橋	GH 天橋の家
6年度	32,694	2,630	5,639	4,590	2,567	4,870
7年度	32,482	2,142	5,894	4,710	2,631	4,604

(イ) 栄養基準（1日あたり）

項目 区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミン (μgRE)	ビタミンB (mg)	ビタミンB (mg)	ビタミン (mg)	食物繊維 (g)	食塩相当量 (g)
基準	1,480	60	600	39	7.5	460	0.8	1.0	90	15	7.5
6年度	1,484	60.2	516	41.5	6.4	553	0.69	0.92	84	11.8	7.4
7年度	1,485	59.6	515	42.4	6.2	551	0.66	0.89	80	11.7	6.9

(ウ) 食品群別摂取量（1人1日当たり食糧構成）

（単位：g）

群 類 区 分	穀類	いも及びでん粉類	砂糖及び甘味料	菓子類	油脂類	種実類	豆類	魚介類	肉類	卵類	乳類	淡色野菜類	緑黄色野菜類	果実類	藻類	嗜好飲料類	調味料及び香味料	調理加工品類
目標	210	60	10	40	8	3	50	60	40	35	200	200	150	60	3	－	－	－
7年度	206	51	15	28	8	2	44	59	50	25	200	166	126	58	1	10	53	22

7. 医務室(診察室、薬局、医師、歯科衛生士、薬剤師、看護師)

医師の適切な管理のもと、看護師、歯科衛生士、薬剤師が中心となり、医薬品や検査キット、医療機器などの備品整備を通じて、診察室および薬局の運営体制の向上に努めました。

また、入所時のリスク説明書、病状報告書、看取り同意書（人生最終段階における医療・介護に関する同意書）を用意・活用することで、ご家族への説明と同意（インフォームド・コンセント）を実施しました。さらに、ご利用者ファイルの先頭にこれらの書類を添付し、急変時や看取りケアにおいて迅速かつ確実な対応を図りました。

新型コロナウイルスへの対応として、発熱などの症状を認めた方に抗原検査や PCR 検査を実施し、感染防止策を徹底しました。また、インフルエンザ感染対策として、ご利用者へのワクチン接種を実施し、職員には無償で接種の機会を提供しました。

歯科衛生士が入所者の口腔内衛生を丁寧にチェックし、その結果に基づき口腔衛生管理加算を取得しました。ご利用者に使用する歯ブラシ等の洗浄・保管方法を適切にするために見直しを行いました。

8. 短期入所療養介護事業所

短期入所サービスにおいては、長期入所をご利用いただいた方が在宅復帰後も引き続き当施設の短期入所サービスを利用されるケースが増加しています。この動向を受け、在宅復帰後の生活を支えるための継続的な支援体制を一層強化しました。

さらに、短期入所サービスを利用することで、在宅介護者の負担軽減やご利用者への継続的なリハビリ支援が可能となり、地域のニーズに応じたサービス展開を実現しました。これらの取り組みにより、新規ご利用者の増加に繋がり、施設の利用率向上と地域への貢献をさらに深める成果を達成しました。

①利用者の状況

(ア) 新規契約者(延人数)

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	20 人	7 人	22 人	10 人
内 予防	0 人	0 人	0 人	0 人

(イ) 地区別 入所状況(延人数)

年度 \ 介護度	宮津市	与謝野町	伊根町	京丹後市
6 年度	18 人	17 人	0 人	2 人
7 年度	14 人	14 人	1 人	1 人

(ウ) 介護度別 入所者数・平均介護度(延人数)

(単位：人)

区分 \ 介護度 性別	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
6 年度	2	3	7	24	8	7	9	31	15	17	41	82
7 年度	0	1	1	7	2	4	3	9	1	4	7	25
平均要介護度	6 年度		3.4		7 年度		3.23					

(エ) 介護度別 延入所状況

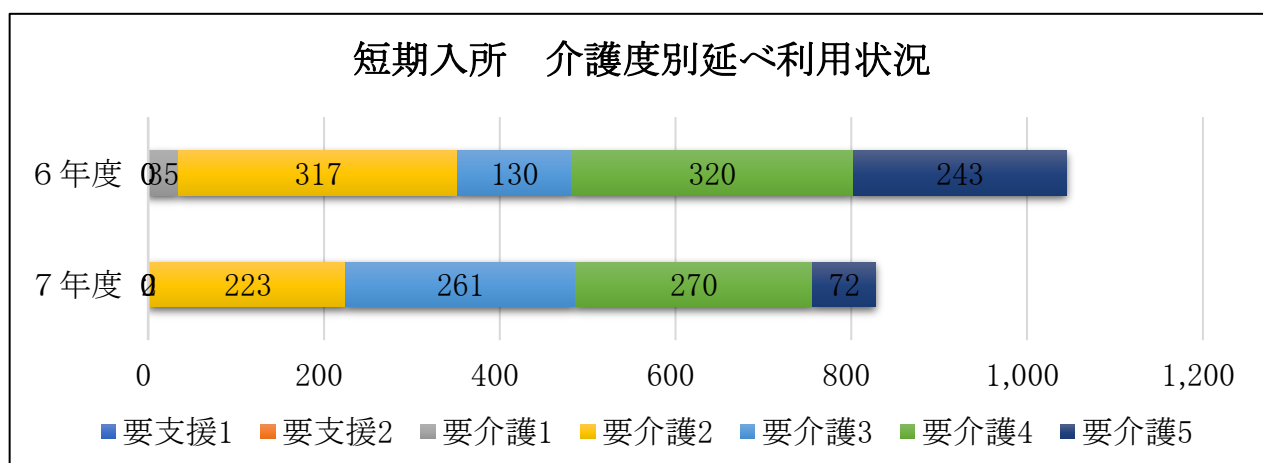
介護度 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
6 年度	0 人	0 人	35 人	317 人	130 人	320 人	243 人	1,045 人
7 年度	0 人	0 人	2 人	223 人	261 人	270 人	72 人	828 人

②加算算定の状況

加算項目 (単位) 年度	送迎加算 (184)	個別リハビリ (240)	夜勤職員配置 (24)	認知症専門ケ ア加算 I (3)	生産性向上推 進体制加算 I (10)	認知症ケア加 算 (76)
算定延回数(回)	192	363	828	400	18	322
加算収入額(円)	353,280	871,200	198,720	12,000	1,800	244,720

加算項目 (単位) 年度	療養食加算 (8)	重度療養管理 加算 I (120)	介護サービス体 制加算 II (18)	在宅復帰療養 加算 II (51)	介護職員処遇改 善加算 I 等	加算収入額合 計
算定延回数(回)	810	15	828	828		3,144,480
加算収入額(円)	64,800	18,000	149,040	422,280	808,640	

※介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和 6 年 6 月から処遇改善加算（Ⅰ～Ⅴ）として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。



9. 通所リハビリテーション

令和 7 年度も、感染症予防対策を全職員で徹底し、ご利用者へ注意喚起を行い、利用中に感染者が発生した場合には速やかに主治医やご家族へ連絡し、帰宅対応を実施することで集団感染を防ぎつつ、サービスの提供を継続しました。

また、大雪や台風などの気象状況が悪化した際や警報発令時には時短営業など状況に合わせた対応を行い、完全休業とせず、なるべくご利用者の生活を支えられるような対応を行いました。

通所リハビリとして、退院直後のリハビリ継続が必要な方やご家族が安心して在宅生活を継続できるように、新規の申し込みがあれば優先的に受け入れの調整を行いました。が、デイケア卒業者が少ないため空きがなくお断りすることも多く、本来のデイケアの役割を果たせず心苦しいこともありました。

介護職員はもとより、リハビリ職員、看護職員、歯科衛生士など専門職を継続して配置し、多職種での協働の結果、ご利用者の安心・満足度も増して、安定した稼働率につなが

りました。

①利用実績

(ア) 平均利用者数・利用率(要支援含む)

年度 \ 区分	利用定員/日	営業日数	延利用者数	平均利用者数/日	利用率
6 年度	27 人	258 日	5,744 人	22.3 人	82.45%
7 年度	27 人	259 日	5,860 人	22.6 人	83.80%

(イ) 介護度別利用状況・平均要介護度(介護給付事業)

年度 \ 介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均要介護度
6 年度	1,561 人	1,683 人	1,300 人	405 人	256 人	5,205 人	2.25
7 年度	1,562 人	1,708 人	1,372 人	352 人	288 人	5,282 人	2.26

(ウ) 年度別(新規契約者の状況)

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	31 人	30 人	25 人	20 人
内 予防	2 人	4 人	1 人	2 人

②加算算定の状況

加算項目 (単位) 年度	入浴介助加算 Ⅰ (40)	入浴介助加算 Ⅱ (60)	口腔機能向上 加算Ⅱ (160)	リハマネ提供 加算 1 (12)	リハマネ提供 加算 2 (16)	リハマネ提供 加算 3 (20)
算定延回数(回)	4,794	220	1,758	3	37	2
加算収入額(円)	1,917,600	132,000	2,812,800	360	5,920	400

加算項目 (単位) 年度	リハマネ提供加 算 4 (24)	リハマネ提供 加算 5 (28)	認知症短期集 中リハ (240)	科学的介護推 進体制加算 (40)	退所時共同指 導加算 (600)	介護サービス 体制加算Ⅰ (22)
算定延回数(回)	5,235	3	212	939	7	5,282
加算収入額(円)	1,256,400	840	508,800	375,600	42,000	1,162,040

加算項目 (単位) 年度	介護職員等処遇 改善加算Ⅰ等	加算収入額合計
算定延回数(回)		12,955,680
加算収入額(円)	4,740,920	

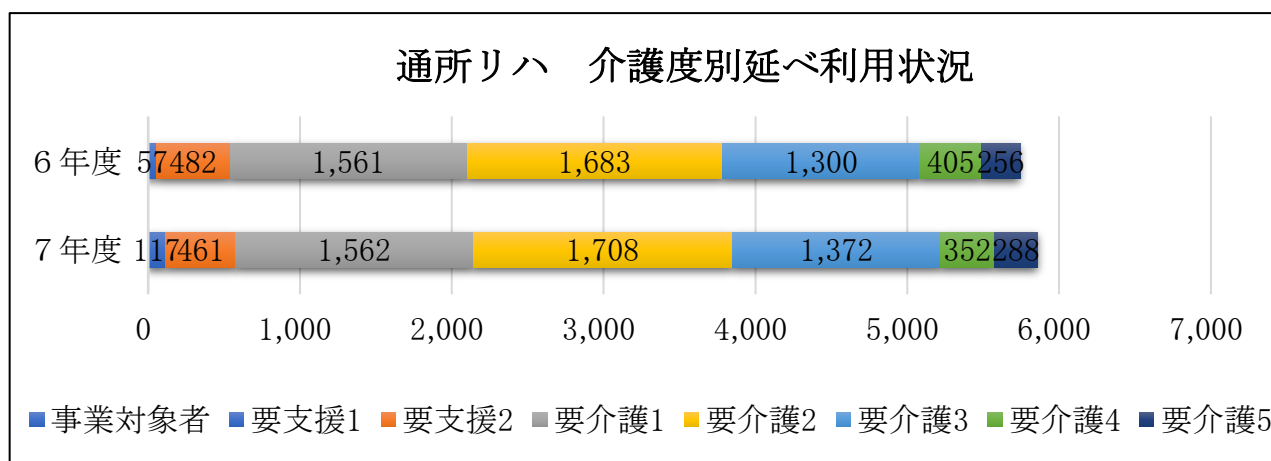
(エ) 介護度別利用状況(介護予防事業)

年度 \ 介護度	要支援 1	要支援 2	介護予防計
6 年度	57 人	482 人	539 人
7 年度	117 人	461 人	578 人

加算項目 (単位) 年度	口腔機能向上 加算Ⅱ(160)	体制加算Ⅰ 1(88)	体制加算Ⅰ 2(176)	一体的サ ービス 提供加算 (480)	リハ科学的介 護推進体制加 算(40)	介護職員処遇 改善加算Ⅰ等
算定延回数(回)	50	30	90	70	220	
加算収入額(円)	80,000	26,400	158,400	336,000	88,000	398,770

加算項目 (単位) 年度	加算収入額合計
算定延回数(回)	
加算収入額(円)	1,087,570

※ アップ等支援加算が統合され、令和6年6月から処遇改善加算（Ⅰ～Ⅴ）として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。



10. 訪問リハビリテーション

令和7年度は、前年度に引き続き、入所兼務の理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士1名の4名体制（常勤換算1.7名）で運営しています。前年度と比べると、要介護の訪問件数は減っていますが、要支援の訪問件数が増えています。また、今年度も計画書未実施減算を算定しないよう取り組んでおります。言語聴覚士の宣伝・営業を積極的に行ったことで言語聴覚士の利用者数も前年度に比べて増えています。

今後も感染症対策に十分配慮しながら、ご利用者のニーズに応じた専門性の高いリハビリテーションを提供できるよう努めてまいります。

(ア) 介護度別 延利用状況

介護度 年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
6年度	272人	64人	473人	884人	971人	543人	572人	3,779人
7年度	289人	108人	476人	1,144人	943人	459人	377人	3,796人

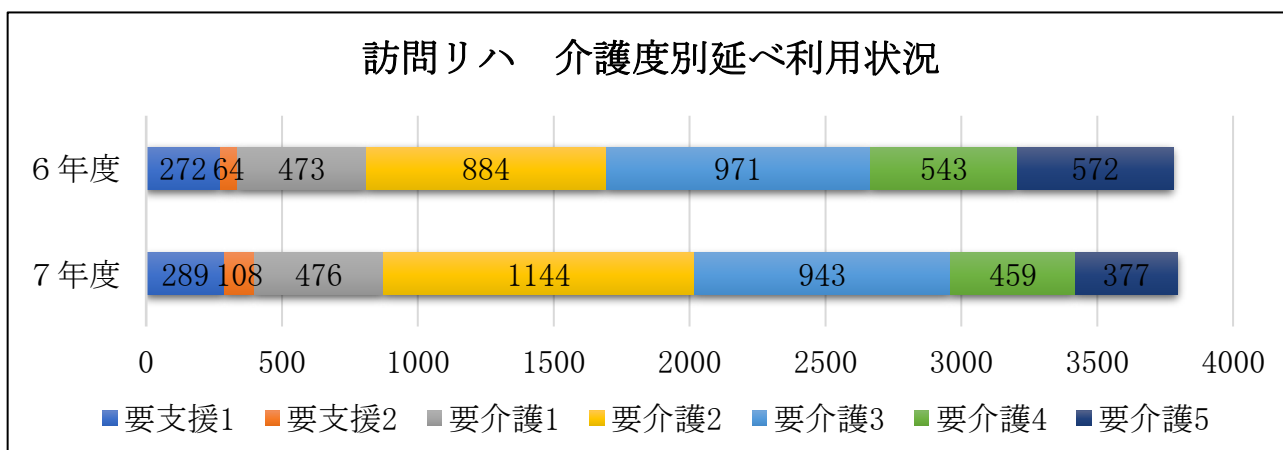
(イ) 年度別（新規契約者数の状況）

	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度実績
新規契約	12人	7人	9人	5人
内 予防	2人	1人	2人	2人

①利用実績・加算算定の状況

加算項目 (単位) 年度	訪問リハビ リ (308)	短期集中リハ 加算 (200)	サービス提供 体制加算 I (6)	リハ移行支援 加算 (17)	退所時共同指 導加算 (600)	予防訪問リハ ビリ (298)
算定延回数(回)	3,391	0	3,391	1,165	0	413
加算収入額(円)	10,444,280	0	203,460	198,050	0	1,230,740

加算項目 (単位) 年度	予防サービス 提供体制加算 I (6)	加算収入額合計
算定延回数(回)		12,101,310
加算収入額(円)	24,780	



1 1. 居宅介護支援事業所

令和7年度も6人体制を維持し、宮津市(栗田地区から大島地区まで)や与謝野町岩滝地区を中心に新規受け入れを積極的に行い、安定した件数を維持することができました。

ご利用者の心身の状況や生活状況を勘案し、ご利用者やご家族の意向を尊重した上で、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、ご利用者の立場に立った居宅サービス計画書を作成し支援を行いました。

医療連携では、安心ネットを利用し、主治医や関係機関と連携を密にすることで情報共有を図り支援に繋げました。また退院退所時には、カンファレンスに参加し、情報を得ながら、適切な介護サービスを提供できるよう関係事業所との情報共有や確認を行いました。

困難事例に対しては、事業所内で報告や相談を行い、必要時には、地域包括支援センターと協働し、担当者の負担軽減に努めました。様々な事情を抱えているご利用者に対し、適切な支援が行えるように介護支援専門員研究会や地域ケア会議等、研修会に積極的に参加し、意見交換や他職種と交流する機会を持ち、また、法人内での定例会議や事例検討会を開催しケアマネジャーとしての資質向上に努めました。

ターミナルケアマネジメント加算は、9件と要件の15件に至っていません。退院退所加算についても算定する要件を満たす機会は増えず医療介護連携加算を算定することはできませんが、引き続き特定事業所加算Ⅱの算定に加えて、医療介護連携加算再開に向けて努力を継続していきます。

今後も、ケアプランデータ連携システムやチャットワークに加え、各種 AI ツールを活用することで、さらなる業務効率化とコストの削減に心がけます。

(ア) 相談件数

年度 \ 内容		介護保険 その他福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待
6 年度	実数	293 件	11 件	10 件
	延数	26,998 件	185 件	21 件
7 年度	実数	315 件	14 件	12 件
	延数	26,565 件	80 件	46 件

(イ) ケアプラン作成管理件数

	延べ人数	実件数
6 年度	2,606 人	293 件
7 年度	2,815 人	282 件

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

介護度 \ 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
6 年度	38 人	63 人	929 人	865 人	400 人	267 人	145 人	2,707 人
7 年度	21 人	65 人	988 人	856 人	453 人	291 人	141 人	2,815 人

(エ) 年度別別（新規契約者の状況）

	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
新規契約	79 人	72 人	82 人	64 人

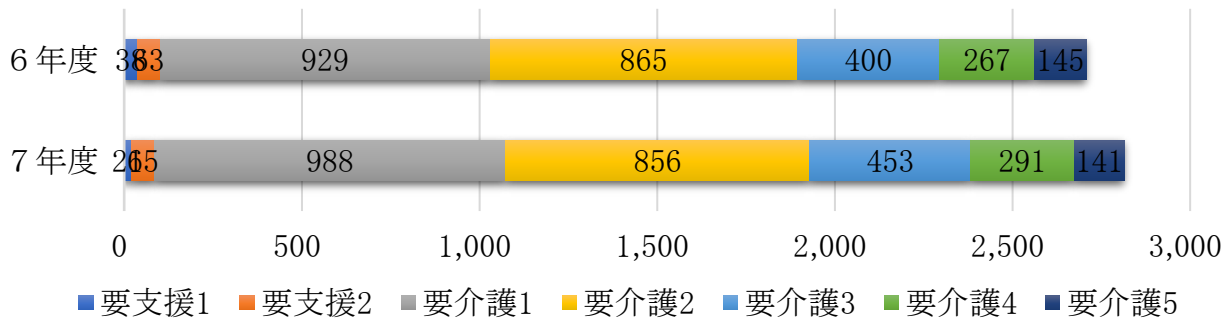
加算算定の状況（居宅介護支援）

（単位：回）

加算項目 \ 回数 金額	特定事業所加算Ⅱ (421)	入院時情報 連携加算Ⅰ(250)	入院時情報 連携加算Ⅱ(200)	退院退所加算 Ⅰイ(450)	通院時情報 連携加算(50)
算定回数(回)	2688	51	22	12	46
加算収入額(円)	11,316,480	127,500	44,000	54,000	23,000

加算項目 \ 回数 金額	ターミナルケア 加算(400)	加算収入額合計
算定回数(回)	8	11,596,980
加算収入額(円)	32,000	

居宅介護支援 介護度別プラン作成延べ人数



1 2. 事務部門

令和7年度は世間の感染症への捉え方の緩和により、一部面会・職員の出勤停止期間の見直しを図りながら、ご利用者の安心安全な生活を確保するため引き続き感染症対策を優先事項として運営を行いました。新型コロナウイルス・ノロウイルスの同時期発生や、インフルエンザの発生により一時入所受け入れを止めることがあり、稼働率が落ち込んだことが収入減少の起因となりました。また職員不足の問題に対し、生産性の向上を課題に業務見直しや施設内におけるコミュニケーションツールとしてGoogle Workspaceの導入により、スムーズな連絡体制の構築、AIを導入した業務の効率化を進めることが可能となりました。働きやすい職場づくり、ご利用者の安全な生活を確保するため全部署に移乗用リフトの導入を行いました。これまで複数人での介助を要す場面でも職員の負担を軽減し援助ができたことは腰痛予防対策となりました。

開設25年が経過しこれまで不安視されていた設備についても更新を行うことができました。

【おむつ等販売】

年度 \ 項目	販売数
6年度	152 パック
7年度	129 パック

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月12日	105人	年1回
腰痛健診	9月12日 2月9日	74人 67人	半年に1回
深夜業務従事者健診	2月9日	38人	年1回
ストレスチェック	9月12日	74人	年1回

【職員研修参加状況】

①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
サービス向上委員会	21人	接遇マナー
看護部	16人	令和6年度看護部伝達研修会

	35 人	令和 6 年度活動報告会（①居宅・②給食・③機能訓練）
事務長	78 人	職員全体会議「令和 6 年度の振り返りと令和 7 年度の目標」 個人情報」保護について・プライバシーの保護について
感染症予防対策委員会	27 人	感染症振り返り
リスクマネジメント委員会	30 人	感染対応中のリスクマネジメント
身体拘束虐待防止委員会	15 人	身体拘束廃止・虐待防止①
安全衛生委員会	20 人	業務継続体制（BCP）①自然災害
リスクマネジメント委員会	12 人	事故防止対策（リスクマネジメント）②
安全衛生委員会	19 人	最新エビデンスから知る肩こり／腰痛対策
認知症ケア委員会	26 人	認知症及び認知症ケアに関する研修
皮膚排泄ケア委員会	16 人	皮膚排泄ケアについて
身体拘束虐待防止委員会	23 人	高齢者虐待防止研修
感染症予防対策委員会	22 人	感染症 BCP 訓練・対策見直し研修
	37 人	活動報告会（2 階介護・3 階介護・看護部）

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修の開催方法・研修内容
令和 7 年度京都府主任介護支援専門員研修	12 人	主任介護支援専門員の役割と視点 ケアマネジメントの実践における倫理的な課題に対する支援 終末期ケアを含めた生活の継続を支える 等
京都府看護協会実践能力向上研修	4 人	「感染症の基礎知識と看護」 「看取り基礎研修」
令和 7 年度第 1 回甲種防火管理者講習	2 人	防火管理の意義と制度の概要 回取り扱いの基本知識 等
きょうと福祉人材育成認証制度 2025 年度支援メニュー プログラム 福祉業界の DX リテラシー	2 人	DX の基本と必要性、福祉業界の現状を理解
令和 7 年度キャラバン・メイド養成研修	1 人	認知症サポーターに伝えたいこと（講義）認知症サポーター養成講座の運営方法（講義）グループワーク
令和 7 年度特定給食施設従事者等講習会	1 人	給食施設における衛生管理について オンライン研修
令和 7 年度宮津市介護支援専門員研究会	10 人	災害時の対応について 各事業所の BCP 計画について
安全運転管理者講習会	1 人	安全運転の為の情報提供
令和 7 年度第 2 回企業内人権啓発推進員研修会・京都府企業内人権問題啓発セミナー	1 人	公正な採用選考に関する説明 同和問題に関する講演
京都府看護協会 委員企画研修	2 人	職員が定着し成長できる職場つく職員が定着し成長できる職場づくりに向けて ～看護職のためのハラスメント対策～
令和 7 年度看護師の特定行為研修に係る説明会（第 1 回）	1 人	医療機関に所属する研修修了者の地域での活動と、活動を支える看護管理～再入院を減らす、地域医療支援病院の取組みを参考に～
令和 7 年度看護師実習指導者講習会	10 人	教育原理・教育心理 教育方法 実習指導の実際Ⅰ（講義）実習指導の実際（講義・演習） 看護の動向
2025 年度 京都市看護職能力向上・定着確保研修	1 人	感染対策プログラム・管理者コース

京都府介護支援専門員会 ケアマネジメントスキルアップ研修	1 人	ヤングケアラーの現状と支援 介護支援専門員の役割を考える
介護 NEXT フェス	4 人	令和 8 年度介護報酬改定ポイント・展示会
令和 7 年度第 1 回看護介護部会研修会	2 人	国が考えている介護現場における 2040 年を見据えた DX の未来
令和 7 年度医療安全シンポジウム	1 人	～ポリファーマシーのもたらす課題～
作業行動に起因する労働災害防止に関する説明会	1 人	労働災害の現状と直近の法改正等について 労働者の作業行動に起因する労働災害防止対策について
令和 7 年度難病従事者研修会	5 人	電源が必要な難病患者の防災を考える 難病患者（医療的ケア児・者）の災害対策支援
令和 7 年度歯科口腔保健従事者研修会	2 人	丹後地域の歯科口腔の健康にかかわる支援の実態について
宮津市企業人権教育推進協議会研修会	1 人	カスタマーハラスメント対策に取り組もう
食品衛生責任者 実務者講習会	1 人	食品衛生の情報 衛生法規 衛生管理等
令和 7 年度宮津市地域ケア会議	3 人	調剤薬局の活動について 事例報告 服薬管理が必要な方の事例
整体スクール「調圧法 PlusSchool」	1 人	調圧法大阪ベーシックセミナー
令和 7 年度生活支援体制整備事業	1 人	孤立をなくす地域の支えあい体験会

【地域貢献事業】

月	事業名	参加者数
毎月	須津なぎさカフェ	52 人
毎月 (1 月以外)	せせらぎの会サロン送迎	11 人
4 月・12 月	はしだて一斉清掃	3 人
7 月	令和 7 年度北丹地区「看護の日」イベント	1 人
11 月	宮津小学校 車いす体験	1 人
12 月	吉津小学校 認知症サポーター養成講座	3 人

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	実習内容	受入人数
4 月～10 月	京都府立看護学校	看護学生施設実習	17 人
2 月	兵庫大学	ソーシャルワーク実習Ⅱ	1 人
7 月・8 月・9 月・12 月	龍谷大学短期大学部	ソーシャルワーク実習	4 人
4 月・3 月	京都府介護支援専門員実務研修実習	介護支援専門員実習	1 人

【各種会議・委員会開催状況】

会議名	開催回数／年
業務運営会議	12 回
入所検討会議	47 回
ユニット会議	72 回
リーダー会議	24 回

部署別会議(各部署)	12 回
感染症予防対策委員会(臨時開催含む)	15 回
リスクマネジメント委員会	12 回
身体拘束虐待防止委員会	12 回
皮膚排せつケア委員会	12 回
安全衛生委員会	12 回
サービス向上委員会	11 回
認知症ケア委員会	5 回
栄養マネジメント委員会	2 回
生産性向上委員会	5 回
経口サポート委員会	24 回
苦情対応委員会	3 回
北星会施設長会議	24 回

施設・事業所別 職員数一覧

令和 8 年 3 月 31 日現在

事業名 北星会 法人本部

		事務局長	事務局次長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	のびのび	その他	ぼけつと		合計
実人数	常勤職員	1	1	6											8
	非常勤職員			1							7	1	6		15
常勤換算による人数		1.0	1.0	6.6							0.7	0.1	1.9		11.3

施設・事業所別 職員数一覧

令和 8 年 3 月 31 日現在

天橋園拠点

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	介護補助				合計
実人数	常勤職員			2	6	17	2								27
	非常勤職員					25	3			5	1				34
常勤換算による人数				2.0	6.0	25.9	3.8			2.5	0.8				41

事業所名 天橋園通所介護事業所

(利用定員 25 名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	その他	介護補助						合計
実人数	常勤職員			1		3									4
	非常勤職員					4	2	3							9
常勤換算による人数				1.0		5.6	1.6	1.6							9.8

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

※1名は管理者と兼務

事業所名 ハウゼ天橋通所介護事業所 認知症対応型通所介護

(利用定員 12 名) 介護予防含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	その他							合計
実人数	常勤職員			1		2	1								4
	非常勤職員					3	1	2							6
常勤換算による人数				1.0		3.5	1.2	0.9							6.6

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

※1名は管理者と兼務

事業所名 天橋訪問介護事業所

介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員						合計
実人数	常勤職員					2								2
	非常勤職員					14								14
常勤換算による人数						4.9								4.9

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

※1名は管理者と兼務

事業所名 グループホーム天橋の家

(利用定員 18名)

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	介護補助					合計
実人数	常勤職員				1	10	1							12
	非常勤職員					4			1					5
常勤換算による人数					1.0	11.9	1.0		0.8					14.7

※1名は管理者と兼務

事業所名 天橋園居宅介護支援事業所

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員						合計
実人数	常勤職員				5									5
	非常勤職員													0
常勤換算による人数					5.0									5.0

※1名は管理者と兼務

施設・事業所別 職員数一覧

令和 8 年 3 月 31 日現在

与謝の園拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医	運転手	介護補助		合計
実人数	常勤職員	1	2	4	6	46	4	1	6						70
	非常勤職員					15	6		4	3	1	1	5		35
常勤換算による人数		1.0	2.0	4.0	6.0	52.2	6.7	1.0	7.7	1.5	0.1	0.4	2.5		85.1

施設名 特別養護老人ホーム 与謝の園

(利用定員 長期 75 名・短期 15 名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医	介護補助			合計
実人数	常勤職員	1	2	3	1	36	4	1	6						54
	非常勤職員					7	3		3	2	1	5			21
常勤換算による人数		0.6	2.0	3.0	1.0	39.9	5.3	1.0	7.2	1.2	0.1	2.5			63.8

事業所名 与謝の園通所介護事業所

(利用定員 30 名) 介護予防・総合事業も含む・日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	運転手	その他					合計
実人数	常勤職員	1		1		5									7
	非常勤職員			1		5	2	1	1	1					11
常勤換算による人数		0.2		1.2		7.5	1.3	0.5	0.4	0.3					11.4

事業所名

与謝の園訪問介護事業所

介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員	1				6									7
	非常勤職員					1									1
常勤換算による人数		0.1				5.5									5.6

※介護予防・総合事業との兼務は含める。

事業所名

与謝の園訪問入浴介護事業所

介護予防も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員								合計
実人数	常勤職員	1				2									3
	非常勤職員					2	1								3
常勤換算による人数		0.1				0.3	0.1								0.5

※介護予防との兼務は含める。

事業所名

与謝の園居宅介護支援事業所

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員										合計
実人数	常勤職員				5										5
	非常勤職員														0
常勤換算による人数					5.0										5.0

※1名は管理者と兼務

施設・事業所別 職員数一覧

令和 8 年 3 月 31 日現在

天橋の郷・Re-Style・はまなす苑拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	言語聴覚士	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医	合計
実人数	常勤職員	1	2	5	1	54	6	1	2	8					80
	非常勤職員					11	4			2	4	1	2	1	25
常勤換算による人数		1.0	2.0	5.0	1.0	61.8	8.6	1.0	2.0	9.3	1.4	0.8	0.7	0.1	94.7

施設名 特別養護老人ホーム 天橋の郷

(利用定員 長期 70 名・短期 20 名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医	合計
実人数	常勤職員	1	2	2	1	42	3	2	8					61
	非常勤職員					7	3		2	3	1	1	1	18
常勤換算による人数		0.9	2.0	2.0	1.0	47.5	4.8	2.0	9.3	0.6	0.8	0.4	0.1	71.4

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 天橋の郷通所介護事業所

(利用定員 35 名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	介護補助	言語聴覚士					合計
実人数	常勤職員	1		1		7	1			1					11
	非常勤職員					1	1								2
常勤換算による人数		0.1		1.0		7.8	1.8			1.0					11.7

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 **Re-Style 通所介護事業所**

(利用定員 15 名/午前、15 名/午後) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	運転手							合計
実人数	常勤職員			1		2	1								4
	非常勤職員					2		1							3
常勤換算による人数				1.0		3.0	1.0	0.3							5.3

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

※生活相談員 1 名は管理者と兼務

※看護員 1 名は機能訓練指導員と兼務

事業所名 **はまなす苑通所介護事業所**

(利用定員 20 名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	介護補助							合計
実人数	常勤職員			1		3	1								5
	非常勤職員					1		1							2
常勤換算による人数				1.0		3.5	1.0	0.8							6.3

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

※生活相談員 1 名は管理者と兼務

※看護員 1 名は機能訓練指導員と兼務

施設・事業所別 職員数一覧

令和 8 年 3 月 31 日現在

なぎさ苑拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員・運転手	薬剤師	合計
実人数	常勤職員	1	3	4	6	36	13	3	3	1	1	1	7				79
	非常勤職員					11	2		1	1	1		3	3	2	1	25
常勤換算による人数		1.0	3.0	4.0	6.0	41	14.4	3.0	3.4	1.7	1.8	1.0	8.5	1.2	0.9	0.4	91.3

施設名 介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑

(利用定員 長期 100名・短期 空床利用型)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員	薬剤師	合計
実人数	常勤職員	1	3	4		31	13	3	3	1	1	1	7				68
	非常勤職員					10			1	1	1		3	3	1	1	21
常勤換算による人数		0.8	3.0	3.0		35.2	13.0	1.3	2.7	1.4	1.0	0.8	8.5	1.2	0.5	0.4	72.8

※施設長は医師。※相談員と介護支援専門員は兼務。

事業所名 なぎさ苑通所リハビリ事業所

(利用定員 27名) 介護予防も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	運転手			合計
実人数	常勤職員	1				5		3	3	1		1					14
	非常勤職員					1	2		1	1	1			1			7
常勤換算による人数		0.1				5.8	1.4	1	0	0	0.8	0.2		0.4			9.7

※介護予防との兼務を含む。

事業所名 なぎさ苑 訪問リハビリ 介護予防も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員				合計
実人数	常勤職員	1						3	3	1							8
	非常勤職員								1	1							2
常勤換算による人数		0.1						0.7	0.7	0.3							1.8

※介護予防との兼務を含む。

事業所名 なぎさ苑居宅介護支援事業所

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員									合計
実人数	常勤職員				6												6
	非常勤職員																0
常勤換算による人数					6.0												6.0

※1名は管理者と兼務